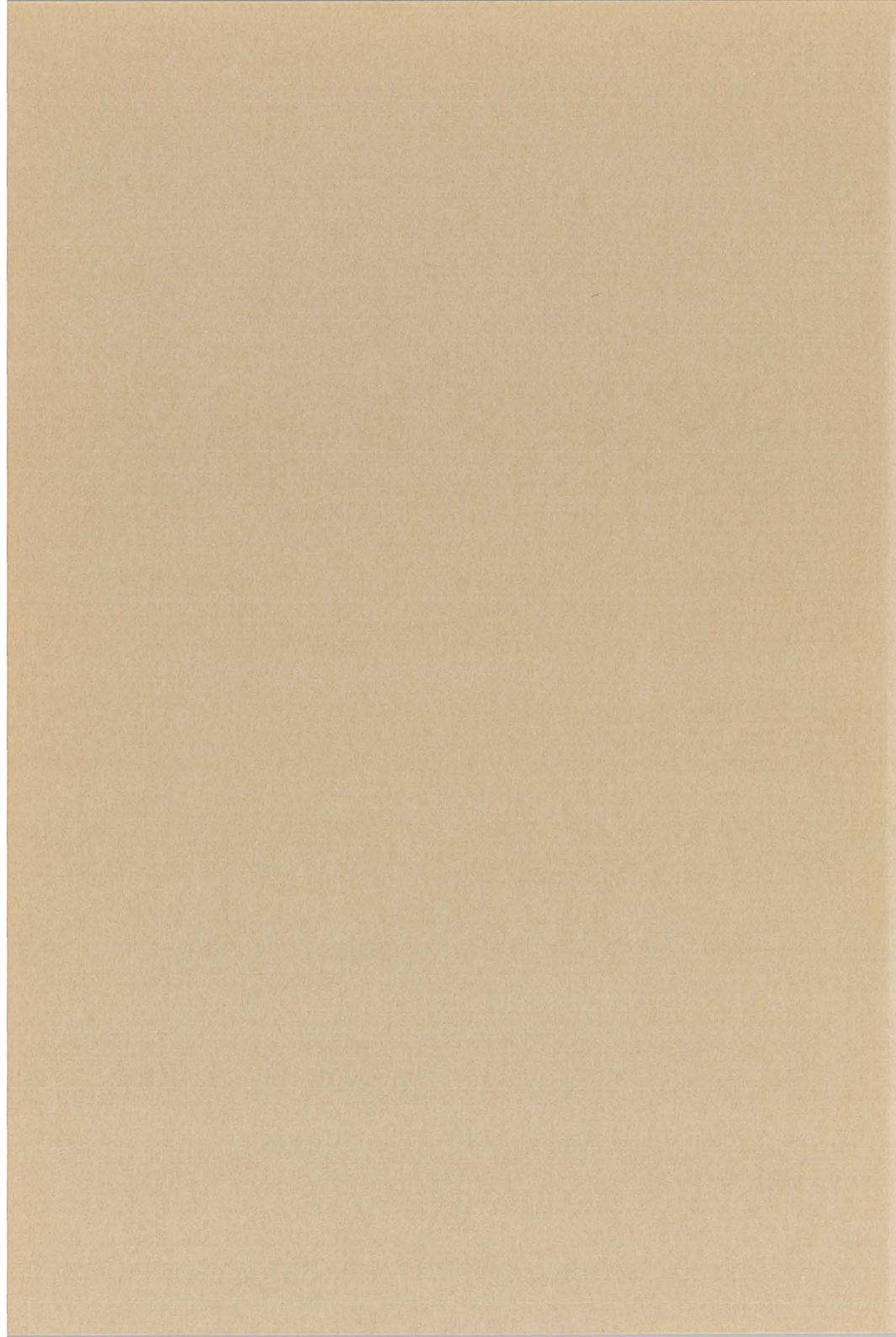


ISSN 1344-476X

財団  
法人 東洋文庫年報

2010年度

財団法人 東洋文庫





## 目次

I	2010年度の東洋文庫	1
II	図書事業	4
	1. 資料の収集	4
	2. 資料の整理	5
	3. 資料の利用と複写サービス	6
	4. 書庫資料の見学と研修	10
	5. 資料の保存整理と複製	10
	6. 書誌情報の公開	10
	7. 電子図書館情報システム	12
III	研究事業	14
	1. 調査研究	14
	A. 超域アジア研究	14
	B. アジア諸地域研究	16
	C. 資料研究	29
	D. 地域研究プログラム	30
	E. 受託研究	31
	F. 日本学術振興会科学研究費補助金による調査研究	32
	G. その他の民間学術助成金による調査研究	32
	H. 東洋文庫研究員等研究課題一覧	33
	2. 研究資料出版	40
	A. 定期出版物刊行	40
	B. 論叢等出版	41
	C. 研究資料の復刻・増刷の刊行サービス	41
	3. 研究情報普及	42
	A. 講演会	42
	B. データベース公開	44
	C. 研究者の交流および便宜供与のサービス	44

4. 普及・広報活動	48
A. 展示企画	48
B. 東洋文庫ホームページの運営	48
C. 東洋文庫友の会の運営	49
D. グッズ製作・販売	49
E. その他	49
5. 研究員等の研究業績	50
IV 業務報告	109
1. 総務報告	109
2. 人事報告	111
3. 会計報告	113
V 役職員名簿	122
1. 役員	122
2. 評議員	123
3. 東洋学連絡委員会委員	123
4. 名誉研究員	124
5. 職員・研究員	125
6. 客員研究員	128



# I. 2010 年度の東洋文庫

2010 年度において東洋文庫が実施した諸事業の経過、及び内容の要旨は次の通りである。

まず本年度内に生じた役員・職員の異動について述べる。6月の評議員会にて、任期満了となった理事中根千枝、斯波義信、山川尚義の各氏は全員が再任された。これにて、当文庫は理事13名、監事2名、評議員17名の体制となった。

又、6月1日より平野健一郎氏に研究顧問に就任頂いた。

職員では、かねてより療養休職中であった総務部青木部長代理が5月に退職された。一方8月に昨年より嘱託として勤務していた牧野氏を普及展示部の主幹研究員として採用した。又、同じく8月より、普及展示部の研究員(学芸員)として岡崎礼奈氏を嘱託採用した。

文庫の建替えは順調に進行し、12月末に新本館が完成、1月中旬より新本館での勤務を開始した。又、旧書庫並びに三菱史料館から新書庫への図書移動も3月末までに完了した。但し、3月の東日本大震災にて配架済みの図書が多数落下し、その整理に時間を要する事態となったので、閲覧再開は2011年6月1日とした。今後、旧書庫の解体、付属棟改築(レストラン)、外構工事を経て、2011年9月末に完工予定。本建替え工事に際し、埋蔵文化財の発掘調査を行ったが、その報告書が出来上がった。当文庫用地には縄文時代の村落があった事、江戸時代には前田藩の屋敷があった事等、興味深い事実も判明した。

図書部関係では、懸案のモリソン文庫のデータ上の分離が完了した。当文庫のデータベースへの月間アクセス数は本年度秋頃より大幅に増加し、月間約15～16万件的レベルに達した。本年度の当文庫の図書の増加は、購入7,452冊・58件、受贈3,606冊、合計11,058冊・58件であった。

研究部では、本年度は定期出版物10冊の刊行に加え、論叢類5冊を発刊した。東洋学講座を春・秋それぞれ3回開講した。テーマは、春は「中央アジア出土資料をめぐる旅」梅村坦、「中東イスラーム世界と日本」三浦徹、「サンスクリット研究こぼれ話」原實、秋は「日本人のイスラーム理解」佐藤次高、「マンガ家たちの中国近代史」瀧下彩子、「戦後日米間のなかの中国研究と東洋文庫」平野健一郎、であった。

各種研究会・講演会を計 180 回開催し、合計参加人数は 1,888 人であった。又、受入れ外国人研究者 3 名、外国人研究者への便宜供与は、中国、英国、ロシア、台湾より 14 名であった。

普及展示部では、2011 年 10 月のミュージアム開館に向け、諸準備を進めている。5 月と 6 月には、瀧下研究員・牧野研究員が三菱地所と共に欧米の代表的な博物館を訪問し、見学・打合せを行った。又 12 月には岡崎研究員が約 1 週間、大英図書館に研修出張した。

今回の展示企画に当り、次の商標登録を行った。「エンカウンタ・ビジョン」「クレバス・エフェクト」「MPAG」「オリエント・カフェ」「東洋見聞録」。

財政面では、昨年度より年間収支は赤字となり、運営調整積立資産を取り崩している。当文庫は、特定公益増進法人の指定を受けており、2009 年 5 月に失効以降更新手続きを行い、大変延引ながら 2010 年 11 月に更新された。この更新遅延により、一部寄附金入金の手続き等を行わざるを得ず、関係先に迷惑を掛ける結果となってしまった。

内部統制の面では、当文庫の諸規定の整備を継続しており、「就業規則」の大幅改定と、それに付随し、「パート就業規則」、「育児・介護休業規程」、「時間外労働・休日労働に関する協定書」を整備した。他に、「組織運営規程」「給与規程」の改定と、「会計処理規程、附則 4」「公印規程、附則 1」の整備を行った。

新公益法人への移行については、当文庫は 2012 年 6 月申請を目標に準備を進めており、その手順等が 2 月の理事会・評議員会に報告された。

広報活動では、三菱広報委員会が発行している月刊誌「マンスリー三菱」に隔月で東洋文庫の貴重本の紹介が継続して行われている。

8 月末より 11 月初めの約 2 ヶ月間、三菱一号館で「三菱が夢見た美術館」展が開催され、静嘉堂と共に、当文庫も多数の出展を実施した。期間中の入場者数は約 9 万人で、当文庫グッズの売上も約 120 万円となった。又、これに併せ、一般向けの図録として「時空を超える本の旅 50 選」を制作した。

主要訪問者としては、三菱地所の福澤相談役に 5 月に工事進捗状況並びに書庫のご視察を頂いた。8 月には三菱東京 UFJ 銀行畔柳会長がご来訪。9 月には、ハーバ



ード・エンチン図書館のチェン図書館長が来日された他、三菱商事小林社長がご来訪された。

国際交流の面では、ハーバード・エンチン図書館並びにハーバード・エンチン財団との協力協定が締結された。又、アレキサンドリア図書館とも協力協定を締結した。

当文庫への個人からの寄附金の募金を行った。2007年以降に当文庫に5万円以上の寄付をして頂いた方々は、今後「名誉文庫員」と位置づけ、建替え工事の庭園工事に際しては、これら名誉文庫員のお名前を掲示する事とした。  
職員の福利厚生の一環として、三菱養和会へ法人加入した。

以上

## Ⅱ 図 書 事 業

### 1. 資 料 の 収 集

#### A. 資料購入

本年度資料購入費の支出総額は22,840,647円で、各部門別の冊数内訳は以下のとおりである。

	和漢書(うち非図書)	洋書(うち非図書)	計
超域・現代中国研究	266	7(7)	273(7)
超域・現代イスラーム研究	2	1,116	1,118
東アジア研究	364(25)	5	369(25)
内陸アジア研究	41(1)	59	100(1)
インド・東南アジア研究	0	52(42)	52(42)
西アジア研究	0	308	308
共通(継続・大型資料)	1,051(9)	314	1,365(9)
計	1,724(35)	1,861(49)	3,585(84)

※単位：冊(非図書資料はマイクロフィルム1リール、CD1枚を1冊に換算)

主な購入図書としては以下のものがある。

中国文化大革命関係資料 第28輯 第一至五十八分冊	38冊
モロッコ上院下院議事録	120冊
カザフスタン大地図帳	1冊
明清賦役全書 第一編	60冊
清朝前期理藩院満蒙文題本	24冊
岩清水(八幡宮)法楽一夜百首	1軸
ロヴグィック『和蘭人第1回東印度航海記』; ネック『和蘭人第2回東印度航海記』(仏語版)	
2巻合本	1冊
ギャンツェ・テンパンマ・カンギュル写本DVD	7枚
Montanus (A.): De Stadt Osacco(大阪図)	1枚
Montanus (A.): Cagoxuma(鹿児島図)	1枚



## B. 資料交換

出版物交換の実績は以下のとおりである。

区 分	受 贈			寄 贈		
	和漢書(冊)	洋書(冊)	計(冊)	国内(冊)	国外(冊)	計(冊)
単行本	925	372	1,297	713	441	1,154
定期刊行物	1,637	672	2,309	3,228	848	4,076
非図書資料	328	7	335	0	0	0
計	2,890	1,051	3,941	3,941	1,289	5,230

主な受贈資料としては、以下のものがある。

岩見隆氏寄贈アラビア語・ペルシア語資料	41冊
イラン・イスラーム共和国国民図書館寄贈資料	213冊
建国大学同窓会寄贈資料	94冊

## C. 蔵書数

収蔵する蔵書総数は975,130冊で、和漢書548,714冊、洋書396,616冊、複写資料29,800冊である。

## 2. 資料の整理

### A. 図書

整理冊数は次のとおりである。

和漢図書	2,402冊	(現代中国研究資料室の40冊を含む)
欧米語図書	259冊	(イスラーム地域研究資料室の18冊を含む)
アジア諸言語図書	3,519冊	(イスラーム地域研究資料室の1,783冊を含む)

整理した主な図書

(1) 新編中華人民共和国地方志	9冊
(2) 民国史料叢刊	1,128冊
(3) 回族典藏全書	235冊
(4) 新疆巡撫饒応祺本文献集成	38冊
(5) モロッコ上院下院議事録	150冊

## B. 雑誌

本年度の受入タイトル・冊数は次のとおりである。なお、そのうち新規受入誌は和・中・韓文 23 タイトル、欧文 12 タイトルである。

	タイトル数		冊数	
	和・中・韓	欧	和・中・韓	欧
受贈	500	170	1,637	672
購入	177	80	766	178
小計	677	250	2,403	850
計	927		3,253	

## C. 新聞

本年度は和・中・韓文で 30 種を受入れた。

## 3. 資料の利用と複写サービス

### A. 閲覧サービス

本年度、閲覧証の新たな交付は 113 名で、内訳は教職員 56 名（外国人 6 名）、研究機関関係者 18 名（外国人 6 名）、大学院生 17 名（外国人 6 名）、大学生 8 名（外国人 1 名）、その他 14 名（外国人 2 名）であった。前年度より交付数が 241 件減少した。その原因は、(1) 前年度は閲覧室の運営が国立国会図書館支部東洋文庫より財団法人東洋文庫に移行したのに伴い、支部時代の閲覧証の保持者に対して、改めて財団の閲覧証を交付したこと、(2) 2011 年 1 月より新本館への蔵書移転作業のため閲覧業務を休止したことが影響している。一昨年度は 103 名であるから、閲覧証の切替がほぼ完了し、平常値に戻ったと見るべきであろう。

閲覧開館日は 171 日、利用者数は 1,273 名、利用資料数は 21,801 冊で、詳細は次のとおりであった。

なお東洋文庫研究員および職員の研究室等での資料の利用は延べ 532 名、1,273 冊であった。

また蔵書移転作業に伴い、2011 年 5 月 31 日まで、閲覧(複写)業務を停止している。

(1) 開館日数および閲覧者数

	開館日数	閲覧者数	日平均	昨年同月比 (△印は減)
	(日)	(人)	(人)	(人)
2010年 4月	20	146	8	△ 18
5	17	124	8	3
6	21	148	8	△ 38
7	20	146	8	△ 61
8	21	158	8	△ 35
9	19	117	7	△ 31
10	19	119	7	△ 36
11	18	129	8	0
12	16	186	12	41
2011年 1月	—	—	—	—
2	—	—	—	—
3	—	—	—	—
計	171	1,273	8	△ 175

\*2011年1月から5月末まで新本館への蔵書移転のため閲覧業務を停止

## (2) 閲覧カウンター出納冊数

	和書		漢書		洋書		合計		日平均	昨年同月比 (△印は減)
	部数	冊数	部数	冊数	部数	冊数	部数	冊数		
2010年 4月	35	106	173	1,127	171	322	379	1,555	78	△ 1,794
5	24	102	153	947	108	307	285	1,356	80	△ 212
6	24	73	215	1,303	141	475	380	1,851	89	△ 423
7	68	271	163	1,124	340	590	571	1,985	100	△ 1,054
8	96	339	296	2,262	138	308	530	2,909	139	187
9	92	546	190	1,130	90	311	372	1,987	105	140
10	61	143	155	780	565	856	781	1,779	94	△ 553
11	62	232	142	823	1,620	1,852	1,824	2,907	162	638
12	72	559	210	1,456	2,291	3,457	2,573	5,472	342	3,182
2010年 1月	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
2	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
3	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
計	534	2,371	1,697	10,952	5,464	8,478	7,695	21,801	132	111
比率	10.88%		50.23%		38.89%		100.00%			

\*2011年1月から5月末まで新館への蔵書移転のため閲覧業務を停止

## B. 複写サービス

国内外の研究者・研究機関の便宜に供するために行ったもので、実績は下記のとおりであった。

### (1) マイクロ・フィルム

申込件数	紙焼用撮影齣数	紙焼提供枚数	フィルム提供齣数
148	6,774	7,087	307



## (2) 電子複写

申込件数	提供枚数
598	27,003

## C. レファレンス

受付数は目録室、閲覧室など合わせて 392 件であった。

## D. 資料の貸出

博物館・美術館などが主催しておこなう展覧会への資料の貸出は 6 件で、詳細は次のとおりである

	展覧会名	主催者	展覧会会期	開催場所	主な資料と数量
1	第62回式年遷宮記念 伊勢神宮と東海の まつり	名古屋市博物館 社団法人 霞会館 中日新聞社 東海テレビ放送	2010.4.17 ～ 5.31	名古屋市博 物館	『名陽見聞 図絵』ほか 全2点
2	栄西と中世博多展	栄西と中世博多展 実行委員会 福岡市博物館 西日本新聞社 NHK福岡放送局	2010.9.11 ～ 10.31	福岡市博物 館	『鈍鐵集』全 1点
3	海のむこうへのあ こがれー漂流記と 漂流文学ー	鈴鹿市	2010.10.6 ～ 11.28	大黒屋光太 夫記念館	『魯西亜國 漂舶聞書』 全1点
4	三菱が夢見た美術館 岩崎家と三菱ゆかり のコレクション	三菱一号館美術館 日本経済新聞社	2010.8.24 ～ 11.3	三菱一号館 美術館	『毛詩』ほか全 32点
5	歌麿・写楽の仕掛 け人 その名は蔦 屋重三郎展	サントリー美術館	2010.11.3 ～ 12.19	サントリー 美術館	『書物袋絵外 題集』ほか全4 点
6	岩崎彌太郎ー三菱の 誕生と岩崎家ゆか りのコレクションー	長崎歴史文化 博物館 長崎国際テレビ	2010.11.19 ～ 2011.1.10	長崎歴史文 化博物館	『禽鏡』ほか 全12点

#### 4. 書庫資料の見学と研修

建替工事および蔵書移転作業に伴い、2011年5月31日まで停止している。

#### 5. 資料の保存整理と複製

2006年度末をもって、製本室並びに撮影室が閉鎖され、原資料の保存整理と劣化資料のマイクロフィルムなどの作業を行わないことになった。

実施した作業項目と内容は次のとおりである。

雑誌合冊製本（外注）

479冊

#### 6. 書誌情報の公開

2010年度末現在、当文庫ホームページで提供している目録データベースは下記の38種である。

このうち2010年度新規公開分は※印で示す。各データベース名の後の（）は収録件数。

01	中国語逐次刊行物	(4,981件)
02	日本語逐次刊行物	(2,008件)
03	欧文逐次刊行物	(2,638件)
04	朝鮮・韓国語逐次刊行物	(811件)
05	漢籍資料オンライン検索	(65,505件)
06	新収蔵漢籍検索	(12,440件)
07	續修四庫全書	(6,231件)
08	越南本漢籍検索	(316件)
09	朝鮮本漢籍検索	(3,792件)
10	岩崎文庫（和書貴重書）	(7,966件)
11	ラテン文字資料	(90,106件)
12	辻直四郎文庫（洋書）の検索	(7,218件)
13	キリル文字資料	(11,719件)
※ 14	モリソン文庫資料検索 2010/8/6 公開	(15,694件)
※ 15	モリソン文庫資料分類検索 2010/11/8 公開	(15,334件)

16	中国語図書の検索	(52,493 件)
※ 17	中国語図書分類検索【暫定版】2010/6/2 公開	(28,187 件)
18	日本語図書の検索	(61,716 件)
19	韓国・朝鮮語図書の検索	(4,145 件)
20	藤井文庫オンライン検索	(1,444 件)
21	モンゴル語資料 検索	(1,606 件)
22	アラビア語図書の検索	(14,929 件)
23	ペルシャ語図書の検索	(12,512 件)
24	現代トルコ語図書の検索	(10,814 件)
25	オスマントルコ語図書の検索	(1,383 件)
26	イスラーム地域研究資料室収集資料 (アラビア語・ペルシア語・オスマントルコ語資料)	(4,168 件)
27	南アジア諸語 (アラビア文字) 図書検索	(3,620 件)
28	キルギス語図書全リスト (PDF)	(約 20 件) ★ 2009 年度に同じ
29	ウイグル語図書全リスト (PDF)	(約 1,100 件) ★ 2009 年度に同じ
30	カザフ語図書全リスト (PDF)	(約 240 件) ★ 2009 年度に同じ
31	スインディー語図書	(188 件)
32	チベット語文献 (河口慧海将来蔵外文献)	(約 500 件) ★ 2009 年度に同じ
33	チベット語文献 (米国議会マイクロフィッシュ版)	(約 4,000 件) ★ 2009 年度に同じ
34	ビルマ語図書の検索	(664 件)
35	インドネシア語・マレーシア語図書の検索	(311 件)
36	タイ語資料検索	(879 件)
37	南方史資料	(4,199 件)
38	榎文庫	(9,883 件)

注 1 : 「漢籍統合データベース」は、05 漢籍資料オンライン検索、06 新収蔵漢籍検索、07 續修四庫全書、08 越南本漢籍検索、09 朝鮮本漢籍検索の横断検索用と判断し、リストからは除外

注 2 : 「榎文庫 NDC8 による分類検索」は、35 榎文庫の検索方法の相違に過ぎないものと判断し、リストからは除外

注 3 : 件数を概算できないもののうち、件数に大きな変動がないものは、2009 年度年報の数字を用いた

## 7. 電子図書館情報システム

2010年度末現在、当文庫ホームページで提供している「東洋学多言語資料のマルチメディア電子図書館情報システム」は下記のとおりである。

このうち2010年度新規公開分は、画像データ：地図（中国関係）8件60コマ、奈良絵本・挿絵など32件1,556コマ、全頁データ：モリソンパンフレット97件1,672頁、動画データ5種である。（※印）

### 1. 画像データ

- 1) 地図
  - ※① 中華帝国図 他 222件(274コマ)
  - ② 江戸図 22件(22コマ)
- 2) 風景 8件(127コマ)
- 3) 浮世絵・美人画 28件(28コマ)
- ※4) 奈良絵本・挿絵など 70件(3,322コマ)
- 5) モリソン文庫 - 香港銅版画・水彩画等 392件(416コマ)
- 6) 考古器物（梅原考古資料） 15,343件

### 2. 全頁データ

- 1) 岩崎文庫 古籍善本 55件(7,618頁)
- 2) モリソン文庫 洋書稀覯本 18件(9,451頁)
- ※3) モリソンパンフレット(G. E. Morrison 収集、中国関係を中心とする小冊子、抜刷) 380件(7,018頁)

### 3. 動画データ

- 1) 香港の祭祀と演劇（概観）
  - ① 広東系 約50分
    - I 巡遊
    - II 儀礼
    - III - 1 六国封相（武戯）
    - III - 2 粵劇：双仙拜月亭（文戯）
    - ※III - 3 粵劇：再生紅梅記（文戯） [うち約30分]
  - ② 海陸豊系 約20分
    - I 巡遊
    - II 儀礼



- Ⅲ - 1 海陸豊劇：呂布（武戯）
- Ⅲ - 2 海陸豊劇：蕭光祖（文戯）
- ③ 潮州系 約 80 分
- Ⅰ 巡遊
- Ⅱ 儀礼
- Ⅲ - 1 楊門女将（文戯）
- Ⅲ - 2 楊門女将（武戯）
- ※Ⅲ - 3 宝蓮燈（文武戯） [うち約 30 分]
- ※Ⅲ - 4 守揚州（文武戯） [うち約 30 分]
- 2) 香港広東正一派道士の儀礼
- ① 龍躍頭太平清醮儀礼 約 50 分
- ② 粉嶺太平洪朝儀礼 約 50 分
- ※③ 八門功德 約 6 分
- 3) 中国（江西）の儺舞・儺戯
- ① 萍郷県の儺舞 約 60 分
- ② 万載県の儺舞 約 40 分
- ③ 婺源県の儺舞・儺戯 約 50 分
- ④ 南豊県石郵村の儺舞 約 30 分
- ⑤ 南豊県水南村の儺舞 約 30 分
- 4) 目連戯
- ① 浙江省紹興前良村調腔目連戯 約 50 分
- ② 祁門県栗木村目連戯 約 50 分
- ③ 福建仙遊目連戯 約 50 分
- ④ 湖南省湘西目連戯 約 10 分
- ※⑤ 莆田木身目連戯 約 30 分
- 5) 元宵祭祀
- ① 萍郷県元宵花灯会 約 30 分

### Ⅲ 研究事業

#### 1. 調査研究

##### A. 超域アジア研究

###### 〈超域アジア研究部門〉

###### (1) 現代中国研究班

「現代中国の総合的研究(2)」

総括 毛里和子  
政治 毛里和子<sup>W</sup>、天兒 慧、青山瑠妙、興梠一郎、唐 亮、平野 聡  
経済 中兼和津次、田島俊雄、加藤弘之、川井伸一、巖 善平、  
佐藤 宏、丸川知雄、梶谷 懐、寶劍久俊、唐 成  
国際関係・文化 平野健一郎、濱下武志、田中明彦、川島 真、貴志俊彦、  
黄 東蘭、砂山幸雄、高田幸男、古田和子、村田雄二郎  
資料 斯波義信、矢吹 晋、貴志俊彦<sup>W</sup>

現代中国は、政治、経済、社会の大改革を行い、その影響力は東アジアから広く世界に及びつつある。この動態を、歴史・文化の要因をも視野に収めながら、総合的に捉える研究体制（資料、政治、経済、国際関係・文化の各グループで構成）を構築した。資料の収集は東洋文庫の蓄積を基点としつつ、学際的研究と公開利用に向けて拡充と再編をはかる。その際、台湾中央研究院や中国社会科学院、ハーヴァード燕京研究所との学術交流など、海外・国内の研究機関との連携をいっそう強化し、政治、経済、国際関係・文化グループは研究会の開催を継続実施し、次年度以降における成果の刊行に備える。  
[研究実施概要]

- a) 資料グループは、2009年度に引き続き、モリソン・パンフレットの系統的な調査・研究を進めた。
- b) 政治グループは、政治・経済・行政・社会・法律各分野の専門家と陳情に関心を持つ中堅・若い研究者をメンバーとして隔月一回程度の研究会を

実施した。

- c) 経済グループは、「歴史的視野から見た現代中国経済」研究の第2部として、毛沢東時代の「社会主義経済」にかんする再検討を行うために、新たなメンバーによる研究会を開催した。
- d) 国際関係・文化グループは、前年度に続き、全体的な研究テーマ「戦後中国の国際関係と社会・文化変容」の下、2ヶ月に1回程度の研究会を開催した。
- e) 政治グループ、経済グループ、国際関係・文化グループとも、図書資料の購入に関しては、東洋文庫の現代中国研究資料センターと提携して、系統的な収書を行った。

## (2) 現代イスラーム研究班

「現代イスラームの超域的基礎研究

—議会主義の展開と立憲体制に関する一次資料の収集と比較分析研究—

総括 佐藤 次高◎

アラブ 池田美佐子、長沢栄治、小杉 泰、関本照夫、松本 弘、  
鈴木恵美

イラン 八尾師誠、松永泰行、黒田 卓、鈴木 均

トルコ 粕谷 元、小松久男、設楽國広、江川ひかり、大河原知樹、  
秋葉 淳、澤江史子

中央アジア 宇山智彦、小松久男<sup>W</sup>、湯浅 剛

世界の近現代イスラーム研究において、これまでほとんど用いられることのなかった中東諸国の議会文書（アラビア語、ペルシア語、トルコ語）を収集・整理・分析し、それぞれの地域（国家）に誕生した議会主義の政治思想と立憲体制の実態を比較・検討する。2009年度からは、新たに中央アジア諸国を比較の対象に加え、基本資料の収集と整理・分析を行う。これによって中東・中央アジアなどのイスラーム地域における国民国家の歴史的役割と今日的意義を一次資料にもとづいて総合的に考察する。他方、イスラーム関係資料の収集と整理、データベース化を推進し、日本における資料センターとしての充実をはかる。

[研究実施概要]

現代イスラーム研究班の活動は、資料の性格に対応してアラブ、イラン、ト

ルコ、中央アジアの4グループに分かれて実行される。アラブ、イラン、トルコグループの研究は、第1期（2003年-2008年）の実績を踏まえて実施された。

- a) アラブグループ：『A Guide to Parliamentary Records in Monarchical Egypt』（東洋文庫、2007）を利用して、議会文書の解読・分析を進めた。
- b) イラングループ：2005年度に作成した議会文書のインデクス（CD-Rom版）を利用して、議会文書の分析を進めた。
- c) トルコグループ：2006年度刊行の論文集『トルコにおける議会制の展開』を基礎に、関係資料の収集と議会文書の解析を進めた。
- d) 中央アジアグループ：2009年度に引き続き関係資料の収集と整理を行った。

以上の成果は、『全訳 イラン・トルコ・エジプト議会内規』として、2012年度に刊行する。

## B. アジア諸地域研究

現代アジアの複合的かつ動態的な発展を理解する上で、各民族が有する個性豊かな歴史と文化の基礎的研究が欠かせない。本研究は、アジアの現状に強い影響力もっている歴史・文化の諸要素につき、基礎的かつ長期の取り組みを要する総合的な研究を実施する。

### 〈東アジア研究部門〉

#### (1) 前近代中国研究班

##### ①「古代地域史研究－『水経注』の分析から－(2)」

総 括 太田幸男  
松丸道雄、藤田 忠、飯尾秀幸、初山 明、塩沢裕仁、  
多田狷介、窪添慶文、重近啓樹、池田雄一、金子修一、  
川合 安

本研究班では地域史という視点から、中国古代の地域社会の構造を検討してきた。その基礎となるのは『水経注』（原典6世紀、中国最古の地理書）とその諸注の再検討である。これを注文、疏文まで精読し、加えて考古学上の諸



発掘成果およびランドサット衛星地図などと合わせて分析するという歴史地理学的方法による研究に挑んでいる。また流域の古代遺跡と『水経注』記載の内容を合わせて検討することで、歴史的な自然環境・社会的実態を具体的に理解し、流域の地域社会の構造の変化を明らかにしていく。刊行を予定している『水経注疏訳注』渭水篇下巻及び洛水・伊水篇訳注もこれらの成果を反映させたい。渭水下流域及び洛水・伊水流域は「黄河文明」の中心地である。ここを「地域史」という観点から分析することは中国古代史研究においては新鮮な視点であり、『水経注』の研究という範疇を超えて、内外における中国古代史研究の新たな展開となる研究を目指している。

[研究実施概要]

- a) 陳橋驛復校『水経注疏』（江蘇古籍出版社刊）をテキストとし、「巻 19 渭水下」の講読を隔週の研究会において実施し、その成果を『水経注疏訳注 渭水（下）』として刊行した。
- b) 『水経注』洛水・伊水篇訳注の刊行準備として、渭水下流域及び洛水・伊水流域の地誌的記述及び考古学的調査・発掘報告を収集するため、調査を行った。

② 「宋代社会経済史用語解集成の作成とその電子辞典化」

総 括 斯波義信<sup>W</sup>

梅原 郁、千葉 熈、吉田 寅、渡辺紘良、妹尾達彦、  
長谷川誠夫

本グループがこれまでに作成・公刊した『宋史食貨志訳注（一）～（六）』（東洋文庫刊、1960年～2006年）、および『宋会要輯稿・食貨篇・社会経済用語集成』（東洋文庫刊・2008年）における訳注および用語の収集の成果をベースとして、整理と増補を加え、広範囲かつ多方面の利用者の便宜に適合するような冊子体およびCD-ROMの用語解説集を作成し、研究活動のいっそうの発展に資するプロジェクトである。

[研究実施概要]

- a) 2007年度以来採集してきた用語およびその解説の原稿上の項目数は約40,000に達している。この全てにカテゴリゼーションを付し、(イ) 財政用語、(ロ) 経済用語、(ハ) 社会用語、(ニ) 公文用語の四台範疇およびその下位範疇に仕分けるとともに、解説文の長さも大・中・小の三種に区分した。

- また、(イ) ~ (ニ) 各々ごとに約 3,000 用語に均衡して収まるように取捨し、全体で約 10,000 語内外を目処に整理した
- b) 電子辞書として多角的に検索できるフォーマットを作成し、原稿の中からサンプルとなる解説を選択して電子入力し、試用に供するベータ版 CD-ROM を作成した。
  - c) 本研究を推進するために不可欠な文献・参考書として、「判語」「筆記」「官箴」「方志」の類、「旧慣調査」「契約文書集」の類、専門著述などを収集した。

### ③ 「東アジア都城の考古学的調査・研究 (3)」

総 括 早乙女雅博  
田村晃一、飯島武次、妹尾達彦、井上和人、小嶋芳孝、  
清水信行

本研究班では、渤海を中心として東アジアにおける都城の比較研究を行ない、その研究成果として 2004 年度に『東アジアの都城と渤海』（全 394 頁）を、2006 年度に『渤海都城の考古学的研究 II』を公刊した。しかしその中心となる渤海上京龍泉府址（東京城）出土遺物の調査・研究は、予想以上に多数の遺物があったため、一部の遺物の調査・研究を継続実施する。

[研究実施概要]

上記遺物の調査を継続した。

### ④ 「前近代中国民事法令の変遷」

総 括 山本英史  
南 宋 大澤正昭、青木 敦  
元 代 鈴木立子  
明 代 鶴見尚弘  
明 清 岸本美緒、濱島敦俊、寺田浩明、西 英昭、高遠拓児

宋代以降の戸婚・田土・錢穀などを扱う「民事」法令を分析し、どのように変遷してきたかを明らかにする。中国の各時代の様々な法についての研究の中でも、近 20 年の特徴のひとつとして、法令の有効性、厳格性などを版牘文や契約文書によって検討する研究がなされてきたことがあげられる。契約文書や

多くの条例、版牘文などが発見され、また中国国内にあるものが利用しやすくなったことにもよろう。本研究班も過去5年間、この方向で研究活動をしてきた。この5年間の研究をとおして、あらためて法令そのものに視点をあてることが必要であることに到った。民事的な法令に限ったのは、社会状況を反映しやすく、社会の実態の変化を分析するに適していると見ているためである。一度できた法は常に現実社会に適合しにくくなってゆくが、時代を通して考察することにより、漢族社会の大きな変容をつかむことができると考える。

[研究実施概要]

- a) 2009年度に引き続き、宋～清の条例の収集を進め、特に宋・元期の文献資料について目録作成作業を行った。
- b) 収集した条例の整理、解説を行うべく、メンバー以外の研究者もふくめ、定期的に研究会を開催した。

## (2) 近代中国研究班

### 「20世紀前半日本の中国調査」

総 括 本庄比佐子  
経 済 久保 亨、金丸裕一、弁納才一、富澤芳亜、吉澤誠一郎  
政 治 内山雅生、松重充浩、田中比呂志  
文化・社会 飯島 渉、佐藤仁史、浅田進史、瀧下彩子

本研究は、近代中国研究班が、それ以前の近代中国研究委員会時代から引き継いで行ってきた研究で、1910年代から40年代にかけて日本の諸研究調査機関が、華北を中心とする中国で実施した調査活動に関する資料収集とその分析を継続するものである。従来の日本側資料に加え、本研究では中国側資料の検討も行い、華北を重点としながらも、地域的特質を検討するために、華中南を含めて全国的規模に対象地域を拡大する。そして日本側および中国側資料の活用について、近年の研究成果を踏まえながら、新たな視点から再整理をはかり、20世紀前半期の中国社会の全体像を考察する。さらに戦前・戦中期の日本の研究機関等による中国実態調査資料の収集を継続するとともに、中国の研究機関等との共同研究を発展させる。過去に、中国社会科学院、上海市档案馆、青島市社会科学院、山東社会科学院などの共同研究により、日本国内外に散逸していた近代中国研究にとって必要不可欠な資料の収集を実施してきた。本研究では、新メンバーの加入を契機に、交流拠点を北京大学や

南開大学、山西大学および南京大学等に拡大し、中国近現代史に関する重要資料の散逸を防ぐためにも、東洋文庫に資料を蓄積し、その分析を進めて目録・解題等を作成し、日中両国の共同研究を進展させる。

[研究実施概要]

- a) 前年度にひき続き、過去の研究でとり上げられなかった調査機関、例えば各地の日本領事館、および商工会議所等の報告書類に関する資料を、日本では東洋文庫の他に、外務省外交史料館、農林水産省農林水産政策研究所、防衛省防衛研究所図書館等で調査し、収集した。
- b) 研究成果の一部を、『近代中国研究彙報』に発表した。

### (3) 東北アジア研究班

#### ①「日本所在近世朝鮮文献資料研究(2)」

総 括 六反田豊

糟谷憲一、井上和枝、須川英徳、武田幸男、吉田光男、  
森平雅彦、山内弘一、山内民博

京都大学附属図書館、天理大学附属図書館今西文庫をはじめ、日本各機関・個人が所蔵している、2004年度以来継続してきた朝鮮近世の記録類の第2次調査を行い、解題目録の完成を期する。従来、近世朝鮮のいわゆる朝鮮本と言われる古典籍については、総合的な調査が進行し、ある程度その全貌が解明されてきた。しかし主として成冊と言われる、帳簿を中心とした、地方資料・民間資料などの記録については、全体的な調査がほとんど行われてこなかった。第1次調査では、すでに原地に残存が確認されていない資料を発見し、内容分析を行ってきた。第1次調査と今回の第2次調査によって、ほぼ日本における該当資料は悉皆的な調査を行うことができる。

[研究実施概要]

- a) 『日本所在近世朝鮮文献記録類解題II』の刊行にむけて、準備作業を進めた。
- b) 東京大学総合図書館所蔵資料や京都大学附属図書館所蔵資料を主要な対象として、個々の調査資料の分析やそれらの諸資料が日本に将来された経緯の調査・研究を行った。



## ②「清朝満洲語檔案資料の総合的研究（2）」

総括 松村潤

満洲語檔案 加藤直人、中見立夫、楠木賢道、細谷良夫、柳澤明

清代の第一公用語である満洲語は、清初ばかりでなく、清朝一代にわたって用いられた言語である。18世紀の乾隆帝代より、京師に暮らす旗人たちは、日常語として漢語をもちいるようになっていったが、文章用語としての満洲語は、民国にいたるまで継続して利用された。現在、北京・中国第一歴史檔案館には、約1千万件の文書資料が保存されているが、その半分は、満洲語（または漢語とのいわゆる合璧）によって記されたものである。このことは、清代の文書伝達体系全体において、満洲語の利用が不可欠であったことを示している。とくに入関前（1644年以前）および清初の時期の文書・書籍、ならびに旗人、藩部をはじめとする辺境地方、そして対外関係等の文書において、多くの場合満洲語が用いられている。本研究は、これら満洲語で記された、または場合によっては印刷された清代の文献資料について、清初期を中心として総合的に検討を加えようとするものである。

[研究実施概要]

- a) 清初の「内国史院」関係文献と『鑲紅旗滿州衙門檔案』の研究を実施した。
- b) 『内国史院檔天聰五年 I』を刊行した。
- c) また、前年度に引き続き、崇徳年間分の檔案研究を継続した。

## ③「清代東アジア・北アジア諸領域の歴史的構造分析（2）」

総括 石橋崇雄

岸本美緒 C. A. ダニエルス 柳澤明

中国では北京オリンピック開催準備をめぐる国家事業が急進するなか、それまで内在していた政治・経済・民族・文化問題がチベットをめぐる自治区の問題に端を發して表面化し、その影響は広く中央アジア・北アジア領域世界にも及んだ。そこには、中国内地の諸領域世界とその周辺に連なる諸領域世界との一体化を進展させた清朝の最大版図が直接に現代中国と繋がるなか、その一体化から生じた政治・経済・民族・文化の問題も現代中国に直結していた反映と捉えられる特徴が多々窺える。本研究班では、中国内地の諸領域世界とそ

の周辺に連なる諸領域世界との一体化を独自に進展させた清朝の国家領域構造と対外関係の問題を総合的に研究・分析してきた。刊行予定の英文論文集にその成果を反映させると共に、引き続き清代東アジア・北アジア諸領域における歴史的構造の全容を総合的に捉える研究体制を構築するべく、清朝の国家領域構造と対外関係を分析する上で不可欠な檔案（公文書）類のうち、保存収蔵状況が未詳な檔案類を中心に体系的に蒐集、整理、デジタル化し、今後の研究に貢献することを目的とする。

[研究実施概要]

- a) 清代中国西南民族史の各専門研究領域をもとに、既成の領域世界・時代区分の枠を越えて海外における図書館・檔案館・研究機関などに所蔵されている檔案文献史料類の史料調査・現地調査を実施して整理・分析作業を行った。
- b) 上記の文献史料類について、目録作成を進めた。

#### (4) 日本研究班

「岩崎文庫貴重書の書誌的研究 (2)」

総括 今西祐一郎  
語学 酒井憲二、柳田征司、石塚晴通  
文学 深沢眞二、上野英二、大谷俊太、辻本裕成、朽尾 武、  
宮崎修多  
思想・文化 斉藤真麻理、和田恭幸

東洋文庫所蔵の岩崎文庫には日本の文化・文学・言語を研究する上で重要な典籍が数多く所蔵されているが、その書誌的調査は未だ十分にはなされていない。2009年度までに室町時代以前に成立した古写本・古版本についての書誌解題（Ⅰ～Ⅵ）を公刊してきたことを受けて、ひき続き近世の成立ないしは刊行の貴重書を調査して研究の基盤を整備するとともに、その成果を広く公開することをめざしている。

[研究実施概要]

- a) 江戸期刊行・成立の歌書約 100 点について、書誌調査を行い、研究会を催してその資料群の全体像の把握に努めた。
- b) 上記 a) の成果を『岩崎文庫貴重書書誌解題Ⅶ』として公刊するため、編集作業を進めた。

## 〈内陸アジア研究部門〉

### (1) 中央アジア研究班

#### ① 「サンクトペテルブルグ所蔵古文献の研究—ウイグル文を中心として—」

総 括 梅村 坦<sup>W</sup>  
ウ イ グ ル 庄垣内正弘  
コ ー タ ン 小田壽典、松井 太、熊本 裕

東洋文庫が入手したサンクトペテルブルグの東洋学研究所のマイクロフィルムのうち、ウイグル語とソグド語については『東洋文庫所蔵 St.Petersburg ウイグル文字・ソグド文字・マニ文字写本マイクロフィルム仮目録 [第1稿]』として、初期の現地での実見データの一部を取り込んだフィルム番号整理一覧を、2002年に刊行した。その後、マイクロフィルムのデータを昨年までのプロジェクトでデジタル整理を続けた。ほぼ完成に至った目録の改訂版を原稿とし、冊子かデジタルデータの形で編集し直して刊行することは、内外研究者の要望に沿うことになる。ただし、東洋文庫と東洋学研究所の初期の契約の制約があるため、その刊行方法については慎重に検討をおこなうものとした。については、ウェブ上に未公開のものを含む大英図書館蔵のウイグル文字文献の一覧表などと合わせて刊行する可能性も検討したい。その中から、文書研究の成果についての論文をこれに付すこととする。

#### [研究実施概要]

- a) 2009年度に引き続き、目録整備情報をベースとして文献研究を進めた。
- b) 古ウイグル文を中心とする古文献の書式整理を通して分類をすすめるとともに、個々の古文献研究の文献リスト整備をおこなった。
- c) 漢文との合璧文献を中心として、2-(1)-③「漢語文献」グループとの協同研究体制を整えた。
- d) 「サンクトペテルブルグ東洋学研究所所蔵ウイグル文献目録(増補版)」(DVD版)作成準備を進めた。

## ②「近現代中央ユーラシアにおけるイスラームと政治権力」

総括 小松久男<sup>W</sup>

梅村 坦<sup>W</sup>、新免 康、濱田正美、長縄宣博、濱本真実、  
堀川 徹

ソ連解体（1991年）以後、中央ユーラシア近現代史研究は、大きく可能性が開かれた。これまでアクセスが不可能であった多種多様な史料が公開され、また現地の研究者との共同研究や外国人研究者による現地調査も可能になったことは、決定的な意味をもっている。こうした中で、本研究は次の2点を課題とする。

第一に、8世紀以降の中央アジア史を考えると、その政治と社会、文化においてイスラームが果たした役割を無視することはできないが、ソ連時代は無神論イデオロギーのためにイスラームに関わる諸問題は不当に軽視されてきた。いま新たな中央アジア史を再構成しようとするならば、この点を克服することが不可欠である。

第二に、ペレストロイカ以降、中央ユーラシア地域においてはイスラームの復興が顕著であり、イスラーム国家の樹立を目標とする急進派は、世俗主義を掲げる政権との間に鋭い緊張関係を作り出している。このような現代のイスラーム復興主義は、中央ユーラシア史の文脈においてどのように考えるべきだろうか。それには、近現代史におけるイスラームと政治権力との相互関係を実証的に検討することが不可欠である。

[研究実施概要]

- a) 2009年度に引き続き海外における史料収集を継続、タシュケント（ウズベキスタン）、カザン、サンクトペテルブルク（ロシア）などの図書館や研究機関のほか、各地の民間に所蔵されている史料の収集を現地の研究者や所蔵者の協力を得て行った。
- b) 新規収集史料と東洋文庫の蓄積してきた豊富な文献資料とを活用し、研究会の開催などを通して、上記の課題に関する研究を推進した。

## ③「サンクトペテルブルグ東洋学研究所所蔵内陸アジア出土漢語文献マイクロフィルム目録のデータベース化」

総括 土肥義和



梅村 坦<sup>W</sup>、片山章雄、妹尾達彦、荒川正晴、氣賀澤保規、  
關尾史郎、池田 温、岡野 誠

2002年に東洋文庫が世界にさきがけて入手した東洋学研究所の内陸アジア出土文書マイクロフィルム（全363リール、約25万齣）には、4、5世紀から15世紀に及ぶコータン・サカ語、西夏語、チベット語、ウイグル・ソグド語、漢語、チャガタイ・トルコ語、サンスクリット語、アラビア語、ペルシア語、満洲語、モンゴル語の11言語の文書が含まれている。このフィルム資料の目録をデータベース化してそれを公開することは、わが国だけでなく、諸外国の研究機関・研究者の希求するところ切なるものがある。

本研究は、上記フィルムの中からとくに漢語文献を抽出してそのフィルム目録のデータ化を図るとともに内陸アジア出土漢語文献の特性を明らかにすることを目的とする。

[研究実施概要]

- a) 敦煌出土文献 Reels 256 ~ 363 中、漢語文献のある40リールについて、リールに付された各文書整理番号とその齣数との対照作業を継続し、421件の文書を確認した。
- b) 上記文献中、『俄蔵敦煌文献』（上海古籍出版社、1993）に未収の漢語文献約700件について、内容の検討を行った。
- c) 定期的に「内陸アジア出土古文献研究会」を開催した。

## (2) チベット研究班

「チベット蔵外文献の書誌的研究 (2)」

総	括	吉水千鶴子		
仏	教	思想	川崎信定	
敦	煌	文	献	武内紹人
ポ	ン	教	御牧克己	
宗	義	文	献	松濤誠達
歴	史	山口瑞鳳		
密	教	図	像	立川武蔵

チベット研究班においては、新たに発見された写本を中心とするチベット語資



料を収集・保管し、歴史・文化・宗教の各分野にわたるチベット語文献の体系的網羅的なコレクションの充実をはかることを目的とする。収集した資料については目録化を行い、データベースとして公開すると同時に、敦煌チベット語文献、河口慧海将来文献などとともに東洋文庫所蔵チベット語蔵外文献として写本校訂と訳注研究を行い、電子データベースあるいはシリーズ刊行物として公開する。以上の3点により、世界的なチベット学の研究拠点として高い貢献を目指すものである。

[研究実施概要]

- a) 資料収集：近年中国で新たに発見された10～13世紀のチベット語写本の影印版、チベット語大蔵経文献、蔵外文献の電子版を収集し、その分析と目録作成をおこなった。
- b) チベット人研究協力者の協力のもとに、次の研究を行う。
  1. 筆記体写本の校訂：古いチベット語写本をチベット人協力者の指導を得て校訂し、活字体テキストデータベース作成をすすめた。
  2. 1のデータベースをもとに文献の分析・研究を行った。
  3. 『西蔵仏教宗義研究』シリーズの続刊として、トウカン『一切宗義』カダム派の章の訳注研究を刊行した。
  4. 敦煌を中心とする中央アジア出土チベット語文献の研究を行い、武内紹人研究員を中心に、『中央アジア出土チベット語文献研究』第1巻の刊行準備を進めた。

## 〈インド・東南アジア研究部門〉

### (1) インド研究班

「インド刻文史料の蒐集と研究」

総 括 辛島 昇  
サンスクリット 小名康之  
ウルドゥー 萩田 博  
ドラヴィダ 太田信宏、水野善文、石川 寛  
ア ー リ ヤ 三田昌彦

インド（南アジア）の刻文研究は、これまでわが国でごく僅かな研究者しかいなかったが、近年、ドラヴィダ系言語について石川寛、太田信宏、アーリヤ系言語について三田昌彦、古井龍介といった若手研究者が育ってきた。刻文は、「史書なきインド」の古代・中世史研究における根本史料であるにもかかわらず、そのようなこれまでの状況から、わが国においては、テキストおよび研究書の蒐集が充分とは云えない。

他方、インド自体での刻文研究は、テキストの出版が遅れていることと、若手研究者が育たないことによって、危機的な状況にあるとさえ云いうる。また、世界的にも、インド刻文の研究者数は、極めて少ない。

そのような状況に鑑み、わが国の研究機関において、未出版のものをも含めてインドの刻文史料を蒐集し、それを国際的に公開しながら、わが国の新しい研究者の力を結集して、インド古代史・中世史の研究進展を図ることは、わが国のインド研究に課せられた急務と云えよう。

#### [研究実施概要]

- a) 2009年度に引き続き、東洋文庫に所蔵のない刻文史料や、欠けているものについて、インド独立後の新しい出版物（とくに、州政府考古学局の）を購入、あるいはコピーの形で収集する。トランスクリプトは、許可を得て、マイソールの刻文部でコピーする必要がある。辛島昇（研究班総括）、太田信宏（研究員）、石川寛（研究員）がその作業を行った
- b) 研究については、個々の研究者が独自の研究を行うと同時に、研究班メンバー全員およびインドの研究協力者が共同でなしうる幾つかのテーマを設定して行った。

## (2) 東南アジア研究班

### 「近現代東南アジアに関する史料研究」

総括 弘末雅士

嶋尾 稔、桜井由躬雄、北川香子、坪井祐司、牧野元紀

近代日本と東南アジアは、明治期の後半から緊密な関係を有し始め、第二次世界大戦期に日本は東南アジアを軍事占領した。また戦後日本は、東南アジアと緊密な経済関係を形成するに至っている。こうしたなかで日本の東南アジア研究も、この40年間に飛躍的な研究の発展をとげた。ただし日本の東南アジ

ア研究は、第二次世界大戦後にいきなり始まったわけではない。すでに大正期より東洋史の東西交渉史の一分野として南洋史が注目を浴び、また南洋ブームの高まりとともに経済関係の文献も出版されていた。そして第二次世界大戦期には、翻訳本も含め多数の東南アジア関係の文献が出版された。これらの文献は、一部の実証研究を除いて、学術的にあまり注目を浴びてこなかった。しかしそれらは、日本の東南アジア観を検討するためのみならず、東南アジア社会を考察する上においても、重要な資料となりうる。本研究は、従来力点が置かれた日本の東南アジア関与という観点からのみならず、当時の東南アジアの社会統合に果たした日本人の役割の視点からその記述を検討し、日本人をはじめ中国人やインド人さらにはアラブ人や欧米人など多様な人々が居住した近代東南アジア社会の特質について研究する。

[研究実施概要]

- a) 近代東南アジアの都市の社会統合に果たす日本人の役割に関する文献資料の収集と整理を行なった。合わせて、第二次世界大戦後に出版された戦前・戦中期の日本の東南アジア関係の文献について、目録作成をすすめた。
- b) 東南アジアの主要都市を訪れ、日本人を含む外来系住民の居住空間の歴史的展開を調査した。
- c) 研究会を開催して文献調査や訪問調査の成果をもとに議論を構築した。その成果を、本プロジェクト終了年度に、出版物として刊行する計画の立案を開始した。

## 〈西アジア研究部門〉

### 西アジア研究班

「イスラーム世界における契約文書の研究(2)」

総 括 三浦 徹  
ト ル コ 永田雄三、磯貝健一、林佳世子  
契 約 観 念 後藤 明  
トルコ・ペルシア 清水宏祐、堀川 徹<sup>W</sup>、守川知子  
ア ラ ブ 原山隆広、佐藤健太郎

ワクフ（宗教的寄進）は、都市や農村の宗教施設を建設するだけでなく、経済基盤となり、政治権力者、名士、民衆の結びつきをつくった。ワクフに関わる、法学書、年代記、地理書などの叙述史料とワクフ寄進文書や調査台帳などの文書史料を収集し、諸地域における実態と歴史の変容を解明する。

[研究実施概要]

- a) 第一期からの継続課題であるヴェラム文書（モロッコの契約文書、東洋文庫所蔵）について、文書解読のための研究会を定期的に開催するとともに、関連資料の収集や調査を行った。
- b) ワクフ文書の総合的研究にむけ、関連資料の収集を行うとともに、研究会を開催した。

## C. 資料研究

### 〈資料研究部門〉

#### 東アジア資料研究班

「東アジア資料の研究」

総括	ス波義信◎ <sup>W</sup>
総括補助者	田仲一成◎
日本	浅野秀剛 片桐一男 永積洋子 延廣真治 吉田伸之
中国	丘山新 小川裕充 佐藤慎一 鈴木博之 戸倉英美 濱下 武志 矢吹 晋 <sup>W</sup> 平勢隆郎 片山 剛
朝鮮	藤本幸夫
内陸アジア	森安孝夫
情報	廣瀬紳一

中国、台湾、香港、東南アジア華人社会などに所蔵される文献資料の探索、各国図書館との国際的情報交換・資料交換・人的交流を目指す。

[研究実施概要]

台湾国立成功大学、上海戯劇学院、台湾中央研究院との研究交流、資料交換を推進した。



6 部門 12 研究班 23 グループ 事務統括

瀧下彩子<sup>W</sup>（東洋文庫研究員）

（注 ◎は専従者、W は重複を示す）

## D. 地域研究プログラム

### (1) イスラーム地域研究資料室

「イスラーム史料情報学の開拓」

[研究実施概要]

- a) 収集資料データベース (URL: [https://www.tbias.jp/php/book\\_search.php](https://www.tbias.jp/php/book_search.php))、中東研究文献データベース (URL: [http://www.tbias.jp/document\\_research.cgi](http://www.tbias.jp/document_research.cgi))、イスラーム地域資料館・研究機関ガイド (URL: [http://www.tbias.jp/researchguide\\_detail.html](http://www.tbias.jp/researchguide_detail.html)) について、適宜情報を更新した。
- b) アラビア語・ペルシア語・オスマントルコ語を中心に、国内機関の所蔵が少なく、有益性が高いと思われる資料、また散逸の可能性が高い資料を優先し、現地語史資料の体系的収集を実施した。
- c) 文献情報ネットワークの構築・拡充について、文献資料の整理・利用環境の実態調査を進め、環境改善に向けて情報共有のための連絡会を開催した。また補助ツールの作成・公開を行った。
- d) TBIAS・SIAS2 連携研究会、資料研究セミナー、原典講読会を適宜開催し、また 12 月 18 日には第 3 回イスラーム地域研究京都国際会議 Session2B Continuity and Change of Legal Institutions: Modernization and the Sharia Courts in the 19th and 20th Centuries を京都国際会議場にて開催した。

### (2) 現代中国研究資料室

「現代中国研究資料の収集・利用の促進と現代中国資料研究の推進」

[研究実施概要]

- a) 電子図書館の目録データを利用して、国立情報学研究所が運営する、NACSIS Webcat へ、東洋文庫所蔵資料の所蔵登録及び書誌情報作成を

行った。また昨年度に引き続き、ウェブサイト及び「デジタルリソースリンク集」を運営した。

- b) 2010年12月に、これまで4年間の研究活動の成果を中心として、東方書店株式会社より論文集『新史料からみる中国現代史—口述・電子化・地方文献』を出版した。
- c) 史料講読会「王清穆日記読書会」を開催し、同様に手書きのアーカイブ資料について読解能力を高めるために、東洋文庫に集う若手研究者、特に大学院生を中心の読書会も開催した。また、10月29日には明治大学において、ワークショップ「若手研究者による現地調査・史料調査報告」を開催し、中国と台湾における档案馆の資料公開状況について知見を深めた。
- d) 3月に高田幸男（室長）、田中仁（研究員）、大澤肇（研究員）は上海図書館等を訪問し、電子図書館の視察をするとともに、東洋文庫の資料およびデータベースを紹介して研究交流をおこなった。
- e) 本拠点の運営会議において定められた方針により資料収集を継続したが、本年度は書庫引越し作業の影響で、資料収集の量を減らした。

## E. 受託研究

「人文学及び社会科学における共同研究拠点の整備の推進事業」

（イスラーム地域研究資料室委託業務）

[研究実施概要]

- a) 「イスラーム地域研究」の史資料センターである東洋文庫拠点の整備強化
- b) 「イスラーム地域研究」の成果の発信の強化充実

公募による共同研究課題「イスラーム圏におけるイラン式簿記術の展開：オスマン朝治下において作成された帳簿群を中心として（3年間）」（研究申請者：高松洋一（東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所准教授））において、研究成果の和文および英文での出版に向けて、企画や内容の検討・点検を進めた。ウェブサイトのアドレスは、<http://www.tbias2.jp/> である。

## F. 日本学術振興会科学研究費補助金による調査研究

### (1) 研究成果公開促進費（データベース等）の対象事業

「東洋学多言語資料のマルチメディア電子図書館情報システム」

[東洋文庫電算化委員会委員長：斯波義信]

### (2) 基盤研究の対象事業

- ① 「宋代社会経済史語彙解釈のデータベース化」 [研究代表者：斯波義信]  
(基盤研究 (B)、2007 年度採用、4ヶ年間・終了)
- ② 「1910 ～ 1930 年代における日本の中国認識 - 華北地域を中心に」  
[研究代表者：本庄比佐子]  
(基盤研究 (B)、2009 年度採用、5ヶ年間・第 2 年度目)
- ③ 「南インドの刻文に見る中世宗教運動の展開」 [研究代表者：辛島 昇]  
(基盤研究 (B)、2009 年度採用、3ヶ年間・第 2 年度目)
- ④ 「抄物目録の完成」 [研究代表者：柳田征司]  
(基盤研究 (C)、2009 年度転入・終了)
- ⑤ 「近代の地方名士 - マニサ地方を中心に -」 [研究代表者：永田雄三]  
(基盤研究 (C)、2010 年度採用、3ヶ年間・第 1 年度目)
- ⑥ 「内陸アジア出土 4 ～ 12 世紀の漢語・胡語文献の整理と研究」  
[研究代表者：永田雄三]  
(基盤研究 (C)、2010 年度採用、3ヶ年間・第 1 年度目)

## G. その他民間学術助成金による調査研究

### (1) 三菱財団補助金による事業

三菱財団人文科学研究費補助金の対象事業

「“モリソン・パンフレット” 資料集の学際的研究 - 中国をめぐる近代極東史の  
一次資料の解析 -」 [研究代表者：斯波義信]

(2008 年 10 月～ 2011 年 3 月・2ヶ年間・終了)

## H. 東洋文庫研究員・研究課題一覧

研究員名	研究課題
會谷 佳光	和刻本を中心とした仏典の書誌学的研究
青木 敦	宋代の法と経済
青山 瑠妙	現代中国政治・外交の研究
秋葉 淳	オスマン帝国末期の社会及び制度
浅田 進史	独中関係史
浅野 秀剛	日本版画美術の研究
天児 慧	現代中国の政治体制及び国際関係
新井 政美	トルコ近代史
荒川 正晴	中央アジア古代史
飯尾 秀幸	中国古代国家史
飯島 武次	殷周時代の考古学研究
飯島 涉	医療社会史
池田 温	中国中古史、前近代東亜文化交流史
池田美佐子	エジプト近現代史
池田 雄一	中国古代社会史
石川 寛	南アジア史
石塚 晴通	日本語の歴史的研究、古代漢字文献学
石橋 崇雄	清朝政治史
磯貝 健一	イスラーム期中央アジア古文書研究
市古 宙三	太平天国及び中国共産党の研究
井上 和枝	李氏朝鮮時代郷村社会史研究・朝鮮女性史研究
井上 和人	東アジア古代都城制度の比較研究
今西 祐一郎	源氏物語を中心とした平安時代文学の研究
上野 英二	平安朝文学の研究
内田 知行	中華民国社会史
内山 雅生	近代中国華北農村経済史
梅田 博之	現代朝鮮語の記述的研究
梅原 郁	宋元時代の法制制度の研究



- 梅村 坦 ウイグル民族誌、内陸アジア史  
 宇山 智彦 中央アジア近代史・現代政治  
 江川 ひかり トルコ社会経済史  
 大江 孝男 現代朝鮮語及び中期朝鮮語の研究  
 大河原知樹 19-20 世紀シリアの社会史・政治史  
 大澤 肇 近現代中国における学校教育史  
 大澤 正昭 唐宋時代社会史  
 太田 信宏 南インド近世史  
 太田 幸男 秦墓竹簡の研究  
 大谷 俊太 室町・江戸時代文学の研究  
 岡崎 礼奈 日本近代美術史  
 岡田 英弘 アジア史  
 岡野 誠 前近代中国の王権・国家・法／敦煌吐魯番文献  
 丘山 新 中国仏教資料研究  
 小川 裕充 中国絵画資料研究  
 奥村 哲 中国近現代史  
 小田 壽典 古トルコ語仏教文献の研究  
 小名 康之 インド・ムガル朝史  
 梶谷 懐 中国の財政金融改革  
 粕谷 元 トルコ現代史  
 糟谷 憲一 18-19 世紀朝鮮政治史  
 片桐 一男 日蘭文化交渉史の研究  
 片山 章雄 中央アジア古代史  
 片山 剛 広東農村社会史研究  
 加藤 直人 清朝の民族統治政策・清代档案史料の研究  
 加藤 弘之 地域開発の現状と政策に関する実証研究  
 金丸 裕一 中国政治経済史・日中関係史  
 金子 修一 中国古代史  
 辛島 昇 南アジア史  
 川井 伸一 中国企業研究  
 川合 安 六朝貴族制の研究  
 川崎 信定 チベット仏教の研究

- 川島 真 近代中国外交史
- 菊池 英夫 唐宋時代の行政および法制の研究
- 貴志 俊彦 東アジアの通信メディアをめぐる比較史的研究
- 岸本 美緒 明清時代地方社会史
- 北川 香子 カンボジア史
- 北本 朝展 文献のデジタル・アーカイブ化
- 金 鳳珍 東アジアの歴史・思想・国際関係
- 草野 靖 中国王朝国家の発展と社会経済
- 楠木 賢道 清初の「民族」関係
- 久保 亨 中国近現代史
- 窪添 慶文 魏晋南北朝時代史
- 熊本 裕 イラン語史の研究
- 黒田 卓 近現代イラン史
- 氣賀澤 保規 魏晋南北朝隋唐時代の政治社会文化史
- 巖 善平 中国の三農問題
- 黄 東蘭 近代日中関係史
- 興 柁 一郎 現代中国論、中国現代史
- 小嶋 芳孝 渤海文化の考古学的研究
- 小杉 泰 現代イスラム政治の研究
- 後藤 明 イスラム社会と政治の研究
- 小浜 正子 中国近現代社会史
- 小松 久男 中央アジア近代史
- 小南 一郎 中国藝能史研究
- 早乙女 雅博 東アジア考古学の研究
- 齋藤 真麻理 中世日本文学の研究
- 酒井 憲二 日本語の史的研究
- 櫻井 徹 在留外国人コミュニケーション誌の現況について
- 桜井 由躬雄 ベトナム史
- 佐藤 健太郎 マグリブ・アンダルス史
- 佐藤 慎一 中国近代政治史資料研究
- 佐藤 宏 農村経済社会の長期変動
- 佐藤 仁史 近現代江南農村社会史研究

澤江	史子	現代トルコ政治
塩沢	裕仁	中国古代歴史地理研究
重近	啓樹	秦漢社会経済史
設楽	國廣	オスマン帝国末期政治史
蒨	勇造	南アラビア古代史
篠崎	陽子	前近代中国文化史
斯波	義信	中国社会経済史
嶋尾	稔	ベトナム史
清水	宏祐	セルジューク朝時代イランの研究
清水	信行	古代の日本・大陸交流史
志茂	碩敏	13・4世紀モンゴル政権中枢・中核の研究
庄垣内	正弘	チュルク語の研究
真道	洋子	イスラーム・ガラス文化史
新免	康	中央アジア史
末成	道男	東アジア社会人類学
須川	英徳	高麗・朝鮮時代の商業
鈴木	恵美	近現代エジプト政治史
鈴木	均	イランおよびアフガニスタンの地域研究
鈴木	博之	徽州民間祭祀の研究
鈴木	立子	元朝社会経済史
砂山	幸雄	現代中国思想・文化・政治体制
妹尾	達彦	中国古代・中世都市史
関尾	史郎	敦煌・トルファン文書研究
関本	照夫	東南アジア伝統工芸業の研究
曾田	三郎	中国近代政治・社会史
高田	幸男	長江下流域の地域社会・エリート・教育団体
高遠	拓児	清代における刑罰制度の研究
瀧下	彩子	近現代中国文化史
武内	紹人	古代チベット語の歴史言語学的研究
武田	幸男	朝鮮古代・近世史
田島	俊雄	中国農業・農家の経済計算と所得分配
多田	狷介	漢魏晋史

- 立川 武蔵 チベット密教教理の研究
- 田中 明彦 現代東アジア国際政治の研究
- 田中 一成 中国演劇史
- 田中 時彦 日本の政治的近代化の研究
- 田中 仁 中国近代政治史—中国共産党史
- 田中比呂志 近現代中国の社会統合の研究
- C.A.ダニエルス 清代社会経済史、中国技術史
- 田村 晃一 東北アジアの考古学研究
- 竺沙 雅章 中国仏教文化史
- 千葉 夙 宋代宮廷史
- 辻本 裕成 中古・中世日本文学の研究
- 土田 哲夫 中国近現代史・国際関係史
- 坪井 祐司 マレーシア近代史
- 鶴見 尚弘 明・清時代社会経済史
- 寺田 浩明 中国明清法制史
- 唐 成 現代中国金融の研究
- 唐 亮 現代中国政治史の研究
- 戸倉 英美 中国古典文学資料研究
- 栢尾 武 和漢比較文学の研究及び日本に伝来した漢籍の研究
- 土肥 義和 西域出土漢文文書の研究
- 富澤 芳亜 中国近代経済史
- 鳥海 靖 日本近現代史
- 中兼和津次 現代中国経済・移行経済の研究
- 長沢 栄治 近代エジプト社会経済史
- 永田 雄三 オスマン帝国社会経済史
- 永積 洋子 日本近世対外交渉史
- 長縄 宣博 帝政ロシアのムスリム社会と国家
- 中見 立夫 清代モンゴル史・清代文書の史料的研究
- 中村 元哉 中国近代政治史—憲政史・メディア史
- 西 英昭 中国・台湾の近現代法制史
- 西尾 寛治 マレーシア・インドネシア近世史
- 西田 龍雄 チベット・ビルマ語派の研究



- 延廣 眞治 江戸・明治の文芸
- 萩田 博 ウルドゥー語学・文学の研究
- 長谷川 誠夫 宋代官僚制の研究
- 八尾 師 誠 20世紀初頭のイランにおける立憲革命の研究
- 服部 龍二 東アジア国際政治史
- 花田 宇秋 正統カリフ・ウマイヤ朝史
- 濱下 武志 中国近現代史
- 濱島 敦俊 中国近世社会経済史
- 濱田 正美 中央アジアにおけるイスラーム研究
- 濱本 真実 ロシア・ムスリム史
- 林 佳世子 オスマン朝期中東社会史
- 林 俊雄 中央ユーラシア史・草原考古学の研究
- 原 實 インド古代文学の研究
- 原山 隆広 アッバース朝末期政治史
- 平勢 隆郎 中国考古資料研究
- 平野 健一郎 近代東アジア国際関係論
- 平野 聡 中国党支配（国民党・共産党）の史的研究
- 弘末 雅士 インドネシア宗教社会史
- 廣瀬 紳一 漢字文化圏電子情報学の研究
- 深沢 眞二 連歌・俳諧の研究
- 藤田 忠 中国古代政治・社会史
- 藤本 幸夫 朝鮮本研究
- 古田 和子 情報・流通ネットワークの歴史的分析
- 古屋 昭弘 中国語史
- 弁納 才一 近現代中国農村経済史
- 寶劔 久俊 現代中国の農村社会経済変動の研究
- 細谷 良夫 清朝政治史
- 堀川 徹 中央アジア文書研究
- 本庄比佐子 近現代日中関係史
- 牧野 元紀 ベトナムのキリスト教
- 松井 太 中央アジア出土ウイグル語・モンゴル語文献の研究
- 松重 充浩 近現代中国政治・社会史及び東北アジア地域史

- 松永 泰行 現代イランの政治・宗教及びシーア派研究
- 松濤 誠達 インド古代神話学の研究
- 松丸 道雄 殷周金文の研究
- 松村 潤 東北アジア民族史
- 松本 弘 イエメン地域研究、エジプト近代史、現代中東政治
- 丸川 知雄 中国の産業集積および日中経済関係
- 三浦 徹 イスラム都市社会史
- 水野 善文 古典サンスクリット文学と中世ヒンディー文学
- 三田 昌彦 北インド中世史
- 御牧 克己 チベット宗義書の研究
- 宮崎 修多 近世近代漢詩文の研究
- 村井 章介 日本中世を中心とする東アジア文化交流史
- 村田 雄二郎 中国近代ナショナリズム、改革開放期の文化問題
- 毛里 和子 現代中国政治・外交及び東アジア国際関係
- 本野 英一 清末民初における対外経済関係
- 初山 明 中国古代法制史・辺境論・資料論
- 守川 知子 イラン・イスラーム史
- 森平 雅彦 朝鮮中世・近世史
- 森安 孝夫 古代ウイグル文書の研究、中央ユーラシア古代中世史
- 柳澤 明 清代外交史・民族関係史
- 柳田 征司 日本語の歴史的研究
- 柳谷 あゆみ 中世イスラーム政治史、イスラーム地域資料研究
- 矢吹 晋 近現代中国経済
- 山内 弘一 李朝史、朝鮮儒教研究
- 山内 民博 朝鮮後期郷村社会史研究
- 山口 瑞鳳 チベット史、チベット語文法、チベット仏教研究
- 山村 義照 日本近現代史
- 山本 英史 17-19世紀中国社会構造の研究
- 山本 毅雄 東洋学研究資料のデジタル・アーカイブ化
- 湯浅 剛 中央アジア政治史
- 吉澤 誠一郎 中国近現代史
- 吉田 寅 中国塩業史

吉田 伸之	日本近世都市社会史
吉田 光男	朝鮮近世史
吉田 豊	ソグド語及びソグド語文献の研究
吉水千鶴子	インド・チベット仏教思想史の研究
吉村慎太郎	イラン近現代史
六反田 豊	朝鮮中世・近世史
和田 恭幸	日本近世出版文化史および通俗仏書の研究
渡辺 紘良	宋代社会史

(全 228 人)

## 2. 研究資料出版

プロジェクト研究および基礎研究では、中国語・朝鮮語・満州語・ウイグル語・アラビア語・ペルシア語・トルコ語など、アジア諸語で記された文書・写本・刊本・地図などを用いて研究を行い、その成果を東洋文庫和文紀要・欧文紀要に掲載するとともに、和文・欧文の研究叢書（「東洋文庫論叢」・「東洋文庫欧文論叢(TBRL)」）、訳注書、書誌解題などを単行本として出版する。これらの成果は、現代アジアの諸問題の解明に寄与するばかりでなく、国際的な発信を通じて国内外に大きな刺激をあたえ、アジア研究のさらなる進展に貢献するものである。

### A. 定期出版物刊行

- (1) 『東洋文庫和文紀要』（東洋学報）第 92 巻第 1-4 号      A5 判 4 冊（刊行済）
- (2) 『東洋文庫欧文紀要』（*Memoirs of the Research Department of the Toyo Bunko*）  
No.68      B5 判 1 冊（刊行済）
- (3) 『近代中国研究彙報』      第33号      A5 判 1 冊（刊行済）
- (4) 『東洋文庫書報』      第42号      A5 判 1 冊（刊行済）
- (5) 『超域アジア研究報告』      第7号      B5 判 1 冊（刊行済）

(6) *Asian Research Trends* New Series No.5 A5判 1冊(刊行済)

(7) *Modern Asian Studies Review* Vol.3 A5判 1冊(刊行済)

## B. 論叢等出版

(1) TBRL14 *Histoire médiéval du Bhoutan - établissement et évolution de la théocratie des 'Brug pa-* B5判 1冊(刊行済)

(2) 『水経注疏訳注 渭水編(下)』 東洋文庫論叢74 A5判 1冊(刊行済)

(3) 『西藏仏教宗義研究 第9巻 トゥカン「一切宗義」カダム派の章』 B5判 1冊(刊行済)

(4) 『内国史院檔 天聰五年 I』 B5判 1冊(刊行済)

(5) 『古代インドの環境論』 A5判 1冊(刊行済)

## C. 研究資料の覆刻・増刷の刊行サービス

東洋学報 第91巻4号	330部
東洋学報 第92巻第1～3号	各330部
東洋文庫欧文紀要 Vol.67	50部
TBRL12 <i>Studies on Xinjiang Historical Sources in 17-20th Centuries</i>	50部
TBRL13 <i>Large and Broad: The Dutch Impact on Early Modern Asia</i>	50部
『地図文化史上の広輿図』東洋文庫論叢73	50部
<i>Sources on the Mughal History</i>	50部
『岩崎文庫貴重書書誌解題 VI』	50部
近代中国研究彙報 第32号	50部
東洋文庫書報 第41号	20部
東洋文庫年報 2009年度版	10部



### 3. 研究情報普及

#### A. 講演会

##### (1) 東洋学講座

(春 期) 共通テーマ「東洋文庫とアジア - その3 -」

第 517 回 2010 年 5 月 10 日 (月)

「中央アジア出土資料をめぐる旅」

東洋文庫研究員

中央大学教授 梅村 坦氏

第 518 回 2010 年 5 月 17 日 (月)

「中東イスラーム世界と日本」

東洋文庫研究員

お茶の水女子大学教授 三浦 徹氏

第 519 回 2010 年 5 月 24 日 (月)

「サンスクリット研究こぼれ話」

東洋文庫研究員

東京大学名誉教授 原 實氏

(秋 期) 共通テーマ「東洋文庫とアジア - その4 -」

第 520 回 2010 年 10 月 18 日 (月)

「日本人のイスラーム理解 - 5つのキーワード -」

東洋文庫研究顧問

早稲田大学教授 佐藤 次高氏

第 521 回 2010 年 11 月 8 日 (月)

「マンガ家たちの中国近代史 - 東洋文庫所蔵の漫画資料を読む -」

東洋文庫研究員 瀧下 彩子氏

第 522 回 2010 年 11 月 22 日 (月)

「戦後日米間のなかの中国研究と東洋文庫」

東洋文庫研究顧問

アジア歴史資料センター長 平野 健一郎氏

## (2) 特別講演会

4月 5日 (月)

“The “Bayt al-Hikma” and scientific activity of the Central Asian scholars in Baghdad (9th -11th centuries)”

Director, al-Biruni Institute of Oriental Studies,  
Academy of Sciences, Republic of Uzbekistan

Dr. A. Abduhalimov 氏

12月 1日 (水)

「アフガニスタンは今 —選挙と民族問題—」

民族部族問題担当大統領顧問大臣、ヘズベ・イスラミー党党首  
ワヒドゥッラー・サバウーン氏  
ジャーナリスト、社会活動家

サディーク・マンスール・アンサーリー氏

\* 3月 22日に予定されていた下記の講演会は、3月11日に発生した東北地方太平洋沖地震の影響により中止された。

Reading Abu Firas al-Hamdani's “I see that you spurn tears”: Texts and Contexts  
インディアナ州大学教授

Dr. Suzanne Pinckney Stetkevych

## (3) 研究会 (東洋文庫談話会)

3月 14日 (月)

「ブワイフ朝におけるファールス地方の位置付け—ダイラムの活動を通じて—」

日本学術振興会特別研究員 (PD) 橋 爪 烈氏

## (4) 各種研究会・講演会開催状況

数量/月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
研究会回数	14	24	19	18	5	17	20	27	21	5	7	3	180
参加人数	133	413	160	142	31	135	219	316	162	68	83	26	1,888

## B. データベース公開

2010年4月1日～2011年3月31日までの期間における、東洋文庫の図書・資料のデータ（日本語・英語）に対するオンライン検索アクセス件数は、1,554,358件で、個別のアクセス状況は【図1】【図2】(P46,47)のとおりである。

## C. 研究者の交流および便宜供与のサービス

### 〈長期受入〉

#### (1) 外来研究者の受入

彌永 信美（フランス国立東洋言語文化研究所 東京支部長）  
「日本仏教」

(2010年9月1日～2011年8月31日、延長予定)

呉 真（南開大学文學院中文系助教授）  
「祭祀演劇中の儀礼文化に関する日中比較研究：宗教学に基づく文学研究」  
(2009年11月25日～2011年11月24日、学振外国人特別研究員)  
[受入担当：田仲一成]

GIRARD Frédéric（フランス国立極東学院教授）  
「日本仏教」

(2010年9月21日～2011年9月20日、極東学院)

#### (2) 2009年度日本学術振興会特別研究員 PD の受入

橋爪 烈（東京大学大学院 PD）  
「支配権喪失後のカリフの権威：  
軍事政権、アッバース家、ウラマーの視点による再考」

(2008年度採用、2009・2010年度3ヶ年間・終了)

澤井 一彰（東京大学大学院 PD）

「16,17 世紀のオスマン朝における物資流通とイスタンブル」

（2009 年度採用、2010・2011 年度・3カ年間）

鈴木 秀明（東京大学大学院 PD）

「インド洋海域世界の「近代」：奴隷交易の変容を事例にして」

（2009 年度採用、2010・2011 年度・3カ年間）

木村 暁（東京大学大学院 PD）

「近代中央アジアにおけるイスラーム王権とムスリムの政治秩序観」

（2009 年度採用、2010・2011 年度・3カ年間）

小林 亮介（筑波大学大学院 PD）

「20 世紀前半における「チベットの領域」問題の形成 — 東チベットを中心に」

（2010 年度採用、2011・2012 年度・3カ年間）

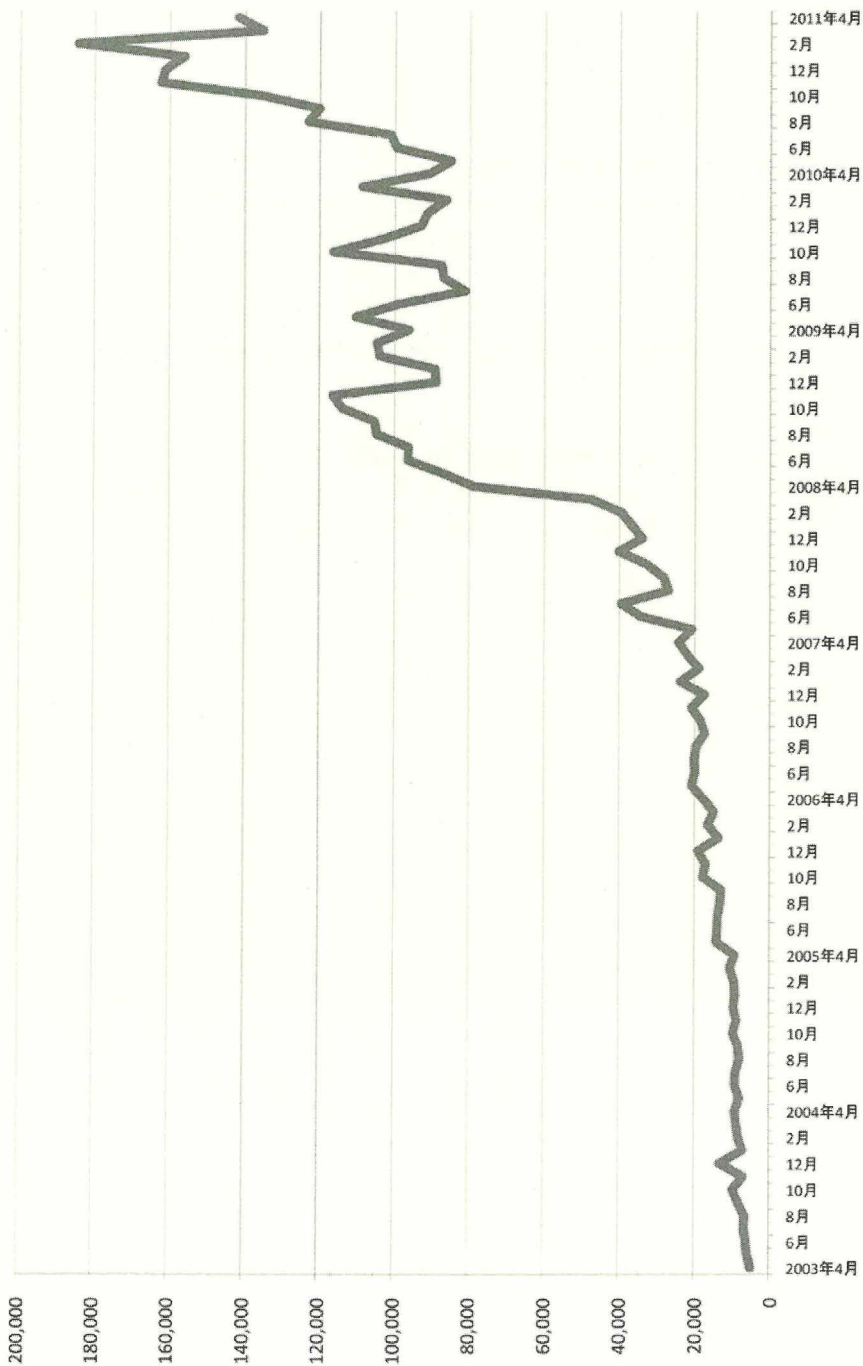
池尻 陽子（筑波大学大学院 PD）

「チベット仏教僧の思想とネットワークが

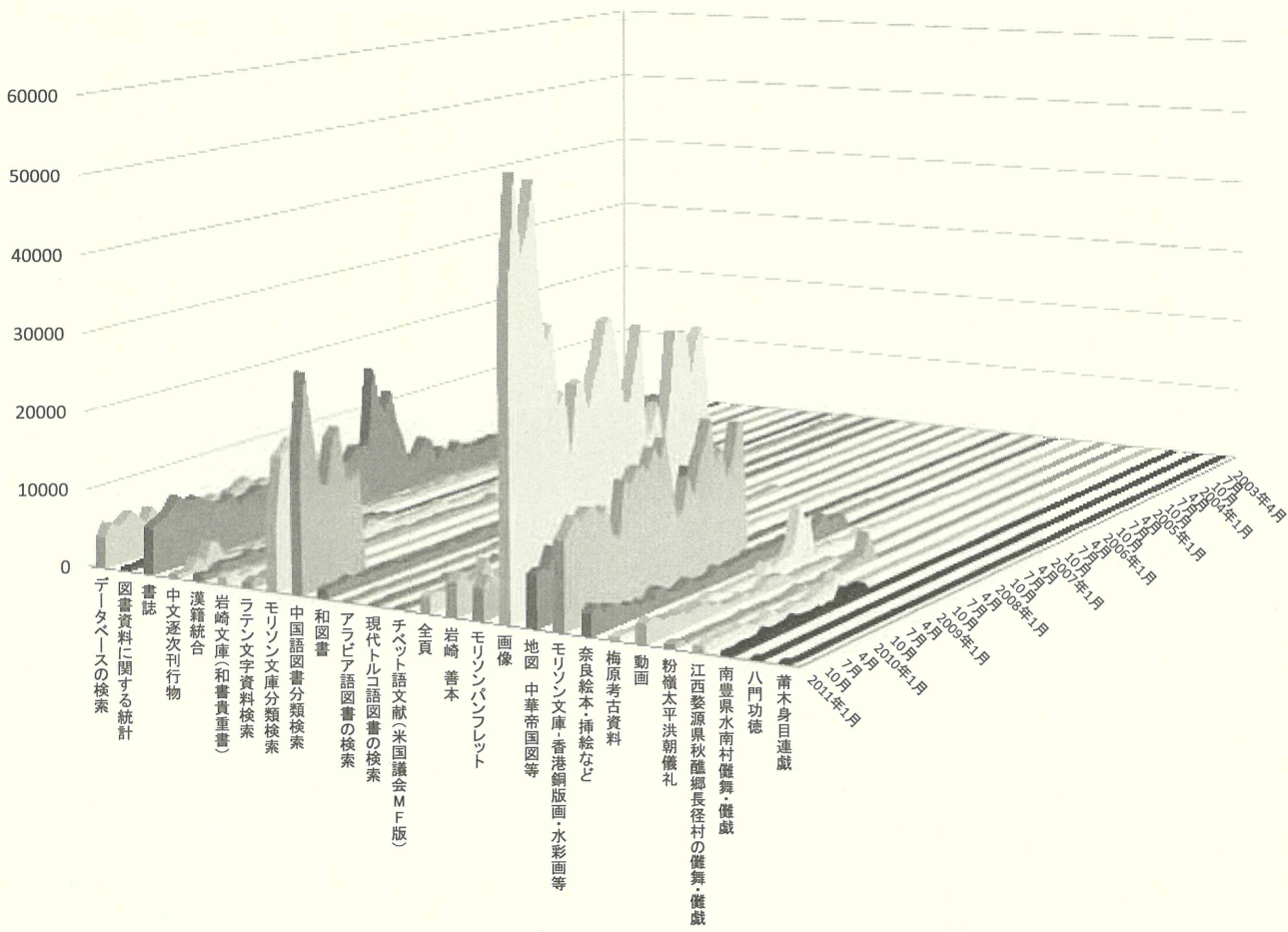
清代内陸アジア史に与えた影響に関する研究」

（2010 年度採用、2011・2012 年度・3カ年間）





【图1】



【図2】

## 〈外国人研究者への便宜供与〉

China

葉 長海

[上海戯劇院] (ほか7名)

Russia

ZORIN V. Alexander

[Russian Academy of Sciences]

UK

PALUMBO. Antonello

[School of Oriental and Africa Studies]

Taiwan

劉 祥光

[国立政治大学] (ほか5名)

## 4. 普及・広報活動

東洋文庫では、幅広い層に東洋学の普及をはかるため、下記の諸事業を行っている。

### A. 展示企画

- ・丸の内の三菱一号館美術館の「三菱が夢見た美術館」展への所蔵品貸出し及び企画協力を行った。
- ・2011年度からの展示企画および展示設備について、毎月部会を催し、検討した。同部の専任嘱託として、岡崎礼奈氏を採用した。

### B. 東洋文庫ホームページの運営

東洋文庫ホームページ(和文・英文)の更新およびリニューアルを行った。

2010年4月～2011年3月までのホームページ全体のアクセス件数は、1,554,358である(東洋文庫図書資料データベースへのオンライン検索アクセス件数を含む)。

## C. 東洋文庫友の会の運営

- ・広報誌『友の会だより』の発行（年2回）
- ・規約の一部改定（会員特典の追加）

## D. グッズ製作・販売

- ・ミニ図録、一筆箋、ハンカチ、ペンケース、ブックカバー、カレンダーを新規製作して、販売した。
- ・その他、既存グッズを販売した。

## E. その他

- ・丸の内の三菱一号館美術館の「三菱が夢見た美術館」展にて、図録制作、講演等に協力した。
- ・三菱広報委員会発行の「マンスリーみつびし」にて、隔月で蔵書紹介を行った。
- ・賓客の施設訪問に対応した。主な訪問客は、東京藝術大学副学長一行、ベトナム歴史学会会長一行、武田科学振興財団一行、三菱広報委員会「ゆかりの地研修会」一行、三菱重工長崎造船所総務部長一行など。
- ・財団法人静嘉堂の協力を得て、展示技術習得のための研修会を実施した。
- ・ミニ図録「時空をこえる本の旅 50選」を出版した。
- ・マスメディア等約 300 社に対し、ミュージアム開設を PR するニュースリリースを発行・配布した。
- ・『週刊現代』（講談社）、北海道新聞、朝日新聞
- ・六義園、小・中・高等学校など、地域の諸施設との協力連携に取り組んだ。
- ・愛知教育大学附属岡崎中学校の生徒2名の来庫を受け入れ、三国志に関するレクチャーを実施した。
- ・小石川中等教育学校の教員・生徒らが来庫、学校新聞の取材を行った。
- ・牧野元紀研究員、瀧下彩子研究員らによる欧米の博物館・図書館等の見学出張を実施した。
- ・岡崎礼奈研究員による大英図書館への研修を実施した。
- ・長崎歴史博物館「岩崎彌太郎－三菱の誕生と岩崎家ゆかりのコレクション－」の開催にあわせ、斯波義信文庫長、山川専務理事、牧野研究員らによる同館と長



崎市内での関係施設の見学出張を実施した。

- ・ポーラ美術振興財団の調査研究助成に申請し採択された。研究テーマは「東洋文庫絵入本コレクションの全容解明に向けての基礎的研究」

## 5. 研究員等の研究業績

期間：2010年4月1日～2011年3月31日まで

略号：①…著書 ②…編著 ③…論文 ④…学会動向 ⑤…書評・紹介  
⑥…翻訳 ⑦…講演 ⑧…その他（評論・雑記・座談会等）

研究員等の研究業績

會谷 佳光

③「和刻本『大明三蔵聖教目録』諸本再考」（『東洋文庫書報』42、151～199頁、財団法人東洋文庫、2011年3月）。

秋葉 淳

③「タンズィマート初期改革の修正—郡行政をめぐる政策決定過程（1841-42年）」（『東洋文化』91、219～241頁、東京大学東洋文化研究所、2011年3月）、⑦“Local Solidarity in the Ottoman Bureaucracy during the late 18th and 19th Centuries: A Case of İbradı.” コチ大学アナトリア文明研究センター（Research Center for Anatolian Civilizations, Koç University）主催ミニシンポジウム、2010年5月14日）、“Education and Social Mobility among the People of the Eastern Black Sea Region during the Late Ottoman Period.”（ヨーロッパ地中海研究所 The European Institute of the Mediterranean、WOCMES 委員会主催、第3回中東研究世界大会（WOCMES）、於バルセロナ自治大学、2010年7月22日）、「タンズィマート初期改革の修正：郡行政をめぐる政策決定過程（1841-42年）」（NIHU プログラム「イスラーム地域研究」東洋文庫拠点・東京大学東洋文化研究所東文研セミナー・班研究「オスマン帝国史の諸問題」共催研究会、2010年11月13日）、「カーディーの町イブラドゥ：アナトリアの一地方社会から見る18世紀オスマン帝国」（九州史学会平成22年度大会、2010年12月12日）、“Sharia Judges in the Nizamiye Court System in the Late Ottoman Empire.”（NIHU プログラム・イスラーム地域研究京都国際会議、2010年12月18日）、「近世オスマン帝国におけるイスラームへの改宗をめぐる諸問題」（千葉大学 COE スタートアッププログラム「邂逅と共生の歴史学：新たな世界

史像の構築」研究会「近世世界における「改宗」問題」、2011年1月8日)。

浅田 進史

①『ドイツ統治下の青島—経済的自由主義と植民地社会秩序』(東京大学出版会、2011年3月、257頁)、②『労働—公共性と労働—福祉ネクサス』(安孫子誠男・水島治郎)、勁草書房、2010年5月、284頁)、⑤「樂玉璽著『青島の都市形成史：1897-1945—市場経済の形成と展開』(『歴史と経済』210、69～70頁、政治経済学・経済史学会、2011年1月)、⑤「ラインハルト・ツェルナー著、小倉欣一・李成市監修、植原久美子訳『東アジアの歴史—その構築』(『社会経済史学』76-2、147～149頁、社会経済史学会、2010年8月)、⑦「Mobilization of the Chinese People for War: War Experiences in the German Colonial City of Qingdao during World War I」(WCU Workshop “Everyday Coloniality” Hanyang University、2010年11月5～6日)、「戦時下の青島経済(1938～1945年)—日本の再占領と物資流通を中心に」(歴史問題研究所〔韓国〕・慶應義塾大学東アジア研究所共同国際シンポジウム「日本帝国主義勢力圏都市の諸問題と社会変動」、於：歴史問題研究所講堂、2010年8月18日)、⑧「史料紹介：日独青島戦争におけるドイツ総督府の防衛計画『青島要塞に関する覚書』—植民地社会における総力戦への道」(『近代中国研究彙報』33、109～120頁、財団法人東洋文庫、2011年3月)。

荒川 正晴

①『ユーラシアの交通・交易と唐帝国』(名古屋大学出版会、2010年12月、630頁)、⑦「唐の西北軍事支配と敦煌社会」(唐代史研究会夏期シンポジウム、於：箱根、2010年8月24日)、「唐代天山東部州府の典和粟特人」(『西域敦煌出土文献研究』学術研討会、於：人民大学国学院〔北京〕、2010年10月16日)、“The transportation of Tax Silk to the Northwest under Tang Rule,” Donghua Univ./ The British Museum/ Yale Univ., Textiles as Money on the Silk Road, Shanghai and Hangzhou, 2010.12.5.

飯島 武次

③「夏王朝の考古学」(『祝祷文化講演集』第15輯、7～10頁、駒澤大学、2010年11月)、「中国渭河流域における西周遺跡の調査研究」(『駒澤大学文学部紀要』第69号、1～21頁、2011年3月)。

飯島 渉

③「中国海関と「国際」の文脈—檢疫の制度化をめぐる—」(和田春樹・川島真・後藤乾一・木畑洋一・山室信一・趙景達・中野聡編『岩波講座東アジア近現代史 第1巻 東アジア世界の近代 19世紀』、255～272頁、岩波書店、2010年12月)、⑦“*Infectious and Parasitic Disease Studies and Japanese Colonial Medicine in Korea*,” (“*War and Medicine in East Asia, 1937-1953*” conference, Seoul National University, 2010.10.)。

池田 温

③『『唐人雜鈔』について(續)』(『東洋文庫書報』42号、1～13頁、財団法人東洋文庫、2011年3月)、⑤『『敦煌經部文獻合集』全11巻』(『東方』353、34～37頁、東方書店、2010年7月)、『『敦煌秘笈』の價值』(杏雨書屋第25回研究講演会、於：大阪リーガロイヤルホテル山樂の間、2010年4月24日)、⑧「座談会 先学を語る—山本達郎博士」(池端雪浦司会、『東方学』第121輯、163～191頁、財団法人東方学会、2011年1月)。

池田 美佐子

③「イギリス占領期におけるエジプト議会の展開：イギリス代表兼総領事の報告から」(『Cross Culture (光陵女子短期大学紀要)』26、13～28頁、光陵女子短期大学、2010年9月)、⑦“*The Establishment of the Local Representative Bodies in British Occupied Egypt (1882-1914): An Analysis of the Dufferin Paper*,” 3<sup>rd</sup> World Congress of Middle Eastern Studies (WOCMES 10), Universidad Autónoma de Barcelona (Barcelona, Spain), 2010年7月21日、⑧「エジプトにおける民主主義の系譜—議会和憲法」(『現代思想』、39-4、144-151頁、青土社、2010年3月)。「翻訳：ロジャー・オーウェン「タハリール広場の闘争：自由とは尊厳である」」(『現代思想』39-4、82～83頁、青土社、2010年3月)。

池田 雄一

②『水経注疏訳注(渭水篇下)』(東洋文庫中国古代地域史班編、財団法人東洋文庫、2011年3月、xxxii + 684 + 38頁)、③「中国古代の律令と習俗」(『東方学』第121輯、1頁～20頁、財団法人東方学会、2011年1月)、「岳麓書院藏秦簡『関市律』を得て」(『中央大学アジア史研究』第35号、1頁～18頁、白東史学会、2011年3月)、『水経注疏』関係檔案と同書稿本(『水経注疏訳注(渭水篇下)』、15頁～23頁)、⑤「傅斯年圖書館所藏『水経注疏』関係の檔案」(『水経注疏



訳注（渭水篇下）』、60頁～65頁）、⑦「中国古代における律令の形成と習俗」（第60回東方学会全国会員総会講演、2010年11月6日、要旨：『東方学会報』第99号、2頁～3頁、財団法人東方学会、2010年12月・『東方学』第121輯、159頁、財団法人東方学会、2011年1月）。

石川 寛

③「デカン南西部カルナータカ地方の建築家・彫刻家・石工たち—前期チャールキヤ朝の事例から」（『東洋学研究』48、318～334頁、東洋大学・東洋学研究所、2011年3月）、⑤「辛島昇著『古代から中世へ—移行期における南インド社会—』（『東洋学報』92-4、01～07頁、財団法人東洋文庫、2011年3月）、⑦「石窟に刻まれた祈り—アジャンターとエローラ」（東洋大学生涯学習センター公開講座、2010年10月16日）。

石塚 晴通

①『湖北省博物館蔵日本卷子本経籍目録』（改訂版、版下作成、上海辞書出版社、2011年3月、95頁）、③「漢字字体規範数拠庫(HNG)的現状」（唐焯氏と共著、『専業図書館情報機構の知識サービス創新』、130～139頁、国家図書館出版社、2010年8月）、「十七条憲法—日本人の常識・道徳—」（『日本語文学』第47輯、1～12頁、韓国日本語文学会、2010年12月）、「明治十八年高山寺『宝物寄附物古文書什物取調牒』（浄書本）」（高山寺典籍文書綜合調査団『平成22年度高山寺典籍文書綜合調査団研究報告論集』、2011年3月）、⑦「“Descriptive Catalogue of the Chinese Manuscripts with Reading Marks and Notes from Dunhuang”（『敦煌点本書目』）の英文術語」（第102回訓点語学会研究発表、於：京都大学、2010年5月23日）、「Yellow Corrections Added to the Pelliot chinois Manuscripts from Dunhuang”（International Dunhuang Project Symposium 2010, Ryukoku University, 12 July 2010）、「日本人の常識・道徳—十七条憲法—」（中国天津外国語大学講演、2010年9月24日）、「十七条憲法—日本人の常識・道徳—」（2010年度韓国日本語文学会基調講演、於：韓国全州大学校、2010年10月9日）、「敦煌学近況」（東洋文庫内陸アジア出土漢文文献研究会研究発表、於：明治大学、2010年12月18日）。

井上 和枝

③「農村振興期～戦時体制期における朝鮮女性の屋外労働と生活の変化」（『国際文化学部論集』11-2/3/4、81～104頁、2011年3月）、⑥「インタビュー記



録 植民地朝鮮の日常生活 (1) (『国際文化学部論集』11-1、47～80 (80) 頁、2010年6月)、⑦「植民地朝鮮における生活改善運動の実態とその意義—1920年代から30年代を中心に」(2010年度国立民族学博物館国際研究フォーラム「20世紀の日本における生活習慣と物質文化の近代化／近代化」、2010年10月9日～10日、於：国立民族学博物館)、「植民地期朝鮮における女性屋外労働の増加とモンペ着用」(第7回ジェンダー史学会大会 パネル3 衣生活の変化と帝国・植民地、於：お茶の水女子大学、2010年12月12日)。

井上 和人

①『平城京ロマン 過去・現在・未来』(京阪奈情報教育出版、2010年10月、189頁)、  
③「Palace remains of Thang Long Imperial citadel analysis of main excavated findings in the section A, B, D4, D5 and D6」(『考古学 (ベトナム考古学)』[越文] 2010-4、2010年4月、43～72頁)、「平城京への道程—日本古代都城出現の歴史的経緯—」(『考古学ジャーナル』No. 599、2010年5月、3～7頁)、「平城京とは—発掘調査研究をふまえて」(『図書館教育ニュース』第1210号、2010年5月、1～5頁)、「ベトナム・タンロン皇城遺跡に関わる支援事業」(『奈良文化財研究所紀要2010』奈良文化財研究所、2010年6月、6～7頁)、「木簡の再利用—木簡はお尻ぬぐいに使われた」(『木簡から古代がみえる』木簡学会編、岩波書店、2010年6月、201～209頁)、「日本古代の都城における門形制の展開」(『第13回 古代官衙・集落研究会報告書 官衙と門 報告編』、奈良文化財研究所研究報告 第4冊、2010年12月、27～50頁)、「東アジアの都城—倭国と百済の都城制における関係性について—」(『益山歴史遺産地区の世界遺産の価値』[和文・韓文] 圓光大学校、2010年、155～187頁)。

上野 英二

③「葦屋のさとしるよし—伊勢物語のあそび—」(『成城国文学論集』34輯、36頁、成城大学大学院文学研究科、2011年3月)、⑧「柳田國男と源氏物語」(『民俗学研究所ニュース』No.90、No.91、共に1頁、成城大学民俗学研究所、2010年10月、2011年1月)。

梅田 博之

③「韓国語のキョウダイ名について—再論」(『言語と文明』論集⑧、3～16頁、麗澤大学大学院言語教育研究科、2010年3月)、⑧「座談会 先学を語る—河野六郎博士」(坂井健一・大江孝男・辻星児・古屋昭弘の諸氏との座談会、『東

方学』第120輯、177～210頁、財団法人東方学会、2010年7月)。

梅原 郁

③「宋代地理のあらまし」(福本雅一編『中國文人傳 第5卷 宋3』、2～27頁、芸文書院、2010年10月)、「中國渡来錢の謎」(『黒川古文化研究所紀要 古文化研究』10、1～76頁、黒川古文化研究所、2011年3月)。

梅村 坦

②『中央ユーラシアの文化と社会(中央大学政策文化総合研究所研究叢書12)』(〈新免康〉、中央大学出版部、2011年3月、344頁)、③ On the History of Central Eurasia: Source Materials Show the Past and the Present, in: *Introducing the Faculty of Policy Studies: Integrating Policy and Culture*, Chuo University, 2010, pp.170-181.、「現代カシュガルのウイグル人鍛冶職人集団—歴史的考察への予備作業」(『中央ユーラシアの文化と社会』、317～342頁、中央大学出版部、2011年3月)、⑦「中央アジア出土資料をめぐる旅」(財団法人東洋文庫2010年度春期東洋学講座、於：三菱商事ビルディング3階、2010年5月10日、講演要旨：『東洋学報』92-2、189-191頁、財団法人東洋文庫、2010年9月)、On the International Project for Non-Chinese Manuscripts from Bezeklik: “Collaborative Study of the Old Manuscripts Written in Scripts of other than Chinese Excavated from Bezeklik and Preserved in the Turfan Museum”, at Turfan forum on old languages of the Silk Road, in Turfan, 24. Oct. 2010. (西域古典語言学術高峰論壇、中国・新疆・吐魯番学研究院、2010年10月23日～26日)、⑧「ウイグル人のタリム盆地定住」(『世界史史料4：東アジア・内陸アジア・東南アジアII・10-18世紀』、12～14頁、岩波書店、2010年11月)。

宇山 智彦

③ “The Roles of Small Regions in Intercultural Relations and Conflicts: The Bökey Horde, Gorno-Badakhshan and Abkhazia,” in Anita Sengupta and Suchandana Chatterjee, eds., *Eurasian Perspectives: In Search of Alternatives* (Delhi: Shipra Publications, 2010), pp. 64-77.、“Problemy religii i prosveshcheniia v rabotakh kazakhskoi intelligentsii: Mashkhur-Zhusip i ego sovremenniki,” in *Materialy mezhdunarodnoi nauchno-prakticheskoi konferentsii «VII chteniia Mashkhur-Zhusipa»* (Pavlodar: Pavlodarskii gosudarstvennyi universitet, September 2010), pp. 28-33.、⑤「浜由樹子著『ユーラシア主義とは何か』」(『国際政治』163号、2011年1月、

180～183頁)、⑧「クルグズスタン(キルギス)の再チャレンジ革命:民主化・暴力・外圧」(北海道大学スラブ研究センターウェブサイト、2010年4月20日掲載、1～10頁)、「悲しみと希望の国・カザフスタン」(『FOCUS ON KAZAKHSTAN 2000-2010』(映画カタログ))、カザフスタン映画上映実行委員会、2010年7月、4～6頁)、「勃興する第二地域と日本:中央アジア史から見た「文明の生態史観」」(小長谷有紀責任編集『梅棹忠夫:知的先覚者の軌跡』国立民族学博物館、2011年3月、56～57頁)。

江川 ひかり

③「徴税請負制度に立ち向かう遊牧民—西北アナトリア、ヤージュ・ベディルの事例から」(『歴史と地理 世界史の研究』224 (No.636)、1～15頁、山川出版社、2010年8月)、「19世紀中葉西北アナトリア、バルケスィル地域における遊牧民の経済状況—1840年『資産台帳』の分析を中心に—」(『駿台史学』142号、25～57頁、駿台史学会、2010年3月)、⑦ İlhan ŞAHİN & Halit Ramazan KUBILAY“Pazar Yerinden Kasabaya : Düzce'nin Doğuşu” The 13th CIEPO (第13回 前オスマン・オスマン史研究国際会議、於:トルコ共和国ヴァン市〈100周年大学〉、2010年8月30日)。

大江 孝男

⑧「座談会 先学を語る—河野六郎博士」(梅田博之・辻星兒・坂井健一・古屋昭弘の諸氏との座談会、『東方学』第120輯、177～210頁、財団法人東方学会、2010年7月)。

大河原 知樹

②『オスマン民法典(メジェッレ)研究序説』(堀井聡江、磯貝健一と共編)、NIHUプログラム「イスラーム地域研究」東洋文庫拠点、2011年3月、60頁)、③「オスマン民法典(メジェッレ)略史:起草から失効まで」(『オスマン民法典(メジェッレ)研究序説』、21～34頁)、⑦「フランス委任統治期シリアにおける結婚性向と出生力に関する一考察」(日本中東学会第26回年次大会、於:中央大学、2010年5月9日)、「文書は語る」(NIHUプログラム・イスラーム地域研究2010年度合同集会・公開講演会「イスラーム史料:原典が語りかけるもの」、2010年7月3日)、「ヨーロッパ・グローバリゼーションとイスラーム文化圏ディアスポラ・コミュニティーヨーロッパ・ギリシア・アルメニア・ユダヤ 趣旨説明」(オープン・リサーチ・センター公開講演会、2010年12月11日、『ヨーロッパ・グローバリゼーションと諸文化圏



の変容 研究プロジェクト報告書Ⅳ』、328～329頁、東北学院大学オープン・リサーチ・センター、2011年3月)、「講演(3):ハラリー事件 あるユダヤ系オスマン臣民の「越境」(オープン・リサーチ・センター公開講演会、2010年12月11日、『ヨーロッパ・グローバリゼーションと諸文化圏の変容 研究プロジェクト報告書Ⅳ』、341～351頁、東北学院大学オープン・リサーチ・センター、2011年3月)、⑧「第14章 現代国家の枠組み」(後藤明・木村喜博・安田喜憲編、立川武蔵・安田喜博監修『朝倉世界地理講座6—大地と人間の物語 西アジア』、359～361頁、朝倉書店、2010年9月)、「近代西洋文明の流入」(『朝倉世界地理講座6—大地と人間の物語 西アジア』、361～367頁)、「18世紀末以降のオスマン帝国の解体」(『朝倉世界地理講座6—大地と人間の物語 西アジア』、367～376頁)、「現代国家体制の成立」(『朝倉世界地理講座6—大地と人間の物語 西アジア』、376～384頁)、「オスマン帝国のユダヤ人問題:シリアを中心に」(『ヨーロッパ・グローバリゼーションと諸文化圏の変容 研究プロジェクト報告書Ⅳ』、412～413頁)、「イスラーム法研究の新展開」(『まなびの杜』2011春号、03～04頁、東北大学『まなびの杜』編集委員会、2011年3月)。

#### 大澤 肇

②『新史料からみる中国現代史—口述・電子化・地方文献』(高田幸男)、東方書店、2010年12月、353頁)、③「近現代中国における中等学生 of 「進路問題」—南京国民政府時期の江南地域を中心に」(『東洋学報』92-1、55～85頁、財団法人東洋文庫、2010年6月)、「国民政府時期上海以及江南地区小学教員群体研究」(唐仕春主編『近代中国社会与文化変流』、277～300頁、社会科学文献出版社、2010年11月)、「デジタル化時代の中国研究」(高田幸男・大澤肇編著『新史料からみる中国現代史』、191～213頁)、「現代中国における教科書・ナショナリズム・公共空間」(『國學院中國學會報』56、73～85頁、國學院大學中國學會、2010年12月)、④「人間文化研究機構・現代中国地域研究プログラムの紹介—歴史研究を中心に」(『近きに在りて』58、143～145頁、2010年11月)、⑦「近代中国における女子中等教育のガバナンス—1927～37年の女子教育をめぐる言説と教育実践」(神戸大学大学院人文学研究科コロキウム教育のポリシーとポリシークス—近代中国、オスマン帝国、フランスにおける教育と政治、2010年11月13日)、「現代中国における教科書・ナショナリズム・公共空間」(國學院大學中國學會 第196回例会、2010年12月4日)、「日本中國研究口述史個案: 介紹東洋文庫現代中國研究資料室の口述歴史研究成果」(革命史、知識史與中國研究國際研討會、2011年3月3日)、「戦前日本中國研究知識社群與其研究成



果：關於其數位化之情況」（革命史、知識史與中國研究國際研討會、2011年3月4日）、⑧「中国現代史の「新史料」」（『東方』357、14～15頁、東方書店、2010年10月）。

大澤 正昭

②『「名公書判清明集」(官吏門) 訳注稿 下』(清明集研究会編、汲古書院、2010年9月、47頁)、『上智大学漢籍分類目録(試行目録)』(私家版、2010年)、③『「居家必用事類全集」所引唐・王旻撰『山居録』について』(『上智史学』55号、111～140頁、2010年11月)、「農業社会史」(『魏晉南北朝隋唐史学的基本問題』、236～255頁、中華書局、2010年10月)、「唐・五代の『影庇』問題とその周辺」(『唐宋変革研究通説』第2輯、1～21頁、2011年3月)。

太田 信宏

③「植民地期の南インド史記述とその現地的起源—『ポリガール』をめぐる諸言説を中心に—」(永原陽子編『生まれる歴史、創られる歴史—アジア・アフリカ史研究の最前線から—』、93～122頁、刀水書房、2011年3月)、“Hadinarane Satamanadalli Vijayanagara Samrajyada Karnatakada Eradu Nayaka Manetanagalu: Omdu Vislesane.” (tr. by Es. Ke. Aruni, *Itihasa Darpana*, 2/1, pp.33-34, 2010 April-June).、“Tamilunadina Jimji Nayakara Mula Karnataka.” (tr. by Es. Ke. Aruni, *Itihasa Darpana*, 2/2-3, pp.32-34, 2010 July-December).、⑦‘Who Built ‘the City of Victory’? representation of a ‘Hindu’ capital in a ‘Islamicate’ world.’ The Centre for Contemporary India Area Studies at the National Museum of Ethnology. International Conference: The City in South Asia (18 July 2010, the National Museum of Ethnology)、『「伝統的」インド社会研究の現在—支配と共同性をめぐる議論を中心に—』(「前近代社会へのまなざし研究会」、於：愛知大学豊橋校舎、2010年7月31日)、「インド前近代史研究は自立できるか」(東京大学東洋史学研究室100周年シンポジウム「東洋史学100年からの展望」、於：東京大学本郷キャンパス法文2号館、2010年12月11日)。

太田 幸男

②『水経注疏訳注(渭水篇下)』(東洋文庫中国古代地域史班編、財団法人東洋文庫、2011年3月、xxxii + 684 + 38頁)、⑧「〈巻頭言〉中国出土資料雑感」(『中国出土資料研究』第14号、1～8頁、中国出土資料研究会、2010年6月)、「陳橋駅先生との会見記」(東洋文庫中国古代地域史班編『水経注疏訳注(渭水

篇下)』、67～80頁)。

大谷 俊太

③「幽斎の歌論一名所ならぬ所の和歌の詠み方」(森正人・鈴木元編『細川幽斎一戦塵の中の学芸』、76～90頁、笠間書院、2010年10月)、「後水尾院『古歌御注』攷」(『叙説』38、227-238頁、奈良女子大学、2011年3月)。

岡田 英弘

①『モンゴル帝国から大清帝国へ』(藤原書店、2010年11月、555頁)、⑦「講演 世界史の誕生『モンゴル帝国から大清帝国へ』を出版して」(2011年1月8日、『環』vol.45、256～265頁、藤原書店、2011年4月)、⑧「モンゴル帝国から大清帝国へ」(『機』No.224、10～11頁、藤原書店、2010年11月)。

岡野 誠

③李力訳「關於天聖令所依抛唐令的年代」(中国政法大学法律古籍整理研究所編『中国古代法律文献研究』第4輯、116～139頁、法律出版社、2010年12月)、「旅順博物館・中国国家図書館における『唐律』『律疏』断片の原卷調査」(文部科学省科学研究費補助金・基盤研究(C)『内陸アジア出土4～12世紀の漢語・胡語文献の整理と研究』[研究代表者:土肥義和]研究成果報告書、平成22年度分冊、3～12\*頁、財団法人東洋文庫、2011年3月)、⑦「唐宋史料に見る「法」と「医」の接点」(杏雨書屋第25回研究講演会、2010年4月24日、講演記録:『杏雨』14、130～166頁、(財)武田科学振興財団、2011年6月)、⑦「敦煌文献と法史学」(「法と文化研究会」第2回、於:明治大学、2010年12月16日)、⑧「島田正郎先生との論争」(『東洋法制史研究会通信』18、3～4頁、東洋法制史研究会、2010年8月)、「島田正郎先生の足跡」(『法制史研究』60、344～348頁、法制史学会、2011年3月)、⑧「意志の人・情の人—島田先生の思い出」(『法史学研究会会報』15、211～213頁、法史学研究会、2011年3月)。

小川 裕充

③「東アジア美術史の可能性」(『美術史論叢』27、21～50頁、東京大学大学院人文社会系研究科・文学部美術史研究室、2011年3月)。

小田 壽典

①『仏説天地八陽神呪經一卷 トルコ語訳の研究』(法藏館、2010年5月、808頁(2

卷))。

梶谷 懐

③「財政制度改革と中央—地方関係」(加藤弘之・上原一慶編『現代中国経済論』、121～138頁、ミネルヴァ書房、2011年3月)、「農民的採業行為と土地資源分配—四川省、浙江省農民的微観数掘分析」(小原江里香氏との共著、加藤弘之・呉柏均主編『城市化と区域経済発展研究』、313～332頁、華東理工大学出版社、2011年3月)、「「開放小国」としての中国経済」(日本現代中国学会2010年度関西部会、2010年6月5日)、「「開放小国」中国の金融政策と資産価格」(神戸大学金融研究会、2010年10月16日)、「農民の就業選択行動と土地資源分配—四川省と浙江省のマイクロデータの分析から」(小原江里香氏との共同研究、2010年農村都市一体化と経済社会発展に関する国際学術会議、於：中国華東理工大学、2010年11月6～7日)、⑧「米中の人民元論争：評価が困難な「適正レート」切り上げで米経済回復は疑わしい」(『エコノミスト』第88巻第43号、36～37頁、2010年7月27日)、「中国の地方財政は破綻するか?」(『日中経協ジャーナル』200、12～13頁、2010年9月)、「「壁と卵」の視点から現代中国をみる(中国現代史研究会40周年記念企画)」(『現代中国研究』27、116～120頁、2010年10月)。

粕谷 元

①『文献目録 トルコの世俗主義(ラーイクリキ)』(SOIAS Research Paper Series No.5、上智大学イスラーム地域研究機構、2011年3月)、②『トルコ共和国とラーイクリキ』(SOIAS Research Paper Series No.4、上智大学イスラーム地域研究機構、2011年3月)⑦「1923年のトルコにおけるカリフ制論議」(日本中東学会第26回年次大会、於：中央大学、2010年5月9日)、「トルコ独立戦争の光と影—オスマン帝国、トルコ共和国、クルディスタン」(朝日カルチャーセンター「国境の世界史」、於：朝日カルチャーセンター・新宿、2010年8月6日)、「イスラームの現在」(平成22年度日本大学付属高等学校等夏期教科研修会、於：日本大学会館、2010年8月19日)、「lâyiklik 再考—歴史学的視点から」(SOIAS 公募研究「イスラーム社会の世俗化と世俗主義」・東洋文庫現代イスラーム研究班トルコグループ共催研究会、於：上智大学、2010年9月11日)、「トルコ議会史研究の現在」(東洋文庫現代イスラーム研究班合同研究会、於：東洋文庫、2011年3月6日)。

糟谷 憲一

④「日本における朝鮮近代史研究の成果と課題」(『日韓相互認識』第3号、「日



韓相互認識」研究会、2010年4月)、⑤「月脚達彦『朝鮮開化思想とナショナルイズム—近代朝鮮の形成—』(東京大学出版会、2009年3月)、『朝鮮史研究会会報』第179号、27～32頁、朝鮮史研究会、2010年5月)、⑦「世界・アジアのなかの日朝関係～19世紀後半から現在まで」(2010年度一橋大学社会学部連続市民講座「ローカル、ナショナル、グローバル—世界は小さくなったのか」第2回、於：一橋大学兼松講堂、2010年5月)、「『韓国併合』100年と朝鮮近代史」(朝鮮学会第61回大会講演、於：天理大学、2010年10月)、「甲午改革期以後の朝鮮における権力構造について」(東洋史研究会大会、於：京都大学文学部、2010年11月)、「朝鮮の植民地化と東アジア」(歴史科学協議会第44回大会、於：中京大学、2010年11月)

片桐 一男

③「東海道本陣史料にみるカピタンの旅」(『洋学史研究』第27号、1～49頁、洋学史研究会、2010年4月)、⑤「『四十五様』について」(『洋学史研究』第27号、90～109頁、洋学研究会、2010年4月)、⑦「長崎海軍伝習と榎本武揚」(開陽丸子孫の会特別講演、2010年4月29日)、「一歿後210年頭彰一刺絡緘法中興の祖 阿蘭陀通詞 吉雄幸左衛門耕牛の事蹟」(日本刺絡学術大会招待講演、2010年6月26日)、「異国の人・物・情報が集まる 日本橋長崎屋—それでも江戸は鎖国だったのか—」(「文化財からみる中央区の歴史」生涯学習基礎講座歴史編、於：東京都中央区教育センター、2010年6月30日)、「一歿後210年頭彰一刺絡緘法中興の祖 阿蘭陀通詞 吉雄幸左衛門耕牛の事蹟」(洋学史研究会月例研究会、2010年7月3日)、「幕末・維新、いのちを支えた先駆者の軌跡—松本順と「愛生館」事業—」(平成22年度公益法人秋山記念生命科学振興財団講演会、2010年9月8日)、「蘭学家老 鷹見泉石の幕末日本—その、挺身と希求—」(第183回幕末史研究会講演、2011年1月15日)、「ボンペ・松本良順・養生所」(洋学史研究会新春研究大会〈西暦1861年、文久元年、NIPPON近代化元年—洋学が果たした役割〉、2011年1月30日)。

片山 剛

③「近世・近代 広東珠江デルタの由緒言説について」(歴史学研究会編『由緒の比較史』、97～123頁、青木書店、2010年5月)、「擁有土地自然的重層結構—20世紀前期広東農村的単位地名及単宗農田的領域」(布和訳、『日本当代中国研究2010』、60～81頁、人間文化研究機構(NIHU)当代中国地区研究基地聯合項目核心基地 早稲田大学現代中国研究所、2010年10月)。

加藤 直人

②『内国史院檔 天聰五年 I』(東洋文庫東北アジア研究班編、財団法人東洋文庫、2011年3月、xxiv + 151頁)。

金丸 裕一

⑤「書評 欒玉璽「青島の都市形成史:1897-1945—市場経済の形成と展開—」」(『経済学論究』64-4、159～167頁、関西学院大学経済学部研究会、2011年3月)、

⑥「王樹槐著『上海電力産業史の研究』」(山腰敏寛氏・星野多佳子氏との共訳、ゆまに書房、2010年10月、14+283頁)。

金子 修一

②『世界史史料4:東アジア・内陸アジア・東南アジアII 10-18世紀』(歴史学研究会編〈岸本美緒氏・栗原浩英氏・古田元夫氏・柳澤明氏・李成市氏と共編〉、岩波書店、2010年11月、446頁)、③「唐朝と皇帝祭祀—その制度と現実—」(『歴史評論』第720号、17～33頁、歴史科学協議会(校倉書房)、2010年4月)、「唐代後半期の朝賀之礼」(小澤勇司氏と共著、杜文玉主編『唐史論叢』第12輯、1～28頁、陝西師範大学唐史研究所・中国唐史学会(三秦出版社)、2010年4月)、「東アジア世界論」(荒野泰典・石井正敏・村井章介編『日本の対外関係I 東アジア世界の成立』、192～216頁、吉川弘文館、2010年6月)、「古代東アジア世界論とその課題」(『メトロポリタン史学』第6号、61～88頁、メトロポリタン史学会(首都大学東京)、2010年12月)、④「中国唐史学会第十屆年会第二次會議暨唐史国際学術検討会参加報告」(内田宏美氏と共著、『唐代史研究』第13号、143～150頁、唐代史研究会、2010年8月)。

辛島 昇

③ N. Karashima, Y. Subbarayalu, & P. Shanmugam: “*Mathas and Medieval Religious Movements in Tamil Nadu: An Epigraphical Study*”, *Indian Historical Review*, Vol. 37, No. 2, December 2010, pp. 217-234., 「南インドにおける古代から中世への移行—タミル語刻文の検討から—」(『南アジア研究』22号、日本南アジア学会、2010年12月、198～210頁)、「新聞の〔求婚広告〕に見るカースト社会の変化」(辛島貴子氏と共著、『現代インド・フォーラム』No. 7 (2010年秋号)、日印協会、3～10頁)、⑦ “The Importance of Indian Epigraphy: The Emergence of Medieval South Indian Society as Revealed by the Change in Imprecation in Tamil Inscriptions”, at Nalanda-



Srivijaya Centre, Institute of Southeast Asian Studies, Singapore, on December 2, 2010.

川井 伸一

③「海外経営の実態 東南アジアの現地メーカー企業の事例から」(『日中経協ジャーナル』No.195、8～11頁、2010年4月)、「中国における会社支配の歴史的検討」(中兼和津次編著『歴史的視野からみた現代中国経済』、183～210頁、ミネルヴァ書房、2010年4月)、「中国企業の対外進出と東南アジア—理論的再検討」(田中英式・宮原暁・山本博之共編『地域研究コンソーシアム共同企画研究シンポジウム報告書 ASEAN・中国 19億人市場の誕生とその衝撃』、26～34頁、地域研究コンソーシアム・京都大学地域研究総合情報センター・愛知大学国際中国学研究センター、2011年3月)、⑦「中国企業の対外進出と東南アジア—理論的再検討」(基調講演：地域研究コンソーシアム(JCAS)共同企画研究シンポジウム「ASEAN・中国 19億人市場の誕生とその衝撃」、於：愛知大学、2010年11月3日、報告要旨：同プログラム・予稿集 11～16頁)、「中国経済の対外拡張と中国企業・その課題」(第2回中国国際化に関する国際ワークショップ「拡大する中国の国際的影響と国際社会の対応」、主催：愛知大学国際中国学研究センター、2010年12月5日、報告要旨：同プログラム・予稿集、9頁)。

川合 安

⑦「1930年代、仙台における中国史研究」(みやぎ県民大学講座、2010年9月18日)。

川崎 信定

③「真言教学と戒律—十善道をめぐって—」(『智心会報』平成22年度、2～19頁、智山勸学会、2011年1月)、⑤「田中公明著『インドにおける曼荼羅の成立と発展(2010年2月1日、春秋社刊)』(『東方』第26号、212～215頁、東方研究会、2011年3月)、⑦「人間の知恵・ほとけの智慧—チベット資料を中心とした仏教知識論研究—」(大正大学総合佛教研究所平成22年度特別講義、第1回：5月12日、第2回：5月26日、第3回：6月23日、第4回：7月7日、第5回：10月6日、第6回：10月27日、第7回：11月24日、第8回：12月15日、第9回：1月19日、第10回：2月16日)、：「仏教文化の諸相」(真言宗豊山派教化センター公開講座、於：真言宗豊山派宗務所、第1回：4月20日、第2回：5月25日、第3回：6月8日、第4回：7月2日、第5回：9月3日)、⑧「三

枝充恵先生を偲ぶ」(『印度學佛教學研究』59-2、255～259頁、日本印度学佛教学会、2011年3月)。

川島 真

①『近代国家への模索 1894-1925』(シリーズ中国近現代史②、岩波書店[岩波新書・赤版1250]、2010年12月、242+5頁)、②劉傑・川島真編『1945年の歴史認識—圍繞“終戦”的中日対話嘗試』(社会科学文献出版社、2010年、311頁)、『岩波講座東アジア近現代通史 第1巻 東アジア世界の近代 19世紀』(〈和田春樹・後藤乾一・木畑洋一・山室信一・趙景達・中野聡)、岩波書店、2010年12月、377頁)、『岩波講座東アジア近現代通史 第2巻 日露戦争と韓国併合 19世紀末—1900年代』(〈和田春樹・後藤乾一・木畑洋一・山室信一・趙景達・中野聡)、岩波書店、2010年10月、380頁)、『岩波講座東アジア近現代通史 第3巻 世界戦争と改造 1910年代』(〈和田春樹・後藤乾一・木畑洋一・山室信一・趙景達・中野聡)、岩波書店、2010年11月、385頁)、『岩波講座東アジア近現代通史 第4巻 社会主義とナショナリズム 1920年代』(〈和田春樹・後藤乾一・木畑洋一・山室信一・趙景達・中野聡)、岩波書店、2011年3月、396頁)、『岩波講座東アジア近現代通史 第6巻 アジア太平洋戦争と「大東亜共栄圏」1935-1945年』(〈和田春樹・後藤乾一・木畑洋一・山室信一・趙景達・中野聡)、岩波書店、2011年1月、406頁)、『岩波講座東アジア近現代通史 第7巻 アジア諸戦争の時代 1945-1960年』(〈和田春樹・後藤乾一・木畑洋一・山室信一・趙景達・中野聡)、岩波書店、2011年2月、402頁)、③「日中外交懸案としての教科書問題—1910～40年代」(並木頼寿・大里浩秋・砂山幸雄編著『近代中国・教科書と日本』、365～393頁、研文出版、2010年8月)、「1945年9月以后的在日中国人—以法律地位和政治變動為主」(中国社会科学院近代史研究所民国史研究室・四川師範大学歴史文化学院編『一九四〇年代の中国』下巻、902～909頁、社会科学文献出版社、2009年)、「近現代中国における国境の記憶—「本来の中国の領域」をめぐる」(『境界研究』1号、1～17頁、2010年)、「晚清外務的形成—外務部的成立過程」(薛軼群訳、『中山大学学报 社会科学版』51巻、2011年第1期、87～97頁、2011年1月)、「僑郷としての金門—歴史的背景」(『地域研究』11-1、43～61頁、2011年3月)、④「20世紀以来中国外交史研究—以日本為中心」(『社会科学研究』192期、134～144頁、四川省社会科学院、2011年1月)、⑤「評青山瑠妙《現代中国的外交》(慶應義塾大学出版会、2007年)」(『日本当代中国研究』2009、176～181頁、2010年)、⑧「外交—主權と国益」(〈特集 超大国への飛翔?—建国60年からの一步〉、中国研究所編『中

国年鑑 2010』、71～76頁、中国研究所発行、毎日新聞社発売、2010年5月）、「通史 東アジア世界の近代 一九世紀」（『岩波講座東アジア近現代通史 第1巻』、1～47頁）、『日中歴史共同研究』の三つの位相—難題はどこにあったのか」（笠原十九司編『戦争を知らない国民のための日中歴史認識—「日中歴史共同研究〈近代史〉」を読む』、73～92頁、勉誠出版、2011年1月）。

貴志 俊彦

①『満洲国のビジュアル・メディア—ポスター・絵はがき・切手』（吉川弘文館、2010年6月、248頁）、②『近代アジアの自画像と他者—地域社会と「外国人」問題』（京都大学学術出版会、2011年3月、400頁）、③日中戦争期、満洲国の宣伝と芸術—甘粕正彦と武藤富男」（エズラ・ヴォーゲル、平野健一郎編『日中戦争期中国の社会と文化』、97～112頁、慶應義塾大学出版会、2010年6月）、「自画像と他者への視線—歴史学におけるトランス・ナショナリティ研究の提起」（『近代アジアの自画像と他者』、1～11頁）、「第一次世界大戦後の中国におけるヨーロッパ人の地位—中華国外交部档案からみる条約国と無条約国との法的差異」（『近代アジアの自画像と他者』、199～228頁）、⑧「研究室探訪4 文書資料と非文字資料の解釈学—歴史から地域を考える」（『京都大学地域研究統合情報センターニューズレター』No.7、5～7頁、京都大学地域研究統合情報センター、2010年9月）、「災害・復興・支援—環境情報学から考える—」（谷口真人氏・原正一郎氏・山本博之氏との共著、『シーダー SEEDer』第3号、55～65頁、昭和堂、2010年12月）、「金門島研究の魅力と課題」（陳來幸氏・川島真氏との共著、『地域研究』Vol.11、No.1、20～42頁、2011年3月）。

岸本 美緒

①『清代中国的物価与経済波動』（『清代中国の物価と経済変動』研文出版、1997年、の中国語版。劉迪瑞氏訳・胡連成氏審校、国家清史編纂委員会・編訳叢刊、社会科学文献出版社、2010年4月、501頁）、②『世界史史料4：東アジア・内陸アジア・東南アジアⅡ 10-18世紀』（歴史学研究会編〈金子修一・栗原浩英・古田元夫・柳澤明・李成市〉、岩波書店、2010年11月、413頁）、③「“老爺”和“相公”—由称呼所見之地方社会中的階層感」（張国剛・余新忠主編『新近海外中国社会史論選訳』、106～127頁、天津古籍出版社、2010年6月）、「中国史研究中的“近世”概念」（黄東蘭訳、黄東蘭主編『新史学 第四卷 再生産的近代知識』中華書局、2010年12月、81～98頁）、④「明清期の身分と日本近世の身分」（『部落問題研究』195号、2011年1月、8～22頁）、『一



橋大学の中国社会科学研究』(日本のアジア地域研究シリーズ Booklet Series No.7、ニーズ対応型地域研究推進事業「アジアのなかの中東：経済と法を中心に」[代表・加藤博]プロジェクト事務局、2011年3月、47頁)、「東アジア史の『パラダイム転換』をめぐる」(国立歴史民俗博物館編『「韓国併合」100年を問う 2010年国際シンポジウム』、228～239頁、岩波書店、2011年3月)、⑤「永田雄三『前近代トルコの名士』」(『歴史学研究』868号、49～52頁、2010年7月)、「西英昭『台湾私法』の成立過程—テキストの層位学的分析を中心に—」(『社会経済史学』76巻4号、126～128頁、2011年2月)。

北川 香子

③「スロック・チャムカーの人と地—フランス国立海外公文書センター所蔵文書 INDO-RSC-00271 の分析」(『東南アジア—歴史と文化—』39、86～108頁、東南アジア学会、2010年)、「ナーガとインドラーカンボジア王朝年代記「伝説部分」—」(『南方文化』37、183～212頁、天理南方文化研究会、2010年12月)。

金 鳳珍

②『인권의 정치사상 (人權の政治思想)』(〈김비환, 유홍림, 김범수, 홍원표, 박준혁, 김병곤, 오영달, 최형익, 박의경, 김은실, 김봉진, 김석근, 오문환, 홍태영, 김남국, 김병욱〉서울: 이학사、2010年10月、623頁)、「서구「권리」관념의 수용과 변용: 유길준과 니시아마네의 비교 (西欧「權利」觀念の受容と変容: 兪吉濬と西周の比較)」、375～413頁)、『國際關係学の第一歩』(小尾美千代・中野博文・久木尚志編、法律文化社、2011年3月、242頁)、「東アジア共同体の構想・構築を考える」、96～113頁)、「朝鮮の近代初期における万国公法の受容—対日開国前夜から紳士遊覧団まで」(『19世紀東アジアにおける國際秩序觀の比較研究』、173～213頁、財団法人國際高等研究所、2010年6月25日)、「반일과 역사화해 (反日と歴史和解)」(『日本批評』第4号、249～269頁、서울대학교日本研究所、2011年2月)。

楠木 賢道

②『内国史院檔 天聰五年 I』(東洋文庫東北アジア研究班編、財団法人東洋文庫、2011年3月、xxiv + 151頁)、③「《両国会盟録》中所見志筑忠雄与阿部龍平对清朝北亞之理解—江戸時代知識分子的“新清史”」(『民族史研究』9、392～437頁、中央民族大学出版社、2010年5月)、「新太宗皇太極の太廟儀式和堂子—關於滿漢兩種儀式的共処情況」(『清史研究』81、124～129頁、中国人民大学、

2011年2月)、⑦「江戸時代知識人の露清関係史研究—馬場為八郎が翻訳したローレンツ＝ランゲの日記を中心に—」(第46回社会文化史学会大会、2010年7月)、「太宗皇太極引進の太廟礼儀和堂子：満漢礼儀的共処情況」(中国社会科学院近代史研究所主催「清朝満漢関係史国際学術討論会」、2010年8月)、「江戸知識分子理解的清朝」(北京市社会科学院「“満学：歴史与現状”国際学術討論会」、2010年8月)。

久保 亨

①『社会主義への挑戦』(シリーズ中国近現代史④、岩波書店〔岩波新書・赤版1252〕、2011年1月、209頁)、③“China's Economic Development and the International Order of Asia,” (in Akita, Shigeru and White, Nicholas J. ed. *The International Order of Asia in the 1930s and 1950s*, Ashgate, 2010, pp.233-254)、「東アジアの総動員体制」(和田春樹ほか編『岩波講座東アジア近現代通史 第6巻 アジア太平洋戦争と「大東亜共栄圏」1935-1945年』、47～72頁、岩波書店、2011年1月)、「關於戦時華北工業普查」(天津社会科学院・天津市社会科学界連合会主辦『城市史研究』第26輯、59～80頁、天津社会科学院出版社、2010年9月)、④「五十年代中国研究に向けた国際協力：『一九五〇年代的中国社会；档案与民間史料研読班工作會議』参加記」『信大史学』35、66～73頁、2010年11月)、⑦「20世紀中国経済的国際環境」(単独発表、第3回「近代世界と中国」国際シンポジウム、於：〔北京〕中国社会科学院近代史研究所、2010年5月22・23日)、「20世紀江南城市棉紡業的曲折發展」(単独発表、「明清以来の江南都市の發展と文化交流」国際シンポジウム、於：〔上海〕復旦大学、2010年8月15・16日)、「民国末期經濟自由主義的發展趨向」(単独発表、第6回“中華民國史”国際シンポジウム、於：南京大学、2010年8月20・21日)、「日本的“50年代中国社会研究”的成果和史料」(単独発表、「1950年代の中国社会：文書史料と民間史料に関するセミナーを準備するためのワークショップ」、於：〔上海〕華東師範大学、2010年9月18・19日)、「同時代日本の中華民國認識」(単独発表、民国史論の会ワークショップ“20世紀中国における立憲主義と自由”、於：広島国際会議場、2010年10月2・3日)。

窪添 慶文

②『水経注疏訳注(渭水篇下)』(東洋文庫中国古代地域史班編、財団法人東洋文庫、2011年3月、xxxii + 684 + 38頁)、③「北魏墓誌中の銘辞」(『立正大学文学部紀要』133、1～23頁、2011年3月)。



黒田 卓

③「テヘラン」（朝倉地理講座第6巻『西アジア』4章3節、135～137頁、朝倉書店、2010年8月）、「イラン人」（朝倉地理講座第6巻『西アジア』9章2節、267～271頁、朝倉書店、2010年8月）、「イランソヴェート社会主義共和国（「ギーラン共和国」）におけるコムニスト政変—その歴史の再構成と歴史認識の変遷—」（岡洋樹編『歴史の再定義：旧ソ連圏アジア諸国における歴史認識と学術・教育』東北アジア研究センター叢書第45号、133～168頁、東北大学東北アジア研究センター、2011年3月）、⑦「18世紀末インド在住イラン知識人のヨーロッパ表象—アブドル・ラティーフ・シューシュタリーの『世界の賜物』を中心に—」（東北大学国際文化研究科・中東「表象」研究会、2010年7月28日）、「イングランドに渡ったイラン人—西洋近代との邂逅の現場から—」（第17回東北大学国際文化研究科公開講座、2010年11月13日、要旨：『講義資料集』、43～96頁、東北大学国際文化研究科、2010年10月）。

氣賀澤 保規

②『明大寄託新収の中国北朝・唐代の墓誌石刻資料集—その紹介と解説—』（『古代学研究所』13号（特集号）、明治大学東アジア石刻文物研究所、2010年3月、68頁）、『洛陽学国際シンポジウム報告論文集 東アジアにおける洛陽の位置』（明治大学大学院文学研究科・明治大学東アジア石刻文物研究所、2011年3月、218頁）、③「正史の中の仏教」（『新アジア仏教史07 中国Ⅱ隋唐 興隆・発展する仏教』、332～335頁、校正出版社、2010年6月）、「倭国的遣隋使和洛陽—紀念小野妹子遣隋使1400周年」（『日本学研究』5・第二屆東亜文化交流国際研討会専集、17～24頁、香港教育出版社、2010年8月）、「中国南北朝隋唐期をめぐる仏教社会史研究の地平」（『佛教史學研究』53-1、82～102頁、仏教史学会、2010年11月）、「房山雲居寺石経山所蔵の隋唐石経—「石経山九洞所蔵隋唐石経目録」の作成をめぐる—」（『東アジア石刻研究』3、33～45頁、明治大学東アジア石刻文物研究所、2011年3月）、「石経山九洞所蔵隋唐石経目録」（『東アジア石刻研究』3、46～62頁）、「山西省太原地区並びに山西・西安地区仏教石刻調査報告」（高瀬奈津子氏・江川式部氏と共著、『東アジア石刻研究』3、78～87頁）、「洛陽学序論—中国史における洛陽の位置—」（『洛陽学国際シンポジウム報告論文集 東アジアにおける洛陽の位置』、23～45頁、明治大学大学院文学研究科・東アジア石刻文物研究所、2011年3月）、④「“洛陽学”在日本誕生」（陳濤訳、『中国社会科学報』2011年2月22日、第13面「域外」、中国

社会科学院)、⑤「趙振華著『洛陽古代銘刻文献研究』所載墓誌等主要石刻資料目録」(『東アジア石刻研究』3、93～96頁)、⑦「中国唐代の茶と陸羽『茶経』の世界一茶は如何にして嗜好品になったか」(本草薬膳学院、2010年4月22日)、「中国北朝時代(6世紀)の農書『齊民要術』が語る食文化一東アジアの食の原点」(本草薬膳学院、2010年5月21日)、「唐代後期的“巡礼”和地方社会」(台湾、中興大学歴史系「中国中古社会与国家国際学術研討会」、2010年6月12日)、「古代東アジア国際関係の中の倭国遣隋使一『隋書倭国伝』と『日本書紀』の比較から一」(総合古代史市民大学、東アジア古代文化を考える会、2010年6月26日)、「新発見石刻「円仁法王寺舍利藏誌」の紹介とその意義」(第3回中国石刻合同研究会、2010年7月24日)、「洛陽と唐宋変革と東アジア」(明治大学「洛陽学国際シンポジウム一東アジアにおける洛陽の位置」、2010年11月27日・28日)、「房山雲居寺及其石経」(清華大学歴史系講演、2010年12月14日)、「隋唐の仏教と石刻」(平成22年度國學院大學文化講演会「円仁石刻と古代の日中文化交流一法王寺釈迦舍利藏誌の史料性と史実」、2011年1月23日)、「石碑と歴史学」(関野貞プロジェクト「文化財保護と石碑の世界」、2011年1月25日)、⑧「追憶恩師王永興先生一我的北京大学留学回憶」(『通向義寧之学 王永興先生紀念文集』、中華書局、361～372頁、2010年6月)、「BS朝日開局10周年記念 伝説の美女楊貴妃～藤原紀香 西安1300年紀行～」の監修(歴史考証、BS朝日制作、2010年11月14日放送)。

#### 巖 善平

①『中国農民工の調査研究一上海市・珠江デルタにおける農民工の就業・賃金・暮らし』(晃洋書房、2010年12月、281頁)、③「20世紀中国における地域間人口移動」(中兼和津次編『歴史的視野からみた現代中国経済』、77～109頁、ミネルヴァ書房、2010年4月)、「中国・珠江デルタにおける雇用と賃金に関する実証分析一某外資企業の事例分析を中心に」(『中国経済』、129～141頁、日本貿易振興会、2010年7月)、「中国における人口転換と経済発展一無制限的労働供給の終焉にどう立ち向かうか」(『AJECレポート』、51～58頁、北陸環日本海経済交流促進協議会、2010年7月)、「農民工子弟の教育政策と民工学校の実態一上海市の事例分析を中心に」(『東亜』、22～31頁、霞山会、2010年12月)、「農業と農産物貿易」(佐々木信彰編著『構造転換期の中国経済』、16～39頁、世界思想社、2010年12月)、「上海市就業調査にみる二重労働市場の変容」(『桃山学院大学総合研究所紀要』第36巻第2号、1～17頁、2011年1月)、「農村社会経済の変容」(加藤弘之・上原一慶編『現代中国経済論』、61～78頁、ミ

ネルヴァ書房、2011年3月)、「農民工子女学校教育の政策と実態」(中兼和津次編『改革開放以後の経済制度・政策の変遷とその評価』、203～223頁、NIHU現代中国早稲田大学拠点 WICCS 研究シリーズ4、2011年3月)、⑤「阿古智子著『貧者を食らう国：中国格差社会からの警告』」(『中国研究月報』、31～32頁、一般社団法人中国研究所、2010年5月)、⑥「中国における農村貧困削減の取り組みと成果」(『中国研究月報』、1～13頁、一般社団法人中国研究所、2010年6月)、「中国の農業・農村・農民問題」(『経済セミナー』2010年8・9月号、38～42頁)、「中国動態・農村との社会格差で沿海部に集まる大卒者」(『週刊東洋経済』2010年10月23日、136～137頁)、「中国動態・高成長といびつな男女比 功罪半ばの1人っ子政策」(『週刊東洋経済』2010年11月27日、136～137頁)、「中国動態・不平等な1国2戸籍 二重構造の解消を急げ」(『週刊東洋経済』2011年1月8日、98～99頁)、「中国動態・労働力不足の真因は制度の欠陥にあり」(『週刊東洋経済』2011年2月12日、100～101頁)、「中国動態・国民皆年金がスタート 少子高齢化で前途多難」(『週刊東洋経済』2011年3月19日、94～95頁)。

#### 黄 東蘭

②『再生産的近代知識』(『新史学』第四卷、中華書局、2010年12月、235頁)、③「書写中国—明治時期日本の支那史・東洋史教科書の中国表述」(黄東蘭編『再生産的近代知識』、130～161頁)、「桑原隲蔵東洋史教科書とその漢訳テキスト—『東亜史課本』との比較分析を中心に」(『愛知県立大学外国語学部紀要』〈地域研究・国際学編〉第42号、2011年3月、61～82頁)、④“Revolution, War, and Villages: A Case Study on Villages of Licheng County, Shanxi Province during the War of Resistance Against Japan” (*Frontiers of History in China*, Vol. 6, No. 1, March 2011, pp. 95-116)、「清末・民国期地理教科書の空間表象—領土・疆域・国恥」(並木頼寿・大里浩秋・砂山幸雄編著『近代中国・教科書と日本』、233～265頁、研文出版、2010年8月)、⑤「歴史学」(『中国年鑑2010』、242～244頁、社団法人中国研究所発行、毎日新聞社発売、2010年5月)、⑥「高江洲昌哉著『近代日本の地方統治と「島嶼」』」(『東アジア近代史』第13号、2010年3月、188～191頁)、⑦「岸本美緒「中国史研究中的“近世”概念」」(黄東蘭編『再生産的近代知識』、81～98頁)、⑧「作為近代知識の時間与空間—以中日両国の東洋史教科書為中心」(「概念与記憶—中国人文科学研究的新動向」シンポジウム、於：[中国] 南京大学、2010年1月27日)、「「東洋史」から「中国史」へ—桑原隲蔵『中等東洋史』の漢訳テキストを通して」(アジア教育史学会、2011年1月



29日)、⑧「再生産的近代知識—中国語境」(『中華読書報』2011年3月9日)。

小嶋 芳孝

③「海東盛国」渤海の考古学(松藤和人・門田誠一編『よくわかる考古学』、210～213頁、ミネルヴァ書房、2010年5月)、「クラスキノ城跡井戸出土土器群の考察」(『北東アジアの歴史と文化』、213～229頁、北海道大学出版会、2010年12月)、⑧「環日本海地域の歴史に関する実践的教育(2009年)の概要報告」(『金沢学院大学紀要』第9号、43～62頁、金沢学院大学、2011年3月)、「ロシア沿海地方における渤海遺跡調査(2010年)」(『金沢学院大学紀要』第9号、429～442頁、金沢学院大学、2011年3月)。

小杉 泰

②『イスラームの歴史2 イスラームの拡大と変容』(〈宗教の世界史12〉、山川出版社、総279頁+70頁、2010年10月)、③“The Islamic Umma And Umma-Based Institutions Between The International Society And The Globalized World”, *Proceedings of the IAS-AEI International Conference on “New Horizons In Islamic Area Studies: Islamic Scholarship Across Cultures & Continents,”* Asia-Europe Institute, University of Malaya, pp. 305-312, 2010.、「中東における戦争・内戦と政治変容」(『中東研究』第509号、29～49頁、中東調査会、2010/2011)、「イスラームとは」(サウジアラビア王国大使館文化部編『日本に生きるイスラーム—過去・現在・未来—』、15～33頁、サウジアラビア王国大使館文化部、2010年7月)、「近代と邂逅するイスラーム」(『イスラームの歴史2』、003～036頁)、「イスラームの再構築」(『イスラームの歴史2』、037～067頁)、「環インド洋地域におけるイスラーム復興」(『イスラーム世界研究』4巻1-2号、2011年3月)、⑦“Tasks and Prospects of Islamic Economics as a Frontier Science,” G-COE/ KIAS/ Durham University Joint International Workshop on “Islamic Economics: Reconsidering the Idea of Islamic Finance”, at Durham University, July 12-13, 2010.、“Islamic Revival and Islamization of Sciences: A Japanese Perspective,” International Symposium on “Islam, Science and Civilization”, at Kyoto University, November 11, 2010.、“Islamic Area Studies: Japanese/Global Perspectives,” Kyoto International Conference of Islamic Area Studies on “Continuity, Contestations, and the Future,” December 17, 2010.、“Japanese Global Perspective on the Study of Islam: An Alternative to Western Perspective,” International Workshop, at IAIS Malaysia, February 18, 2011.、“Civilization, Technology and Science: A Japanese Reinterpretation of Global History,”



3rd International Kyoto University-UKM Symposium on “Islam and Civilization” at Institute Islam Hadhari, National University of Malaysia, February 21, 2011., “Current State of Islamic Studies in Japan,” Public Lecture on “The Impact of New Media and Communication Technology on Islam in Indonesia”, at State Islamic University “Syarif Hidayatullah” Indonesia, February 23, 2011.

小浜 正子

②『世界の出生—儀礼から先端医療まで』（松岡悦子、勉誠出版、2011年3月、全334頁）、③「戦時中国の救済工作—国際紅十字会と世界紅十字会の救済ネットワーク」（エズラ・ヴォーゲル、平野健一郎編『（日中戦争の国際共同研究3）日中戦争期中国の社会と文化』、197～213頁、慶応大学出版会、2010年6月）、「計画生育の開端—1950-1960年代的上海」（『中央研究院近代史研究所集刊』第68期、97～142頁、2010年6月）、「中国における計画生育のはじまり—1950～60年代の上海を中心に」（『近きに在りて』第58号、59～70頁、2010年11月）、「上海女性の生育をめぐる語り」（高田幸男・大澤肇編『新史料からみる中国現代史—口述・電子化・地域文書』、49～66頁、東方書店、2010年12月）、「中国におけるバース・コントロールの方法」（服藤早苗・三成美保編『権力と身体』ジェンダー史叢書1、142～160頁、明石書店、2011年1月）、「中国史教育とジェンダー」（長野ひろ子・姫岡とし子編『歴史教育とジェンダー』、77～90頁、青弓社、2011年2月）。

小松 久男

③「中央アジアのムハージル」（宮治美江子編『中東・北アフリカのディアスポラ』（叢書 グローバル・ディアスポラ 3）、102～125頁、明石書店、2010年5月）、「中央ユーラシアの変容と波動」（小杉泰編『イスラームの歴史2 イスラームの拡大と変容』（宗教の世界史12）、131～164頁、山川出版社、2010年10月）、「From Holy War to Autonomy: Dār al-Islām Imagined by Turkestan Muslim Intellectuals,」（Svetlana Gorshenina and Sergej Abashin eds., *Le Turkestan Russe: Une colonie comme les autres?*, Cahiers d'Asie Centrale, 17/18, Tachkent-Paris, 2009, pp449-475.）、⑥「V.V. パルトリド著『トルキスタン文化史 1-2』（平凡社「東洋文庫 805・806」、2011年2・3月、第1巻：314頁、第2巻：379頁）、⑦「近現代史研究の眺望と課題—イスラーム地域を中心に—」（内陸アジア史学会 50周年記念公開シンポジウム：「内陸アジア史研究の課題と展望」、於：早稲田大学小野記念講堂、2010年11月13日、講演内容：『内陸アジア史研究』第26号、69～74頁、内陸アジア史学会、

2011年3月)。

小南 一郎

③「帝から天へ—天の思想の形成」(『東方宗教』116号、1～21頁、日本道教学会、2010年11月)、「凶像のそなえる意味—漢代墓葬画像を例として」(『中国考古学』10号、7～20頁、日本中国考古学会、2010年11月)、「中国母神論」(『アジア女神大全』、174～190頁、青土社、2011年2月)、「数字は符号か、文字か」(『環境と健康』Vol.24 No.1、82～86頁、2011年3月)、「香山宝卷—観世音菩薩の中国的生涯」(文部科学省科学研究費補助金・基盤研究(C)「中国近世唱導文藝研究—江南地域における実態調査」[研究代表者:松家裕子]研究報告書、3～6頁、2011年3月)。

齋籐 真麻理

③「形見の和歌」(人間文化研究機構国文学研究資料館基幹研究「王朝文学の流布と継承」編集部編『王朝文学の流布と継承；基幹研究研究成果報告書』332～344頁、国文学研究資料館、2011年3月)、③「鼠の恋—室町物語『鼠の草子』の世界」(鈴木健一編『鳥獣虫魚の文学史』、219～236頁、三弥井書店、2011年3月)、「形見の和歌—『鼠の草子』私注—」(『国文学研究資料館紀要文学研究篇』第37号、93～120頁、2011年3月)。

櫻井 徹

⑧「Editor's column」(『友の会だより』6号、8頁、東洋文庫、2010年4月)、「ジョン・セーリスの航海日誌」「ロビンソン・クルーソー漂流記」「高麗史」「難船人帰朝記事」「増訂華英通語」「和英通韻以呂波便覧」「徒然草」(阿佐美淑子・高橋明也編『三菱一号館美術館開館記念展(II)三菱が夢見た美術館 岩崎家と三菱ゆかりのコレクション』、240頁、243頁、244～245頁、245頁、245～246頁、246頁、247頁、三菱一号館美術館、2010年8月)、「イエズス会士通信日本年報、付中国通信」「日本書紀・神代卷(後陽成天皇勅版)」「サクラメンタ提要」「ジョン・セーリスの航海日記」「徒然草」「中国新地図帖」「妙法蓮華経」「ロビンソン・クルーソー漂流記」「禽鏡」「日本動物誌」(斯波義信監修・牧野元紀編『時空をこえる本の旅50選』、22～23頁、30～31頁、34～35頁、36～37頁、38～39頁、44～45頁、50～51頁、56～57頁、82～83頁、84～85頁、財団法人東洋文庫、2010年8月)、「駒込は、一富士・二鷹・三茄子」(『友の会だより』7号、7～8頁、東洋文庫、2010年12月)。

桜井 由躬雄

⑦「黎朝期以前のホアンキエム微高地」（東南アジア学会第84回研究大会、2010年12月）、⑧「石井先生のご業績」（『クレンテープ』508、12～15頁、泰国日本人会、2010年5月）、「恩師石井米雄先生」（『クレンテープ』508、16～17頁、泰国日本人会、2010年5月）、「恩師石井米雄先生」（『クレンテープ』510、46～50頁、泰国日本人会 2010年7月）、「石井先生のご業績」（『クレンテープ』510、51～55頁、泰国日本人会、2010年7月）、「石井米雄先生追悼—栄光の官職・研究の孤独」（『東方学』120、223～226頁、東方学会、2010年7月）、「恩師石井米雄先生」（『クレンテープ』511、14～17頁、泰国日本人会、2010年8月）、「恩師石井米雄先生」（『クレンテープ』512、26～29頁、泰国日本人会、2010年9月）、「一つの太陽 オールウエイズ 予告編」（『クレンテープ』513、21頁、泰国日本人会 2010年10月）、「一つの太陽 オールウエイズ 1」（『クレンテープ』514、24～26頁、泰国日本人会、2010年11月）、「一つの太陽 オールウエイズ 1」（『クレンテープ』515、24～26頁、泰国日本人会、2010年12月）、「一つの太陽 オールウエイズ 2」（『クレンテープ』515、10～12頁、泰国日本人会、2011年1月）、「一つの太陽 オールウエイズ 3」（『クレンテープ』516、14～18頁、泰国日本人会、2011年2月）、「一つの太陽 オールウエイズ 4」（『クレンテープ』517、18～20頁、泰国日本人会、2010年3月）、「Professor Ishii Yoneo and His Achievements,」*Memoirs of the research Department of THE TOYO BUNKO*, 68, pp. 175～187, The Toyo Bunko, 2010.

佐藤 健太郎

⑥「イブン・ハルドゥーン著、橋爪烈・原山隆広・吉村武典訳註、佐藤健太郎註「イブン・ハルドゥーン自伝3」（『イスラーム地域研究ジャーナル』3、47～72頁、早稲田大学イスラーム地域研究機構、2011年3月）。

佐藤 宏

③「市場化進程中社会資本還能够充当保險機制嗎？—中国農村家庭災後消費的經驗研究」（陸銘氏・張爽氏と共著、『世界經濟文彙』、2010年第1期、16～38頁）、「Public Pension and Household Saving: Evidence from urban China,」(joint with Jin Feng and Lixin He) *Journal of Comparative Economics*, vol.39 (doi:10.1016/j.jce.2011.01.002).



澤江 史子

③ “Rebuilding a Confessional State: Islamic Ecclesiology in Turkey, Russia and China,” (Kimitaka MATSUZATO と共著、Religion, State & Society, 38(4), (2010), pp. 331-360.)、⑧ “Dynamism of Gender Politics in Contemporary Muslim Societies,” (Tohoku University Global COE "Gender Equality and Multicultural Conviviality in the Age of Globalization" Gemc Journal Editorial Board Gemc Journal, (4), (2011), pp. 6-7.)、「トルコ共和国」(NIHU 推進事業「イスラーム地域研究」東京大学拠点 中東・イスラーム諸国の民主化データベース、[http://www.l.u-tokyo.ac.jp/~dbmedm06/me\\_d13n/database/turkey.html](http://www.l.u-tokyo.ac.jp/~dbmedm06/me_d13n/database/turkey.html))

塩沢 裕仁

②『水経注疏訳注(渭水篇下)』(東洋文庫中国古代地域史班編、財団法人東洋文庫、2011年3月、xxxii + 684 + 38頁)、③「漢魏洛陽城の都市空間」(『史潮』67, 38 ~ 54頁、歴史学会、2010年6月)、「洛陽と遣隋使小野妹子」(『日本学研究』24 第二回東亜文化交流国際研討会専集、65 ~ 69頁、香港教育出版社、2010年8月)、⑦「洛陽の都城遺址と水環境」(中国水利史研究会大会、2010年10月)、「洛陽・河南の歴史地理と文物状況」(洛陽学国際シンポジウム、2010年11月27日、要旨：『洛陽学論集』、明治大学、2011年6月)、「洛陽の五大都城遺址とその保護研究状況」(日本中国考古学会、2010年11月27日、要旨：『中国考古学』、日本中国考古学会、2011年11月)、⑧『イラスト図解「三国志」』(監修、土岐秋子著、日東書院、2010年10月)。

篠崎 陽子

⑧「東方見聞録」「牧牛子修心訣」「平定準噶爾方略(満文)」「アジア新図」「帝政中国図」「アブラハム・オルテリウス」「知訥」「傳恒」(阿佐美淑子・加藤明子編『三菱が夢見た美術館 岩崎家と三菱ゆかりのコレクション』三菱一号館美術館開館記念展；2、242 ~ 243頁、247 ~ 248頁、248 ~ 249頁、249 ~ 250頁、250 ~ 251頁、271頁、275 ~ 276頁、278頁、三菱一号館美術館、2010年8月)、「外戚事鑑」「東方見聞録」「永楽大典」「改撰江戸大絵図」「殿試策」「準回両部平定得勝図」「錦織歌麿形新模様 うちかけ」「桜花聚品」「アンソン湾におけるネメシス号の中国兵船砲撃」「名所江戸百景」(斯波義信監修・牧野元紀編『時空をこえる本の旅 50選』、14 ~ 15頁、16 ~ 17頁、20 ~ 21頁、52 ~ 53頁、62 ~ 63頁、64 ~ 65頁、76 ~ 77頁、80 ~ 81頁、90 ~ 91頁、94 ~ 95頁、財団法人東洋文庫、2010年8月)。



斯波 義信

① *The Diversity of the Socio-economy in Song China, 960-1279*, (Toyo Bunko Research Library (TBRL) 2, The Toyo Bunko, 2011, 328ps.), ⑦ “An Account of Kong-shi, or a form of Chinese Partnership,” (曹永和教授九十誕辰祝賀學術研討会、於：台湾大学、2010年10月27日)。

嶋尾 稔

③ 「ベトナム阮朝の辺陲統治」(山本英史編『近世の海域世界と地方統治』汲古書院、273～330頁、2010年10月)、「17世紀後半ベトナム北部村落における「売亭文契」に関する覚書」(『慶應義塾大学言語文化研究所紀要』42号、289～303頁、2011年3月)。

清水 信行

⑥ 「A. L. イヴリエフ、V. I. ボルディン著『青山考古：クラスキノ土城の調査と沿海地方における渤海の考古学的研究』(『青山考古』第27号、205～218頁、青山考古学会、2011年3月)、⑧ 「2010年度 ロシアクラスキノ土城発掘調査概要報告(第1章 調査の経緯と経過 第1節 調査に至るまでの経緯、第3章 まとめ)」(『青山史学』第29号、(1)、(22)～(24)頁、青山学院大学文学部史学研究室、2010年3月)。

庄垣内 正弘

③ “A Chinese Āgama text written in Uighur Script,” Matthias Kappler, Mark Kirchner and Peter Zieme (eds.), *Trans-Turkic Studies. Festschrift in Honour of Marcel Erdal*, Istanbul, pp. 67-77 (one plate on p. 77), 2010.

真道 洋子

③ “Artifacts Excavated in al-Fustat by the Japanese Mission,” (〈Mutsuo Kawatoko,〉 Artifacts of the Islamic Period Excavated in al-Fustat, Egypt, Mutsuo Kawatoko and Yoko Shindo eds., Joint Usage / Research Center for Islamic Area Studies Organization for Islamic Area Studies, pp. 5-10, Waseda University, 2010.)、 “Glass Manufacturing in al-Fustat between the 8<sup>th</sup> and 12<sup>th</sup> Centuries,” (Artifacts of the Islamic Period Excavated in al-Fustat, Egypt, Mutsuo Kawatoko and Yoko Shindo eds., Joint Usage / Research Center for Islamic Area Studies Organization for Islamic Area Studies, pp.

5-10, Waseda University, 2010.)、⑦「エジプト、フスタートにおけるガラス製造業とガラス器」(特色ある共同研究拠点の整備の推進事業 早稲田大学イスラーム地域研究機構拠点強化事業公開講演会「モノ」の世界から見たイスラーム 第3回 器を通して見た中世イスラームの都市生活、於：早稲田大学、2010年9月11日)、「トゥール・ラーヤ地域における物質文化の変容」(「アラブのなりわい」プロジェクト2010年度全体研究会、於：総合地球環境学研究所、2010年9月18日)、「イスラーム考古学と日本の発掘調査」(特色ある共同研究拠点の整備の推進事業 早稲田大学イスラーム地域研究機構拠点強化事業2010年度第一回研究会、10月16日)。

鈴木 恵美

③「ムバーラクのエジプト：その治世における変化」(『中東研究』509号、2010/2011, Vol.II、中東調査会、2010年10月)、「削除された歴史」(『東洋文化研究所紀要』第159冊、207～247頁、東京大学東洋文化研究所、2011年3月)、「アラブ諸国の中東和平交渉—エジプト・サウジアラビアを中心に—」(『中東和平の現状—各アクターの動向と今後の展望』、財団法人日本国際問題研究所、2011年3月)、「⑦「エジプト政変：中東和平への影響」(2011年2月1日、日本記者クラブ)、「エジプト政変」(2011年2月7日、日本記者クラブ)。

鈴木 均

①『現代イランの農村都市—革命・戦争と地域社会の変容』(勁草書房、2011年2月、345+22頁)、③ *Preliminary Discussions on the Urbanization of Rural Areas in Modern Iran*, (IDE-JETRO, Discussion Paper No.284, March 2011. (『現代イランの農村都市』の一部翻訳))、「序章・地域的多様性のなかのイスラーム金融」(濱田美紀と共著、濱田美紀・福田安志編『世界に広がるイスラーム金融—中東からアジア、ヨーロッパへ』アジ研選書No.23、3～43頁、アジア経済研究所、2010年12月)、「イランにおける金融政策の現状とイスラーム金融」(『世界に広がるイスラーム金融』、119～139頁、アジア経済研究所、2010年12月)、「⑦「アフガニスタンをめぐる問題構成」(世界政経調査会、2010年8月26日)、「アフガニスタン：対周辺国関係と復興支援を取り巻く環境」(アフガニスタン学術フォーラム第2回講演、於：お茶の水女子大学グローバル協力センター、2010年11月19日)、「『彼女が消えた浜辺』を鑑賞する」(京都大学中東現代文学研究会、2011年1月22日)、「⑧「いつもフィールドに出ていたかった」(「フィールドワーク心得帖」第1回)」(『アジ研ワールド・トレンド』第175号、42～43頁、2010年4月)、「ゴバーディー監督はなぜ来日を拒まれたか」(『ペルシャ猫を誰も知らない』(映画パンフレット)、ム

ヴィオラ、2010年7月所収)、『『ペルシャ猫を誰も知らない』に聴くイランのプロテスト・ソング』(『季刊アラブ』、12～13頁、2010年9月)、「バンドル・アッパーズ」「アルメニア人」「パシトゥーン人」(『朝倉世界地理講座6—大地と人間の物語 西アジア』、朝倉書店、2010年9月)、「特集にあたって(特集「イランの民主化は可能か」)」(『アジ研ワールド・トレンド』第182号、2～3頁、2010年11月)、「イランの民主化は果たして可能か」(『アジ研ワールド・トレンド』第182号、30～33頁、2010年11月)、「中東政変の波、体制崩壊のドミノか、民主化普及のオセロか？」(『朝日ネット・中東マガジン』、2011年2月ウェブ掲載)。

鈴木 立子

③「十二至十四世紀蒙古人的年齢結構」(『西域歴史語言研究集刊』第4輯、科学出版社、2010年9月)、「元朝市舶司機構の変遷」(『南島史学』75・76合併号、111～100頁、南島史学会、2010年11月)。

砂山 幸雄

②『近代中国・教科書と日本』(並木頼寿・大里浩秋)、研文出版、2010年8月、546頁)、『新編原典中国近代思想史第6巻 救国と民主—抗日戦争から第二次世界大戦へ』(野村浩一・近藤邦康)、岩波書店、2011年3月、432頁)。

妹尾 達彦

②『都市と環境の歴史学〔増補版〕』第3集(中央大学文学部東洋史学研究室、2011年3月、総530頁)、③「長安の変貌—大中国の都から小中国の都へ—」(『歴史評論』総720号、47～60頁、校倉書房、2010年4月)、「都城図中描繪的唐代長安的城市空間」(張広達先生八十華誕祝寿論文集編集委員会編『張広達先生八十華誕祝寿論文集』上冊、211～243頁、台北・新文豊出版公司、2010年9月)、「都市的生活与文化」(谷川道雄編『魏晋南北朝隋唐時代史的基本問題』、317～385頁、北京・中華書局、2010年10月)、「隋唐長安城と郊外の誕生」(橋本義則編『東アジア都城の比較研究』、106～140頁、京都・京都大学学術出版社、2011年3月)、「隋唐長安城の皇室庭園」(橋本義則編『東アジア都城の比較研究』、269～329頁、京都・京都大学学術出版社、2011年3月)、「唐代の長安と洛陽—陸の都と水の都—」(檀原考古学研究所附属博物館編『宮都飛鳥』、86～107頁、東京・学生社、2011年3月)、「洛陽学の可能性—洛陽学国際シンポジウムから学んだこと—」(『洛陽学国際シンポジウム—東アジアにおける洛陽の位置—』、明治大学大学院文学研究科、2011年3月)、⑦「唐王朝と皇帝陵」



(平城遷都 1300 年記念春期特別展研究講座、於：奈良県立橿原考古学研究所、2010 年 5 月 16 日)、「都城図に描かれた唐代長安の都市空間—呂大防「長安図」の分析を中心に—」(近世東アジア比較都城史研究会(第 3 回)、於：山形大学小白川キャンパス人文学部 3 号館第 3 会議室、2010 年 6 月 27 日)、「丁酉具注曆日(S.P.6)と唐代の占い」(内陸アジア出土漢文文献研究会、於：明治大学、2010 年 10 月 9 日)、「隋唐長安と国際関係の変遷」(復旦大学中古中国研究前沿講座、於：上海・復旦大学光華楼西主楼 1901 報告庁、2010 年 11 月 4 日)、「ケンブリッジ東洋学の今日」(白東史学会大会、於：中央大学駿河台記念館、2010 年 12 月 4 日、報告要旨：『アジア史研究』第 35 号、74～75 頁、2011 年 3 月)、「隋唐長安的城市文化と陝西大陸東部の国際関係」(“唐代文史研究的新視野：以物質文化爲主 唐代文史学者記念杜希德(Denis Twitchett) 国際研討会”、於：台湾・国家図書館、2010 年 12 月 23 日)、「奠都と遷都—隋唐複都制の変遷—」(東アジア比較都城史研究会国際研究集会、於：山口大学人文学部、2011 年 1 月 9 日)、⑧「序文」(侯甬堅『歴史地理論文集』北京・中国社会科学出版社、2011 年)。

#### 關尾 史郎

①『もうひとつの敦煌—鎮墓瓶と画像磚の世界—』(高志書院・新大人文選書 7、2011 年 3 月、164 頁)、③「「五胡」時代の符について—トルファン出土五胡時代文書分類試論(III)—」(『西北出土文献研究』第 8 号、41-53 頁、西北出土文献研究会、2010 年 5 月)、⑦「魏晋画像磚の世界—「共生」と「地域」を考える—」(愛媛大学法文学部人文学科主催学術交流講演会、2010 年 7 月 19 日、要旨：『人文学科研究ニューズレター』第 3 号、16 頁、愛媛大学法文学部人文学科、2011 年 3 月)、「在高台県域内的古墓群与古代郡県制」(甘肅省敦煌学会・敦煌研究院文献研究所など主弁、高台魏晋墓与河西歴史文化国際学術研討会、2010 年 8 月 13 日、『高台魏晋墓与河西歴史文化国際学術研討会論文集』：153～158 頁、甘肅省敦煌学会・敦煌研究院文献研究所など、2010 年 8 月)、「甘肅省高台県の遺跡群と主要出土文物について」(内陸アジア出土古文献研究会例会、2010 年 12 月 18 日、要旨収載なし)。

#### 曾田 三郎

③「熊希齡内閣的《政府大政方針宣言》与日本人的中国立憲国家論」(『“近代中国与日本”学術研討会論文集』、四川出版集团巴蜀書社、2010 年 9 月、20～42 頁)。



高田 幸男

②『新史料からみる中国現代史—口述・電子化・地方文献』（く大澤肇、東方書店、2010年12月、353頁）、③「江南地域史のフィールドワーク—「江南百年」プロジェクトにおける模索の軌跡」（『新史料からみる中国現代史』、67～89頁）、⑦「近代教育と社会変容—あるいは、教育史はアジア史をどう変えるか—」（アジア教育史学会第19回大会、2010年7月31日）、「民国期教育におけるプラグマティズムと民主主義」（「民国史論の会」・「広島中国近代史研究会」主催シンポジウム「20世紀中国における立憲主義と自由」2010年、2010年10月3日）、⑧「大学の散歩道105 近代中国の『揺籃』—神保町、そして明治大学」（『エムスタイル』第35号、10頁、明治大学、2010年6月）。

瀧下 彩子

③ Creating Images of Resistance: The Anti-Japanese Cartoon Movement and the Contributors to “Guojia Zongdongyuan Huabao,” (*Modern Asian Studies Review*, Vol.3, pp. 81-110, Toyo Bunko, 2011.3.)、⑦「マンガ家たちの中国近代史—東洋文庫所蔵の漫画資料を読む—」（財団法人東洋文庫2010年度秋期東洋学講座、於：三菱商事ビルディング3階、2010年11月8日、講演要旨：『東洋学報』92-4、115～117頁、財団法人東洋文庫、2011年3月）、⑧「朝比奈隆」「芦田紳助」「岩崎利」「内田吐夢」「亀井茲明」「亀井文夫」「東海林太郎」「森繁久弥」「山口淑子」（中村義・藤井昇三・久保田文次・陶徳民・町泉寿郎・川邊雄大編『近代日中関係史人名辞典』、13頁、15頁、88頁、100頁、195頁、312頁、565頁、586～587頁、東京堂出版、2010年7月）。

武内 紹人

② *New Studies of the Old Tibetan Documents: Philology, History and Religion.* (Old Tibetan Documents Online Monograph Series Vol. III., Yoshiro Imaeda, Matthew T. Kapstein and Tsuguhito Takeuchi, (eds.), 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所, 2011年3月, IX + 246頁)、*Research Notes on the Zhangzhung Language by Frederick W. Thomas at the British Library.* Bon Studies, (Tsuguhito Takeuchi, Burkhard Quessel and Yasuhiko Nagano, 国立民族学博物館, 2011年3月, V + 246頁)、⑦ *Glegs-tshas: Writing Boards of Chinese Scribes in Tibetan-ruled Dunhuang*, 12<sup>th</sup> Seminar of the International Association for Tibetan Studies, Vancouver, Canada, 2010. 8.

田島 俊雄

②『中国水泥業的發展：産業組織与結構変化』（朱蔭貴氏・加島潤氏との共著、中国社会科学出版社、2011年3月、295頁）、『海峡兩岸近現代經濟比較研究』（朱蔭貴氏・加島潤氏・松村史穂氏との共著、東京大学社会科学研究所現代中国研究拠点研究シリーズ No.6、2011年3月、190頁）、『並木頼寿先生略歴・業績一覧』（川崎真美氏との共著、研文出版、2010年8月、16頁）、③「巨大化する中国セメント産業と「小水泥」問題」（中兼和津次編著『歴史的視野からみた現代中国經濟』、141～182頁、ミネルヴァ書房、2010年4月）、「中国の重工業化と地方産業」（『産業学会研究年報』第26号、1～11頁、産業学会、2011年3月）、「80年代的經濟所和張曙光研究員」（『經濟学家茶座』総第47輯、94～97頁、山東人民出版社、2010年8月）。

多田 狷介

②『水経注疏訳注（渭水篇下）』（東洋文庫中国古代地域史班編、財団法人東洋文庫、2011年3月、xxxii + 684 + 38頁）、⑥「『曉剣』『滄桑—中国共産党外伝—』（中国書店、2010年11月、502頁）。

立川 武蔵

② Bonpo Thangkas from Rebkong (〈Bon brgya dge legs lhun grub rgya mtsho, Shin'ichi Tsumagari, Musashi Tachikawa, Yasuhiko Nagano〉 National Museum of Ethnology, 2011, pp. 438)、③ Two Kinds of Interpretations of the Mūlamadhyamakakārikā, XXIV, 18 (『愛知学院文学部紀要』40、25～30頁、愛知学院大学文学部、2011年2月）、『『俱舎論』の思想（二）』（『愛知学院大学禅研究所紀要』39、87～102頁、愛知学院大学禅研究所、2011年3月）、⑥『『中論』一章訳注』（『愛知学院大学人間文化研究所紀要』25、131～154頁、愛知学院大学人間文化研究所、2010年9月）、⑧「無と空について」（『愛知学院大学人間文化研究所報』36、1～2頁、愛知学院大学人間文化研究所、2010年9月）、「樹木の恵み、ユーラシアの神々—聖なるものの形①」（『トラッドジャパン』2011年4月号、157～163頁、NHK出版、2011年3月）。

田中 明彦

③「日本外交におけるアジア太平洋」（渡邊昭夫編『アジア太平洋と新しい地域主義の展開』、357～378頁、千倉書房、2010年4月12日）、「日米同盟プラスの新たな安保戦略を」（『週刊東洋經濟』6368号、124～126頁、東洋經濟新報社、

2010年6月26日)、⑤『第22回アジア・太平洋賞』受賞作の講評(『アジア時報』、6～7頁、2010年11月10日)、⑥「ジョセフ・S・ナイ・ジュニア/デイヴィッド・A・ウェルチ著、国際紛争〔原書第8版〕理論と歴史」(有斐閣、2011年4月、436頁)、⑧「日本の東アジア戦略」(『NIRA 対談シリーズ』No54、1～10頁、総合研究開発機構、2010年4月26日)、「日韓パートナーシップ・フォーラム」(『日韓 経済協力の新展開』5～26頁、2010年9月・10月)。

田仲 一成

③「南戯《荊釵記》古劇本的階層分化以及其近代以後の伝播方式」(香港浸会大学『人文中国学報』第16期、1～35頁、上海古籍出版社、2010年9月、中文)、「田都元帥考一其神格及其形象一」(『福建芸術』2010年第6期、24～29頁、福建省芸術研究院、2010年12月、中文)、「在中国近代城市之中、再組農村伝統祭祀的目的以及其効果」(『東アジア文化研究』第48集、93～110頁、韓国漢陽大学校東アジア研究所、2011年11月)、「中韓日の水陸画における孤魂のイメージの比較」(『史境』62、1～18頁、筑波大学歴史人類学会、2011年3月)、⑦「從戯曲的美感與結構来看的中国古典戯曲的特色」(香港中文大學中国文学国際学術研討会、2010年5月28日、『香港中文大學中文系学報』(近刊)、中文)、「戯曲の空間と小説の空間」(中国古典小説研究会、2010年8月8日、『中国古典小説研究動態』(近刊))。

田中 仁

③「日中戦争前期における華北農村と中国共産党：河北省涿源県の“800日”」(『中国社会主义文化の研究』、389～414頁、京都大学人文科学研究所附属現代中国研究センター、2010年5月)、⑦「中日戦争前期の華北農村與中国共産党：河北省涿源県の“800日”」(「第3届近代中国與世界」暨紀念近代史所成立60周年国際学術研討会、2010年5月23日、シンポジウム論文集：第2巻、298～314頁、中国社会科学院近代史研究所、2010年5月)、「中華人民共和国60年與21世紀東亜」(「近代中国革命、社会転型與国際視野」第4届現代中国與東亜格局国際学術研討会、2010年8月27日、シンポジウム論文集：212～233頁、贛南師範学院・大阪大学中国文化フォーラム・南開大学歴史学院・台湾東華大学歴史学系・内モンゴル大学・中国現代史学会、2010年8月)、「中華人民共和国の60年と21世紀の東アジア」(日中戦争史研究会第4回研究会、2011年1月22日、要旨：[http://iccs.aichi-u.ac.jp/activity/sino\\_japanese\\_war.html](http://iccs.aichi-u.ac.jp/activity/sino_japanese_war.html)、愛知大学国際中国学研究センター、2011年1月)。



田中 比呂志

③「模倣と創造—1910年前後の中国における近代知の伝播と国民精神の形成」(『歴史評論』725号、40～52頁、歴史科学協議会(校倉書房)、2010年8月)、「名も無き民衆の歴史を掘り起こす—中国内陸部農村の歴史的調査」(『信大史学』35号、1～15頁、2010年11月)、「山西農村調査と史資料」(高田幸男・大澤肇編『新史料からみた中国現代史—口述・電子化・地方文献』、31～48頁、東方書店、2010年12月)、⑧「連省自治」(和田春樹・川島真・後藤乾一・木畑洋一・山室信一・趙景達・中野聡編『岩波講座東アジア近現代史 第3巻 世界戦争と改造 1910年代』、204～205頁、岩波書店、2010年11月)。

クリスチャン・ダニエルス

②『雲南西部少数民族古文書集』(東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所、2011年3月、289頁)、『中国雲南孟連タイ文古籍編目』(〈尹侖・鄭静〉、雲南民族出版社、昆明、2010年10月、4+8+732頁)、③“*Agricultural Technology and Consolidation of Tay Polities in Northern Continental Southeast Asia during the 15th Century*” (Geoff Wade and Sun Laichen Eds., *Southeast Asia in the Fifteenth Century: The China Factor*, Hong Kong University Press, 2010, pp. 246-270)、「18、19世紀雲南民間天然資源管理措施初探」(楊偉兵主編『明清以来雲貴高原的環境与社会』、302～313頁、東方出版中心(上海)、2010年6月)、「雲南地域住民の天然資源保護・管理—18世紀後半～19世紀前半の元江流域・メコン河上流域を事例として—」(水島司編『環境と歴史学 歴史研究の新地平(アジア遊学136号)』、104～112頁、勉誠出版、2010年9月)、「清朝とコンバウン朝の狭間にある雲南のタイ人政権—1792年～1815年までの国内紛争—」(永原陽子編『生まれる歴史、創られる歴史—アジア・アフリカ史研究の最前線から—』、55～91頁、刀水書房、2011年3月)、⑤「James C. Scott, *The Art of Not being Governed: an anarchist history of upland Southeast Asia*, Yale University, New Haven & London, 2009, 442pp.」(『東南アジア研究』48巻2号、205～209頁、京都大学東南アジア研究所、2010年9月)、⑦「雲南タイ族の年代記—明朝末期の徳宏州(雲南省西南部・ムンワン/隴川)のものがたり—」(第14回雲南懇話会における講演、於: JICA 研究 JICA 研究所内国際会議場、2010年4月17日)、「成果論文集の叩き台: James C. Scott *The Art of Not being Governed: an anarchist history of upland Southeast Asia* が提示する見方」(東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所共同研究プロジェクト「タイ文化圏における山地民の歴史的研



究)、於：AA研301号室、2010年5月8日)、「中国西南部と大陸部東南アジアを結ぶ人・モノのネットワーク」(中国環境問題研究拠点・第20回研究会、於：総合地球環境学研究所、2010年5月19日)、“The biography of Xu Xiake 徐霞客 in Qian Qianyi's 錢謙益 Muzhai Chuxue Ji 牧齋初學記 of 1643,” (Needham Research Institute Text-Reading Seminars, Michaelmas Term 2010, Needham Research Institute, 2010年10月15日)、⑧「歴史学者の丁稚奉公」(『まほら』No. 63、38～41頁、旅の文化研究所、2010年4月)、「フィールドワーカーの鞆」(『フィールドプラス』No. 4、34頁、東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所、2010年7月)。

田村 晃一

“Our collaborative excavations in Kraskino,”(30th anniversary symposium of Kraskino ancient town, Institute of History, Archaeology and Ethnology of the People of the Far East (Vladivostok), 7 Sept. 2010.)。

竺沙 雅章

⑦「宋元版大蔵経再説—とくに契丹大蔵経をめぐる—」(仏教史学会第61回学術大会記念講演、於：仏教大学、2010年10月23日)。

辻本 裕成

③『医談抄』と『医家千字文註』—両書のめざしたもの—(『南山大学日本文化学科学論集』11号、1～22頁、南山大学日本文化学科学、2011年3月)。

土田 哲夫

③「日中戦争期中国の対米「国民外交」」(エズラ・ヴォーゲル、平野健一郎編『日中戦争の国際共同研究3)日中戦争期中国の社会と文化』、215～232頁、慶應義塾大学出版会、2010年6月)、“China's "Public Diplomacy" toward the United States before Pearl Harbor,” (Journal of American-East Asian Relations, Leiden: Brill, Volume 17 no.1, October 2010, pp.35-55)、「中国抗戰的展開与宣戰問題」(王宗淦訳、『当代日本中国研究2010』、116～141頁、東京：人間文化研究機構 当代中国地区研究基地聯合項目核心基地 早稲田大学現代中国研究所、2010年10月)、⑥「野村浩一・近藤邦康・砂山幸雄編『新編 原典中国近代思想史』第6巻」(分担翻訳、岩波書店、2011年3月、総頁数 x+412+7)。

坪井 祐司

②『カラムの時代Ⅱ：マレー・イスラム世界における公共領域の再編（CIAS Discussion Paper No.19）』（山本博之氏との共編、京都大学地域研究情報統合センター、2011年3月、47頁）、③“The Transformation of the Framework of Bangsa in British Malaya: The Malay Community in Selangor under the Colonial Administration,”（Yamamoto H et al(eds), Bangsa and Umma: Development of People-grouping Concepts in Islamized Southeast Asia, pp.73-92, Kyoto University Press, February 2011.）、「マレーシア華人新村の形成過程と地方政治：スレンバン近郊の2新村における現地調査から」（村井寛志氏との共著、『人文学研究所報』45、77～84頁、神奈川大学、2011年3月）、「シンガポールのマレー・ムスリムからみたナドラ問題」（『カラムの時代Ⅱ』、17～24頁）。

鶴見 尚弘

⑦「日本における明代社会経済史の研究」（於：北京大学歴史学系、2010年10月21日）、「座談会 なぜ歴史学徒となったか」（於：北京大学歴史学系、2010年10月26日）。

寺田 浩明

③「自理と上申の間—清代州県レベルにおける命案処理の実態」（夫馬進編『中国訴訟社会史の研究』、427～477頁、京都大学学術出版会、2011年3月）、⑤「小川快之著『伝統中国の法と秩序—地域社会の視点から』」（『法制史研究』60号、222～227頁、法制史学会、2011年3月）。

唐 成

②「中国におけるマクロ経済政策の決定プロセス」（佐々木智弘編『現在中国分析シリーズ5 中国「調和社会」構築の現段階』、アジア経済研究所、2011年2月、170頁）、「中国的中小企業金融と関係型融資」（加藤弘之・呉柏均主編『都市化と区域経済発展研究』、華東理工大学出版社、2011年3月、479頁）、③「中国における銀行業の生成と発展—近代から現代へ—」（中兼和津次編著『歴史的視野からみた現代中国経済』、247～277頁、ミネルヴァ書房、2010年4月）、「中国の中小企業金融—個票データの分析を中心に—」（『桃山学院大学総合研究所紀要』第36巻第2号、109～125頁、2011年1月）、「中国経済における内需拡大の課題」（『桃山学院大学総合研究所紀要』第36巻第3号、111～125頁、2011年3月）。

朽尾 武

⑧「絵解き『山海経』—博物画を楽しむ—」（「2010年度 成城学びの森」コミュニティ・カレッジ春夏講座、5月8日、5月22日、6月12日、6月19日、7月3日、7月10日の全6回）、「絵解き『山海経』—怪異鳥の世界—」（「2010年度 成城学びの森」コミュニティ・カレッジ秋冬講座、10月2日、10月16日、10月30日、11月6日、11月20日、12月4日の全6回）。

土肥 義和

②『内陸アジア出土4～12世紀の漢語・胡語文献の整理と研究』（文部科学省科学研究費補助金・基盤研究（C）[研究代表者：土肥義和] 研究成果報告書、平成22年度分冊、財団法人東洋文庫、2011年3月、37頁）。

富澤 芳亜

⑤「ビジュアル・メディアから読み解く満洲国のイメージ〈書評〉貴志俊彦『満洲国のビジュアルメディア』」（『東方』357号、24～27頁、東方書店、2010年11月）、⑦「戦時期における在華紡技術の中国への移転」（広島史学研究会大会東洋史部会、於：広島大学、2010年10月31日）、⑧「在華紡勤務27年の回顧—稲葉勝三氏（豊田紡織廠）インタビュー」（桑原哲也氏と共著、『近代中国研究彙報』33号、1～63頁、財団法人東洋文庫、2011年3月）。

鳥海 靖

④「日本近代史研究の歩み」（『軍事史学』46-1〈通巻181〉、102～110頁、軍事史学会、2010年6月）、⑤「安在邦夫ほか編著『近代日本の政党と社会』（『自由民権』24、106～110頁、町田市立自由民権資料館、2011年3月）、「伊藤博文の関係史料について—ヨーロッパからの書簡を中心に—」（『中央史学』34、4～15頁、中央史学会、2011年3月〈2010年6月26日、中央史学会第35回大会のシンポジウムにおける講演・討論に手を加えて公刊したもの〉）、⑦「世界史における日露戦争」（日本工業倶楽部会員座談会、2010年6月17日）、「伊藤博文の関係史料について—ヨーロッパからの書簡を中心に—」（中央史学会第35回大会、2010年6月26日、『中央史学』34、4～15頁、中央史学会、2011年3月）、「近現代史研究と国際的歴史相互理解—日中韓の歴史教育と歴史教科書を中心に—」（日中韓ユースフォーラム・日本側学習会、2010年7月31日）、「国際的相互理解をめざして—日中韓歴史教科書はこんなに違う—」（NHK文化センター青山



教室、2010年10月22日)、「坂の上の雲に生きた人々—日露戦争時の人間群像—」(日本会議柏崎支部、2010年11月21日、要旨:『柏崎日報』2010年11月22日、柏崎日報社)、「日露戦争をめぐる国際情勢と開戦への決断」(NHK文化センター・日放ツアーリスト、於:中華人民共和国・大連、2011年3月27日)、「米大統領の日露講和仲介」(NHK文化センター・日放ツアーリスト、於:中華人民共和国・瀋陽、2011年3月30日)、⑧「第2回日韓歴史共同研究をふりかえって」(『日韓文化交流基金NEWS』54、2頁、(財)日韓文化交流基金、2010年6月)、「領土問題を論ずる必読の書」(伊藤隆監修・百瀬孝著『史料検証日本の領土』パンフレット、河出書房新社、2010年7月)、「〈巻頭言〉国際間の歴史相互理解をめざして」(『教室の窓』31、3頁、(株)東京書籍、2010年9月)、「好古の経歴・人柄の魅力」(文藝春秋編『坂の上の雲人物読本』、49～52頁、(株)文藝春秋、2010年11月)。

中兼 和津次

②『改革開放以後の経済制度・政策の変遷とその評価』(NIHU 現代中国早稲田大学拠点 WICCS 研究シリーズ第4巻、早稲田大学現代中国研究所、2011年3月、282頁)、③「中国、経済発展、体制移行」(『青山国際政経論集』81、119～139頁、青山学院大学、2010年5月)、「中国における『都市農村一体化』政策を考える」(『中国经济研究』7-2、1～14頁、2010年9月)、「価格政策・制度の変遷とその評価」(『改革開放以後の経済制度・政策の変遷とその評価』、63～78頁)、⑤「阿古智子著『貧者を喰らう国—中国格差社会からの警告』」(『アジア研究』56-1・2、95～98頁、アジア政経学会、2010年4月)。

長沢 栄治

③“Rashda: System of Irrigation and Cultivation in a Village in Dakhla Oasis,” (*Mediterranean World* XX, 2010, pp.1-46. 加藤博氏ほかと共著)、⑧「第一次世界大戦中のイギリスの秘密外交」(『歴史と地理 世界史の研究』225号〈通巻639号〉、47～49頁、山川出版社、2010年11月)。

永田 雄三

③「バルカンの歴史—オスマン帝国の遺したもの—」(『建設コンサルタンツ協会会誌 特集 土木遺産 IX バルカン諸国 / 多民族地域における土木文化』250号、012～017頁、2011年1月1日)。

長縄 宣博



② *Volgo-Ural'skii region v imperskom prostranstve: XVIII-XX vv.* (<D.M. Usmanova, Hamamoto Mami>, Moscow: Vostochnaia Literatura, 2011, 343 pp.)、③ “Musul'manskoe soobshchestvo v usloviakh mobilizatsii: uchastie Volgo-Ural'skikh musul'man v voynakh poslednego desiatileniia sushchestvovaniia Rossiiskoi imperii,” in *Volgo-Ural'skii region v imperskom prostranstve: XVIII-XX vv.* (Moscow: Vostochnaia Literatura, 2011, pp. 198-229.)、⑦ “Politika blagonadezhnosti: bor'ba s panislamizmom i ee posledstviia v mnogokonfessional'nom Volgo-ural'skom regione, 1905-1917,” *Ispovedi v zerkale: mezkhkonfessional'nye otnosheniia v tsentre Evrazii, na primere Volgo-Ural'skogo regiona (XVIII-XXI vv.)* (Nizhnii Novgorod, May 27, 2010: International Workshop organized by Centre d'études franco-russe de Moscou and State University of Linguistics in Nizhnii Novgorod). <http://www.centre-fr.net/spip.php?article298&lang=ru>、 “An Embryo of Civil Society? Philanthropy and War among the Muslims in the Volga-Urals Region,” 国際中東欧研究学会 (ICCEES) 第8回世界大会, III.7, Stockholm, Sweden (July 27<sup>th</sup> 2010).、 “A Mirror of Imperialism? Muslim Mediators for the Russian Empire and USSR in Arabia, 1890s-1930s,” at the 42nd Annual Convention of Association for Slavic, East European, and Eurasian Studies (19 November 2010, Los Angeles).、 “The War on Pan-Islamism in the Multi-Confessional Setting of Russia's Volga-Urals Region, 1905-1917,” IAS 3<sup>rd</sup> International Conference: New Horizons in Islamic Area Studies, 2010年12月18日、於：京都国際会議場、 “Who were Tatar Intellectuals? A Reappraisal in the contexts of the Russian Empire, Islamic World, and Local Politics,” The Formation of National Intellectuals and the Development of University Network in the Regions under the Rule of Russian Empire at Finnish Literature Society, Helsinki, Finland (14 March 2011.).

中見 立夫

② 『内国史院檔 天聰五年 I』 (東洋文庫東北アジア研究班編、財団法人東洋文庫、2011年3月、xxiv + 151頁)。③ 「清朝 “辺疆史地学” と日本 “東洋史学” の交流—《元朝秘史》抄本の渡日—」 (『明清論叢』第10輯、528～540頁、北京：紫禁城出版社、2010年8月)、 “Иван Яковлевич Коростовец: Оросын дипломачийн өрнүүн амьдрал, ууга зохиолын өв,” (*Иван Яковлевич Коростовец, Монголд өнгөрүүлсэн есөн сар*, 29-40-р тал, Улаанбаатар: МОНСУДАЛ Хэвлэлийн газар, 2010.)、 「“東アジア” と “東亜” のあいだ—近代日本における “東アジア” 理解—」 (『[日本大学通信教育部・通信教育研究所] 研究紀要』第24号、25～44頁、2011年3月)、 「20世紀初頭における “モンゴル” という

空間と、“独立”と“革命”の射程」(和田春樹ほか編『岩波講座東アジア近現代通史4 社会主義とナショナリズム 1920年代』、143～161頁、岩波書店、2011年3月)、④“Introduction of Major Institutions: East Asian Studies at the Research Institute for Languages and Cultures of Asia and Africa, Tokyo University of Foreign Studies,” (*Journal of Cultural Interaction in East Asia* Vol. 2, pp.79-82, March 2011.)、⑤“A Forgotten Mongolian Manuscripts of the *Erdeni-yin tobči*: Wang Guojin and Lobsangčoyidan,” (53rd Annual Meeting, Permanent International Altaistic Conference (PIAC): Unknown treasures of the Altaic world in libraries, archives and museums, July 27, 2010, Saint Petersburg: Institute of Oriental Manuscripts, Russian Academy of Sciences.)、「基調報告:“東アジア”と“東亜”のあいだ—近現代日本における“東アジア”理解—」(《平成22年度日本大学通信教育部公開シンポジウム》東アジアと日本:歴史から見た「東アジア共同体」の可能性、於:日本大学通信教育部本館、2010年8月8日)、「关于日本東洋文庫与中国第一歴史档案館所藏鑲紅旗衙門档案」(北京:清朝滿漢關係史國際學術討論會、於:中国社会科学院近代史研究所、2010年8月28日)、「19世紀半ばから20世紀初頭における“東アジア”とロシア帝国—地域概念と国際関係—」(ロシア史研究会2010年度大会:共通論題1「ロシアと東アジア世界—19世紀半ばから20世紀初頭の展開」、於:立教大学池袋キャンパス、2010年10月16日)、「日本現存蒙文、満文古旧文献の収集歴史及其特点」(首届中国少数民族古籍文献國際學術研討會、於:[北京]中国社会科学院人類学与民族学研究所、2010年10月20日)、「近現代モンゴル・チベット・中国東北地域研究の特質」(内陸アジア史学会50周年記念公開シンポジウム:「内陸アジア史研究の課題と展望」、於:早稲田大学小野記念講堂、2010年11月13日、講演内容:『内陸アジア史研究』第26号、75～80頁、内陸アジア史学会、2011年3月)、「東アジア地域における‘実録’編修と日本の‘東洋史学者’」(서울:국사편찬위원회〈国史編纂委員会〉、2011年3月17日)。

⑧「“檔案”の大海原へ—島田正郎先生のおもいで」(『東方』第352号、2～7頁、東方書店、2010年6月)、「紀念亦鄰真先生」(中国人民大學國學院西域歷史語言研究所編『西域歷史語言研究集刊』第4輯、23～24頁、北京:科學出版社、2010年9月)、「はがき通信(モリソン文書について)」(『日本歴史』第749号、144頁、2010年10月)。「手弁当の味わい—研究会20周年に寄せて—」(『近現代東北アジア地域史研究会ニューズレター』第22号、4～6頁、2010年12月)、「Академич Ч. Далай Японы судлаачидтай өргөн харилцаатай ажилладаг байсан,» (*Эрдэмийн Далай, 75-77-р тал., Улаанбаатар: ШУА-ийн Олон Улс судлалын хүрээлэн*, 2010.)、「黒木親慶」ほか項目執筆、(伊藤隆・季武嘉也編『近現代日

本人物史料情報辞典 4』、吉川弘文館、2011年3月)。

中村 元哉

②『憲政と近現代中国—国家、社会、個人—』(〈石塚迅・山本真〉、現代人文社、2010年10月、186頁)、『新編 原典中国近代思想史』5巻6巻(〈砂山幸雄・村田雄二郎ほか〉、岩波書店、2010年12月・2011年3月、392頁・412頁)、③「国民党的新聞自由論与民権思想—從20世紀40年代国際情勢来分析—」(張憲文ほか『大同道路—孫中山研究—』、560～570頁、南京出版社、2010年10月)、「国共内戦と中国革命」(和田春樹ほか編『岩波講座東アジア近現代通史7 アジア諸戦争の時代 1945-1960年』、235～254頁、岩波書店、2011年2月)、⑤「石川禎浩著『革命とナショナリズム 1925-1945』」(『中国研究月報』756号、57～58頁、一般社団法人中国研究所、2011年2月)。

西 英昭

③「台湾における現行民法典の特徴」(『ジュリスト』第1406号、94～100頁、有斐閣、2010年9月)、「日本關於法律相關文字之字形、字義研究的學術概況」(〈植田信廣氏と共同執筆〉『河北法学』第28巻第10期、57～61頁、河北法学編輯部、2010年10月)、「清末各省調査局について—基礎情報の整理と紹介—」(『法史学研究会会報』第15号、60～77頁、法史学研究会、2011年3月)、「岡田朝太郎について(附・著作目録)」(『法史学研究会会報』第15号、151～169頁、法史学研究会、2011年3月)、④「2010年学界回顧「アジア法」のうち「五 中華人民共和国(香港、マカオを含む)、台湾)」(『法律時報』第82巻13号(通巻1029号)、日本評論社、2010年12月)、⑤「滋賀文庫」(『九州大学百年の宝物』、116～117頁、丸善プラネット株式会社、2011年2月)、⑥「黄源盛『『晚清民国刑法史料輯注』の編纂を終えて』」(『法史学研究会会報』第15号、78～85頁、法史学研究会、2011年3月)。⑧「台湾法関連文献データベース(1945年～2000年分)」、「同(2001年～2009年分)」、「中国法関連文献データベース(2008年9月～2009年8月分)」、「同(2009年9月分～2010年8月分)」、4件とも九州大学法学研究院アジア法研究センターホームページ(<http://www.law.kyushu-u.ac.jp/programs/english/asianlaw/japanese/activities.htm>)にて公開。

西尾 寛治

③ “Statecraft and People-Grouping Concepts in Malay Port-Polities: Case Studies on Johor-Riau and Riau-Lingga,” (YAMAMOTO Hiroyuki, Anthony MILNER,



KAWASHIMA Midori, and ARAI Kazuhiro [eds.] *Bangsa and Umma: Development of People-Grouping Concepts in Islamized Southeast Asia.*, pp. 50-70., Kyoto University Press and Trans Pacific Press., 2011.2.)。

濱本 真実

② *Volgo-Ural'skii region v imperskom prostranstve. XVIII-XX vv.* (<N. Naganawa, D. Usmanova>, Vostochnaia Literatura, Mar. 2011, 344 p.), ③ “Russifikatsiia musul'manskoi verkhushki i russkaia aristokratiia (na primere rodosloviia Narbekovykh),” (*Nauchnyi Tatarstan* 2, 213-223, Akadeniia nauk Respubliki Tatarstan, 2010.), “Sviaziushchaia rol' tatarskikh kuptsov Volgo-Ural'skiogo regiona v tsentral'noi Evrazii: zveno "Shelkovogo puti" novogo vremeni (vtoraia polovina XVIII-XIX vv.)” (M. Hamamoto, N. Naganawa, D. Usmanova (eds.) *Volgo-Ural'skii region v imperskom prostranstve. XVIII-XX vv.*, Vostochnaia Literatura: Moskva, 2011, pp. 39-58.), ⑦ 「ロシアのムスリム—服従から共生へ」(日本イスラム協会公開講演会「異宗教の共生」、2010年4月25日、要旨：『イスラム世界』75、111頁、日本イスラム協会、2010年8月)、「「ロシア帝国最良のタタール人」：ポーランド=リトアニア・タタール人のイスラーム世界」(第三回ユーラシア世界研究会、2010年10月30日)。

林 俊雄

③ “The Origin of Nomadic Powers in the Eurasian Steppes.” (*Academia Turfanica*, ed. *Essays on the Third International Conference on Turfan Studies: The Origins and Migrations of Eurasian Nomadic Peoples*, pp.346-352, 上海古籍出版社, 2010年5月)、「草原の考古学」(菊地俊彦編『北東アジアの歴史と文化』、105～120頁、北海道大学出版会、2010年12月)、⑦ 「ユーラシア草原東部、大型墳丘墓の変遷—ユーラシア草原の「古墳時代」—」(第2回墳丘墓研究会、於：橿原考古学研究所、6月5日)、「2009年アルタイ調査—匈奴・フン同族説は成立するか—」(第17回ヘレニズム・イスラーム考古学研究会、於：金沢大学、7月3日、要旨：『第17回ヘレニズム～イスラーム考古学研究』、30～31頁、2010年12月)、「カザフスタン、ロシア領アルタイの考古学事情」(第47回野尻湖クリルタイ(日本アルタイ学会)、7月17日)、「ユーラシアにおける人間集団の移動と文化の伝播について」(2010年度イリプロテーマ別研究会、於：京都 総合地球環境学研究所、9月25日)、パネル報告「考古学研究の20年：中央ユーラシアとくに中央アジア・シベリア・モンゴル」(内陸アジア史学会50周年記念シンポジウム「内陸アジア史研



究の課題と展望」、於：早稲田大学小野記念講堂、2010年11月13日、講演内容：「中央ユーラシアにおける考古学研究—近20年の中央アジア・シベリア・モンゴル—」『内陸アジア史研究』第26号、52～57頁、内陸アジア史学会、2011年3月）、Mongolia, Central Asia and Northern China in the 6<sup>th</sup>-8<sup>th</sup> Centuries (Istanbul, *Orkhon-Symposium - Old Turkic Language and History + neighbour areas*, 2010.12.5.)。

原山 隆広

④ Editorial Committee 名義 . “Toyo Bunko Western language publication: An overview.” (*Asian Research Trends New Series*. No. 5, pp. 81-90, The Toyo Bunko, 2010.)、⑤ 「カリフ史案内」(『歴史と地理：世界史の研究』226 (通巻641)、33～36頁、山川出版社、2011年2月)、⑥ 「イブン・ハルドゥーン自伝3」(橋爪烈氏・吉村武典氏・佐藤健太郎氏との共訳、『イスラーム地域研究ジャーナル』3、47～72頁、早稲田大学イスラーム地域研究機構、2011年3月)、⑧ 「コーラン」「ヴェラム装アラビア語文書」「百人一首」「お伽草子 一寸法師」「国富論」「オスマン帝国全覽」「日本植物誌」「ピゴの漫画本：日本風俗画」「ハーン、チェンバレン往復書簡」「8～18世紀ペルシア・インド・トルコのミニアチュール絵画」(斯波義信監修・牧野元紀編『時空を超える本の旅50選』12～13頁、18～19頁、40～41頁、54～55頁、66～67頁、72～73頁、86～87頁、98～105頁、財団法人東洋文庫、2010年8月)。

平野 健一郎

①『国際文化論』(張啓雄・周兆良・黄東蘭・馮青訳、中国大百科全書出版社、2011年3月、7+4+6+262頁)、②『日中戦争の国際共同研究3・日中戦争期中国の社会と文化』(〈エズラ・ヴォーゲル〉、慶應義塾大学出版会、2010年6月、417頁)、③「近代と反近代の錯綜—一九二〇年代満洲の文化状況」(和田春樹ほか編『岩波講座東アジア近現代通史4 社会主義とナショナリズム 1920年代』、181～199頁、岩波書店、2011年3月)、“Wartime Acculturation: Anti-Japanese and Anti-War Resistance in China,” (*Modern Asian Studies Review*, vol.3, pp.1-10, The Toyo Bunko, Mar. 2011.)、④「アジア移動論」(寺田貴編『アジア学のおすすめ 第1巻 アジア政治・経済論 (早稲田大学アジア研究機構叢書)』、170～194頁、弘文堂、2010年6月)、⑤「園田節子著『南北アメリカ華民と近代中国—19世紀トランスナショナル・マイグレーション』(『アジア研究』第56巻第1・2号、72～76頁、アジア政経学会、2010年4月)、⑦「戦後日米間のなかの中国研究と東洋文庫」(財団法人東洋文庫2010年度秋期東洋学講座、於：三菱商事

ビルディング3階、2010年11月23日、要旨：『東洋学報』92-4、117～121頁、財団法人東洋文庫、2011年3月）。

弘末 雅士

③「東南アジア植民地体制の完成」（和田春樹ほか編『岩波講座東アジア近現代通史2 日露戦争と韓国併合 19世紀末-1900年代』、347～363頁、岩波書店、2010年10月）、④「アラブ系住民による「民族アイデンティティ」の喚起」（貴志俊彦編『近代アジアの自画像と他者—地域社会と「外国人」問題』、39～57頁、京都大学学術出版会、2011年3月）、⑤「沈黙するべきか、語るべきか、揺れる現地人妻妾」（『史学雑誌』第120編第3号、36～38頁、史学会、2011年3月）。

深沢 眞二

③「芭蕉「数ならぬ身」句をめぐって」（『文学』隔月刊11-6、195～213頁、岩波書店、2010年11月）、「「さみだれを」歌仙注釈（上）」（『表現学部紀要』11、17～32頁、和光大学、2011年3月）。

藤田 忠

②『水経注疏訳注（渭水篇下）』（東洋文庫中国古代地域史班編、財団法人東洋文庫、2011年3月、xxxii + 684 + 38頁）。

藤本 幸夫

②『建仁寺両足院に所蔵される五山文学関係典籍類の調査研究 建仁寺両足院聖教目録Ⅲ』（赤尾栄慶編、上下二段550頁、2011年3月）、「日本伝存朝鮮仏教書」（石井公成編『新東アジア仏教史』10、138～141頁、佼成出版社、2010年5月）、③「大英図書館所蔵朝鮮本について」（エリザベス・ドロシィ・マッキロップ氏と共著、『朝鮮学報』第216輯、1～63頁、朝鮮学会、2010年7月）、「高麗の出版文化」（『日本仏教と高麗版大蔵経』、12～16頁、佛教大学宗教文化ミュージアム、2010年10月）、「国立ギメ東洋美術館所蔵朝鮮本に就いて」（『朝鮮学報』第218輯、1～37頁、朝鮮学会、2011年1月）、④「高麗の出版文化」（仏教大学シンポジウム、於：仏教大学宗教文化ミュージアム、2010年10月30日）。

古田 和子

③「情報・信頼・市場の質」（牛島利明氏と共著、『社会経済史学』第76巻第3号、71～82頁、社会経済史学会、2010年11月）、「市場の質の歴史分析」（『Newsletter

市場の高質化と市場インフラの総合的設計』No.7、2～3頁、慶應義塾大学大学院経済学研究科・商業研究科／京都大学経済研究所連携グローバルCOEプログラム、2010年6月）。

古屋 昭弘

③「18世紀末『琉球劇文和解』の中国語音」（『水門』22、104～115頁、勉誠出版、2010年4月）、「上古音研究と戦国楚簡の形声文字」（『中国語学』257、4～33頁、2010年11月）、⑧「座談会 先学を語る—河野六郎博士」、（梅田博之・大江孝男・辻 星児・坂井健一の諸氏との座談会、『東方学』第120輯、177～210頁、財団法人東方学会、2010年7月）。

弁納 才一

③「日本軍占領下中国における食糧管理体制の構築とその崩壊」（『北陸史学』第57号、北陸史学会、2010年7月）、「日中戦争期山東省における食糧事情と農村経済構造の変容」（『東洋学報』第92巻第2号、財団法人東洋文庫、2010年9月）、「20世紀前半中国における在来綿業の近代的展開と農村経済構造」（勝部真人編『近代東アジアにおける外来と在来』清文堂、2011年3月）、「中華民國前期山東省における食糧事情の構造的把握」（『金沢大学経済論集』第31巻第2号、2011年3月）、⑥「行龍・郝平・常利兵・馬維強・李嘎「山西省農村調査報告(1)－2009年12月、P県の農村」」（『日本海域研究』第42号、金沢大学環日本海域環境研究センター、2011年2月）、「行龍・郝平など「山西省農村調査報告(2)－2010年7月、P県の農村」」（『金沢大学経済論集』第31巻第2号、2011年3月）、⑧「華北農村訪問調査報告(2)－2008年12月、山西省太原市・平遙県・霍州市の農村」（『北陸史学』第57号、2010年7月）、「華東農村訪問調査報告(4)－2010年2月・3月、江蘇省・上海市の農村」（『金沢大学経済論集』第31巻第1号、2010年12月）、「華北農村訪問調査報告(3)－2009年12月、山西省P県の農村」（『日本海域研究』第42号、2011年3月）、「華北農村訪問調査報告(4)－2010年8月、山西省P県の農村」（『金沢大学経済論集』第31巻第2号、2011年3月）。

寶劔 久俊

③「中国における農業経営の史的変遷と現代的意義—現代農業と1930年代の農業との比較分析—」（中兼和津次編著『歴史的視野からみた現代中国経済』、279～310頁、ミネルヴァ書房、2010年4月）、「農民工の就業環境の変化と農村消費



市場」（朱炎編『世界不況下の中国経済—内需拡大と構造調整に向けて』、145～174頁、勁草書房、2010年6月）、「中国農村的就業結構変化と土地流轉—以浙江省奉化市為例」（加藤弘之・呉柏均主編『城市化与区域經濟發展研究』、400～420頁、上海華東理工大学出版社、2011年3月）、⑧“Restoration of Micro Data of John Lossing Buck’s Survey and Analysis on Inverse Relationship between Yield and Farm Size in Rural China in the 1930’s,” *IDE Discussion Paper Series* No. 248, pp. 1-41, August 2010. (<http://www.ide.go.jp/English/Publish/Download/Dp/248.html>)、「漂流する農民工と農業政策のゆらぎ」（山口真美氏と共著、『アジア研ワールドトレンド』No. 184、8～11頁、2011年1月）。

細谷 良夫

②『内国史院檔 天聰五年I』（東洋文庫東北アジア研究班編、財団法人東洋文庫、2011年3月、xxiv + 151頁）、③「黄河中流域の清朝史跡」（『アジア流域文化論研究V』、47～68頁、東北学院大学アジア流域文化研究所、2010年3月）、「北京周辺の三藩をめぐる史跡」（『満族史研究』8、1～16頁、満族史研究会、2010年5月）、⑦「尚可喜一族的旗籍与婚姻關係」（清代満漢關係史国際學術研討会、於：北京・社会科学院近代史研究所、2010年8月28日、要旨：『清代満漢關係史国際學術研討会論文集』、235～238頁、2010年8月）。

堀川 徹

③「イスラーム世界の拡大と深化」（佐藤次高編『イスラームの歴史1 イスラームの創始と展開』（宗教の世界史11）第6章、196～237頁、山川出版社、2010年6月）、⑦「モンゴル時代以降の西部内陸アジア史—実証研究の深化と展開の可能性—」（内陸アジア史学会50周年記念公開シンポジウム：「内陸アジア史研究の課題と展望」、於：早稲田大学小野記念講堂、2010年11月13日、講演内容：『内陸アジア史研究』第26号、35～51頁、内陸アジア史学会、2011年3月）、「中央アジア文化における連続性について」（平成22年度3研究所合同シンポジウム、2010年12月3日、要旨：『東西學術研究所所報』第86号、8頁）。

牧野 元紀

②『時空をこえる本の旅50選』（斯波義信監修、財団法人東洋文庫、2010年8月、111頁）、③「岩崎久彌と東洋文庫」（阿佐美淑子・高橋明也編『三菱一号館美術館開館記念展（II）三菱が夢見た美術館 岩崎家と三菱ゆかりのコレクション』、146～153頁、三菱一号館美術館、2010年8月）、“Iwasaki Hisaya and



Toyo Bunko (The Oriental Library)”, From Dream to Reality The Iwasaki/Mitsubishi Collection, pp. 44-49, Mitsubishi Ichigokan Museum, Aug 2010, Tokyo., ⑦「ベトナム史のなかのバリ外国宣教会：フランス史研究との協働に向けて」、(帝国史研究会第3回例会、於：武蔵大学、2010年4月3日)「岩崎久彌が夢見た東洋文庫」(“三菱が夢見た美術館”展特別講演会、於：三菱ビル、2010年9月22日)、⑧「毛詩」「文選集注」「楽善録」「論語集解」「ドチリーナ・キリシタン」「中華帝国図」(『三菱が夢見た美術館』、238頁、239頁、240頁、250頁)、「甲骨卜辞片」「毛詩」「史記」「ドチリーナ・キリシタン」「東印度航海記」「ザヴィエルの生涯」「マテオ・リッチと徐光啓」「上川島ザヴィエル墓誌」「イエズス会士書簡集」「中国沿海図」「魯西亜国漂泊聞書」「聖フランチェスコ教会と城砦(『マカオの風景』より)」「ペリー久里浜上陸図」「日本・中国・シヤムの風景」「インドシナ探検行」「編者あとがき」(『時空をこえる本の旅50選』、6～7頁、8～9頁、10～11頁、24～25頁、28～29頁、32～33頁、46～47頁、48～49頁、68～69頁、70～71頁、78～79頁、88～89頁、92～93頁、96～97頁、98～99頁、110～111頁)。

松井 太

③ “Uigur peasants and Buddhist monasteries during the Mongol period. Re-examination of the Uigur document U 5330 (USp 77),”(T. Irisawa (ed.), “*The way of Buddha*” 2003: *The 100th anniversary of the Otani mission and the 50th of the Research Society for Central Asian Cultures*, pp. 55-66, Ryukoku University, 2010.3.)、 “Uigur manuscripts related to the monks Sivšidu and Yaqšidu at “Abita-Cave Temple” of Toyoq,” (新疆吐魯番學研究院編『吐魯番學研究—第三屆吐魯番學暨歐亞游牧民族的起源與遷徙國際學術研討會論文集』、697～714頁、上海古籍出版社、2010年5月)、「西ウイグル時代のウイグル文供出命令文書をめぐって(『人文社会論叢』人文科学篇24号、25～53頁、弘前大学人文学部、2010年8月)、⑦ “Taxation systems and the Old Uigur Society of Turfan in the 13th - 14th centuries,”(Berlin-Brandenburgische Akademie der Wissenschaften, Turfanforschung: *Collegium Turfanicum* 50, 23 June. 2010.)、「内陸アジア出土資料からみたモンゴル時代のユーラシア交流」(大阪大学歴史教育研究会「阪大史学の挑戦2」、2010年8月10日)、「A Sogdian-Uigur bilingual fragment from the Arat collection,”(Turfan Forum: International symposium on multilingualism and society in ancient Central Asia, 24 October. 2010)、「吐魯番出土古回鶻語文書中の七康湖和其灌溉」(『吐魯番學研究』2010年第1期、79～81頁、中國新疆吐魯番學研究院、2010年6月)、「ウイグル人と交易活動」(歴史学研究会編『世界史史料4：東アジア・内陸アジア・

東南アジアⅡ・10－18世紀』、34～36頁、岩波書店、2010年11月)。

松重 充浩

⑦「なぜ張作霖が台頭できたのか：「満蒙」覇権の背景と特徴」(国際善隣協会主催「東北フォーラム」、2010年9月10日、要旨：『善隣』401号(通巻668号)、11～20頁、国際善隣協会、2010年11月)、「新たな「満蒙」資料空間の構築—日本大学文理学部アジア歴史資料デジタルアーカイブの試み—」(大平知香氏との共同報告、人間文化研究機構「日本関連在外資料調査研究」(中国チームa)・国際日本文化研究センター『『満洲』学の整理と再編』共同研究班主催「国際シンポジウム・中国東北部(旧満洲)と日本：100年関係史の整理と再編」、2011年3月6日)、⑧「文部科学省私立大学戦略的研究基盤形成支援事業『東アジアにおける都市形成プロセスの統合的把握とそのデジタル化をめぐる研究』平成22年度研究活動の概要」(加藤直人氏との共著、『年次研究報告書』8号、11～25頁、日本大学文理学部情報科学研究所、2011年3月)。

松永 泰行

③「イランの国内情勢—平穏さの裏にあるテンション」(『国際問題』第596号、3～10頁、日本国際問題研究所、2010年11月)、⑤「Mohsen Kadivar 著、Haqq al-Nas: Islam va Hoquq-e Bashar (『人々の権利—イスラームと人権』) Tehran: Kavir 出版、2008年」(『オリエント』第53巻第2号、156～158頁、日本オリエント学会、2010年)、⑦「公的主張の政治と政治変動—概観とイランの緑運動」(日本国際政治学会2010年研究大会、中東・東南アジア分科会合同セッション「路上抗議行動と民主政治」、2010年10月31日)。

松村 潤

②『内国史院檔 天聡五年I』(東洋文庫東北アジア研究班編、財団法人東洋文庫、2011年3月、xxiv + 151頁)。

松本 弘

②『中東・イスラーム諸国 民主化ハンドブック2010』(「イスラーム地域研究」東京大学拠点、2010年10月、374頁)、③「エジプト立憲自由党の軌跡(1922～1953年)」(『大東アジア学論集』11、56～74頁、大東文化大学大学院アジア地域研究科、2011年3月)、「イエメンにおけるイスラーム主義—政党と過激派—」(『ソマリア問題と紅海・アラビア海の安全保障研究』、53～81頁、(財)日本エネルギー

経済研究所中東研究センター委託調査報告書、2011年3月)、⑦「中東の民主化—現状と課題—」(朝日カルチャーセンター横浜「流動する中東」、2010年10月23日)、「イエメン情勢」(イスラーム地域研究「中東の民主化」を考える公開セミナー、於:東京大学、2011年3月2日)、⑧「イエメンは『独裁国家』か?」(『現代思想』39-4〈4月臨時増刊号〉、206～211頁、青土社、2011年3月)、「『アラブ政変』とイエメン情勢」(『Asahi 中東マガジン』〈Web マガジン〉、朝日新聞社、2011年3月15日)。

### 三浦 徹

②『イスラーム世界の歴史的展開』(放送大学教育振興会、2011年3月、243頁)、③“The Salihyya Quarter of Damascus at the Beginning of Ottoman Rule: The Ambiguous Relations between Religious Institutions and waqf Properties, Syria and Bilad al-Sham under Ottoman Rule: Essays in Honour of Abdul-Karim Rafeq, edited by Peter Sluglett, Leiden: Brill, 2010, pp.269-291.、⑦「中東イスラーム世界と日本」(財団法人東洋文庫2010年度春期東洋学講座、於:三菱商事ビルディング3階、2010年5月17日、要旨:『東洋学報』第92巻第2号、192～194頁、財団法人東洋文庫、2010年9月)、“The Changing Role of Sharia Court in 18th and 19th Centuries: The Salihyya Court Records in Damascus”, The 3rd World Congress for Middle East Studies, Barcelona, July 19th 2010.、“A Comparison of Islamic and Chinese Societies: Ownership, Contracts, and Market”, The 8th Asian Federation of Middle East Studies Conference, Beijing, September 26th, 2010.

### 水野 善文

①「文学と宗教」(奈良康明・下田正弘責任編集『新アジア仏教史01 インド I 仏教出現の背景』第5章、222～272頁、佼正出版社、2010年4月)、④「南インド、古代・中世」(『史学雑誌』第119編第5号[2009年の歴史学界—回顧と展望—)、270(868)～273(871)頁、史学会、2010年5月)、⑦「Floating Mass of Oral Tradition について」(文部科学省科学研究費補助金・基盤研究(A)「多言語重層構造をなすインド文学史の先端的分析法と新記述」[研究代表者:水野善文]第4回研究会における研究報告、2010年11月27日)、「月に兎がいるわけ—インドの説話をめぐって」(文京アカデミー[外語会連携公開講座]『日本と世界の諸地域シリーズ～インド亜大陸～』第2回、2010年6月24日)、「インド人とはどんな人」(調布市北部公会堂・国際理解講座『変貌するインド～経済成長著しいインドとその社会をみつめる～』第3回、2010年7月24日)、⑧「第3回シン



ポジウム『イン德的文明とは何かⅡ』趣旨と概要」(『南アジア研究』第22号、230～233頁、日本南アジア学会、2010年10月)。

三田 昌彦

③「チャウルキヤ朝宗主勅書様式論」(『名古屋大学文学部研究論集(史学)』57、87～107頁、名古屋大学文学部、2011年3月)、⑦「中世北インド論」(現代インド・南アジアセミナー〈南アジア・マクロヒストリー講座〉、2010年9月18日)、「文化資源としてのインド中世『史料』」(第43回南アジア研究集会、2010年9月24日)、「サーマンタ体制下の施与勅書発給：プラティールハーラ・チャウルキヤ両王朝の銅板勅書様式より」(日本南アジア学会第23回全国大会、2010年10月2日、要旨：『日本南アジア学会第23回全国大会報告要旨集』、40～41頁、日本南アジア学会第23回全国大会実行委員会、2010年9月)、“Medieval Arid India Connected to Eurasian History: for Understanding Medieval Global India from Ecological Perspective” (INDAS 国際シンポジウム “Understanding Global India: The South Asian Path of Development and its Possibilities”, 2011年1月29日)。

御牧 克己

③「ボン教「中宝蔵」の九乗の教判(1)」(『印度哲学仏教学』第25号、(15)～(42)頁、2010年10月)。

村井 章介

①『NHK テレビテキスト歴史は眠らない・海がつかないだニッポン』(NHK出版、2011年2月、70頁)、②『日本の対外関係1東アジア世界の成立』(〈荒野泰典・石井正敏〉、吉川弘文館、2010年6月、331頁)、『日本の対外関係4倭寇と「日本国王」』(〈荒野泰典・石井正敏〉、吉川弘文館、2010年7月、332頁)、『日本の対外関係6近世的世界の成熟』(〈荒野泰典・石井正敏〉、吉川弘文館、2010年10月、319頁)、『日本の対外関係3通交・通商圏の拡大』(〈荒野泰典・石井正敏〉、吉川弘文館、2010年12月、339頁)、③「境界と地域」(「対外関係史研究の現状と展望」の内、荒野泰典・石井正敏・村井章介編『日本の対外関係1東アジア世界の成立』、19-37頁、吉川弘文館、2010年6月)、「日朝間の海域社会と境界人」(NHK「日本と朝鮮半島2000年」プロジェクト編『日本と朝鮮半島2000年・下』、80～90頁、NHK出版、2010年6月)、「倭寇と「日本国王」」(荒野泰典・石井正敏・村井章介編『日本の対外関係4倭寇と「日本国王」』、1～27頁、吉川弘文館、2010年7月)、「蒙古襲来と異文化接触」(荒野泰典・石



井正敏・村井章介編『日本の対外関係4倭寇と「日本国王」』、57～80頁、吉川弘文館、2010年7月)、「通交・通商圏の拡大」(〈石井正敏〉、荒野泰典・石井正敏・村井章介編『日本の対外関係3通交・通商圏の拡大』、1～28頁、吉川弘文館、2010年12月)、「戦後歴史学私記」(『歴史評論』729号、17～27頁、歴史科学協議会、2011年1月)、⑥「笑雲瑞新著『笑雲入明記 日本僧の見た明代中国』」(〈須田牧子〉平凡社・東洋文庫798、2010年10月、360頁)、『勘仲記』弘安九年秋記一翻刻と注釈一(『鎌倉遺文研究』26号、111～151頁、鎌倉遺文研究会、2010年10月)、⑦「アジアのなかの中世博多」(開館20周年記念「栄西と中世博多展」プレイベント講演、2010年5月15日、於：福岡市博物館)、「銀と鉄砲とキリスト教」(日本西洋史学会第60回大会・小シンポジウムⅡ「大航海時代における東アジア世界の交流—日本をめぐる銀と鉛等の金属交易を中心に—」報告、2010年5月30日、於：別府大学)、「14・15世紀の日本列島と東アジア」(品川シルバー大学「室町に思いを馳せる」第2回、2010年9月17日、於：品川歴史館)、「中世日本人の中国体験」(開館20周年記念「栄西と中世博多展」公開シンポジウム基調講演、2010年10月17日、於：福岡市博物館)、「外交僧呆夫良心と大内氏」(第5回大内氏歴史文化研究会講演会、2011年3月26日、於：山口県立美術館)、⑧『先達の航跡—田中健夫先生を偲ぶ』(〈田中健夫先生を偲ぶ会〉私家版、2010年7月、148頁)、「今枝愛真『「静岡県史」と歩んで』」(遺著、私家版、2010年6月、128頁)。

村田 雄二郎

①『従東瀛皇居到紫禁城—晩清中日関係史上重要人物と事件』(孔祥吉氏と共著、広東人民出版社、2011年1月、350頁)、②『新編原典中国近代思想史第2巻 万国公法の時代—洋務・変法運動』(責任編集、岩波書店、2010年4月、351頁)、『新編原典中国近代思想史 第3巻 民族と国家—辛亥革命』(責任編集、岩波書店、2010年6月、361頁)、『新編原典中国近代思想史 第5巻 国家建設と民族自救—国民革命・国共分裂から一致抗日へ』(野村浩一氏・近藤邦康氏と共編、岩波書店、2010年12月、410頁)、③「日本の対華二一カ条要求と五四運動」(和田春樹ほか編『岩波講座東アジア近現代通史3 世界戦争と改造1910年代』、324～343頁、岩波書店、2010年11月)。「韓国併合と辛亥革命—張謇をてがかりに」(国立歴史民俗学博物館編『「韓国併合」100年を問う2010年国際シンポジウム』、岩波書店、2011年3月、43～53頁)、④「世界史Q & A: 近代中国の「国語」統一について教えてください」(『歴史と地理—世界史の研究』第226号、山川出版社、2011年2月、45～47頁)。

毛里 和子

③「日中関係与大平正芳」(北京地本学研究中心編『大平正芳与中日関係』、20～27頁、北京中央編訳出版社、2011年3月)、「地域研究と国際関係学のあいだ—中国研究の立場から」(山本武彦編『国際関係論のニュー・フロンティア』、218～243頁、成文堂、2010年12月)、「中国のアジア地域外交—上海協力機構を中心に」(渡邊昭夫編『アジア太平洋と新しい地域主義の展開』、265～288頁、千倉書房、2010年4月)、⑧「日中間の歴史共同研究交流を豊かにするために」(笠原十九司編『戦争を知らない国民のための日中歴史認識』、135～148頁、勉誠出版、2010年12月)、「“自由化”と高まる社会的緊張」(中国研究所編『中国年鑑2010』、38～42頁、中国研究所、2010年12月)、「現代アジア政治学のススメ」(寺田貴編『アジア学のすすめ 第1巻アジア政治・経済論〈早稲田大学アジア研究機構叢書〉』、108～122頁、弘文堂、2010年6月)。

本野 英一

⑤「憧れが憎しみに変わるまで—Ulrike Hillemanm Asian Empire and British Knowledge: China and the Networks of British Imperial Expansion, (Palgrave Macmillan, 2009)」(『東方』358号、28～30頁、東方書店、2010年12月)、⑧「ラザフォード・オールコック」(和田春樹ほか編『岩波講座東アジア近現代通史1 東アジア世界の近代19世紀』、214～215頁、岩波書店、2010年12月)。

初山 明

③「後漢後半期の訴訟と社会—長沙東牌楼出土1001号木牘を中心に」(夫馬進編『中国訴訟社会史の研究』、124～154頁、京都大学学術出版会、2011年3月)、⑤「富谷至著『文書行政の漢帝国—木簡・竹簡の時代』」(『木簡研究』32、169～175頁、木簡学会、2010年11月)。

守川 知子

③“Pilgrimage to the Iraqi' Atabat from Qajar Iran,”*Shi'a Islamic Studies* (forthcoming)、⑥「伝ウマル・ハイヤーム著『ノウルーズの書』」(京都大学人文科学研究所附属東アジア人文情報学研究センター、2011年、160頁)、⑦「神と人をつなぐ場—シーア派ムスリムの聖地巡礼」(2010年度後期・日本イスラム協会公開講演会、2010年11月23日、要旨：『イスラム世界』(印刷中))。

森平 雅彦

②『東アジア世界の交流と変容（九州大学文学部人文学入門1）』（岩崎義則氏・高山倫明氏と共編、九州大学出版会、2011年3月、229頁）、③「朱子学の高麗伝来と対関関係（その二）—初期段階における禿魯花・ケシクとの接点」（『史淵』第148輯、39～67頁、九州大学大学院人文科学研究所、2011年3月）、⑦「青磁がわたった海の道」（李秉昌博士記念公開講座「中世の沈没船の謎—海底から現れた高麗青磁」、於：大阪市立東洋陶磁美術館、2010年11月6日）、「朝鮮後期の漢江水運とその技術—「生態環境の朝鮮史」のための予備的考察」（九州史学会、2010年12月12日）、「『蘭湖漁牧志』にみる朝鮮時代の淡水魚食」（共同ワークショップ「東アジアの「水環境」をめぐる社会・経済・文化の歴史的諸相」、滋賀県立琵琶湖博物館&科研費〈基盤研究B〉《朝鮮半島の「水環境」をめぐる社会・経済・文化の歴史的諸相》、2010年12月19日）。

森安 孝夫

③「日本に現存するマニ教絵画の発見とその歴史的背景」（『内陸アジア史研究』25号、1～29頁、内陸アジア史学会、2010年6月）、「The Discovery of Manichaean Paintings in Japan and Their Historical Background.” In: Jacob Albert van den Berg, et al. (eds.), *‘In Search of Truth’: Augustine, Manichaeism and other Gnosticism. Studies for Johannes van Oort at Sixty*, (Nag Hammadi and Manichaean Studies, Volume 74), Leiden / Boston: Brill, 2011 / 1, pp. 339-360.、「シルクロード東部出土古ウイグル手紙文書の書式（前編）」（『大阪大学大学院文学研究科紀要』51、1～86頁、2011年3月、和文版：pp. 1-31+和英文献目録 in pp. 70-86）、「Epistolary Formulae of the Old Uighur Letters from the Eastern Silk Road (Part 1).” *Memoirs of the Graduate School of Letters Osaka University* 51, 2011.3., pp. 1-86. (English version: pp. 32-69 + bilingual bibliography in pp. 70-86)、⑦「シルクロード成立後の北の遊牧国家、南の拓跋王朝、まとめた中央ユーラシア型国家」（於：大阪大学中之島センター、2010年8月10日）、「ソグドからウイグルへ—シルクロード東部の手紙文書」（於：大阪大学中之島センター、2010年8月10日）、「Reconsideration on the epistolary formulae of the Old Uighur letters unearthed from the Eastern Silk Road.” (Collegium Turfanicum, at BBAW in Berlin, 25 August 2010.)、「モンゴル時代までの東部内陸アジア史：実証研究から世界史教育の現場へ」（内陸アジア史学会50周年記念公開シンポジウム「内陸アジア史研究の課題と展望」基調講演、於：早稲田大学小野講堂、2010年11月13日、講演内容：『内陸アジア史研究』第26号、内陸アジア史学会、2011年3月）。



柳澤 明

②『内国史院檔 天聰五年 I』(東洋文庫東北アジア研究班編、財団法人東洋文庫、2011年3月、xxiv + 151頁)。

柳田 征司

①『日本語の歴史 1 方言の東西対立』(武蔵野書院、2010年4月、204頁)、③『『和名集并異名製剤記』の諸版とその変容』(『近代語研究』15、149～163頁、近代語学会、2010年10月)、『『和名集并異名製剤記』考究追補』(『抄物の研究』18、1～15頁、抄物研究会、2010年12月)、「抄物関係文献目録(続)」(同前、16～44頁)、「抄物目録稿(原典国書 錦 繡段抄他)付、特定の原典を持たない一種の抄物(6)辞書・事典一韻書』(『抄物の研究』19、1～53頁、抄物研究会、2011年1月)、「医書の抄物二』(『抄物の研究』20、18、1～102頁、抄物研究会、2011年2月)、『『中興禅林風月集抄』とその原典』(『抄物の研究』21、1～23頁、抄物研究会、2011年2月)、「抄物目録稿補訂(蒙求抄・詩学大成抄・老子経抄・莊子抄)」(同前、24～40頁)、「抄物目録稿—特定の原典を持たぬ一種の抄物 1 詩文作成のためのもの—』(『抄物の研究』22、1～39頁、抄物研究会、2011年3月)、『『和名集并異名製剤記』の本文の性格—『本草異名記』『製剤記』との比較を通して—』(坂詰力治編『言語変化の分析と理論』、77～88頁、おうふう、2011年3月)。

柳谷 あゆみ

② *A Provisional catalogue of Southeast Asian Kitabs of Sophia University* (KAWASHIMA Midori, ARAI Kazuhiro, Oman Fathurahman, Ervan Nurtawab, SUGAHARA Yumi, YANAGIYA Ayumi, Institute of Asian Cultures-Center for Islamic Studies, Sophia University, 2010. 12, x + 513 p.)、⑤「読書案内「対十字軍」を読む』(『歴史と地理』634、(『世界史の研究』223)、33～36頁、山川出版社、2010年5月)、⑦ Ayumi YANAGIYA & Kazuhiro ARAI "Notes on the Catalog-making of Southeast Asian Kitabs: Linguistic and Bibliographical Characteristics of the Kitabs" (Islamic Area Studies 3rd International Conference New Horizons in Islamic Area Studies: Continuity, Contestations and the future, 2010. 12. 18.)。

矢吹 晋

①『一目でわかる中国経済地図』(編著、蒼蒼社、2010年9月、277頁)、②『客



家と中国革命』(藤野彰氏と共著、東方書店、2010年11月、390頁)、③「チャイメリカと日本」(『中国情報ハンドブック2010』、2010年7月)、「胡锦涛から習近平への転換」(『中国情報源2010～2011』、2010年10月)、「政治改革が見えない中国」(『神奈川大学評論』、2010年12月)、「歴史に責任を負う劉曉波」(『環』藤原書店、2011年3月)、⑤「『文革・南京大学14人の証言』(築地書館、2009年12月)」2010年4月9日、「津上俊哉著『岐路に立つ中国』」2011年2月、⑦「中国力の光と影—チャイメリカと日本」(経済倶楽部講演、2010年7月2日)、「“チャイメリカ”と日本」(鹿児島県日中友好協会、2010年8月27日)、「亜細亞經濟發展与日中經濟合作」(JICA中国青年研修、2010年9月3日)、「中国の政治情勢と今後の日中關係」(経済同友会、2010年10月6日)、「日中戰略的互惠關係のために」(國際善隣協會講演、2010年10月15日)、「最近の中国リスクの意味するもの—チャイメリカ構造下の日中關係」(トヨタ自動車本社、2010年10月28日)、「ポスト冷戦期の終焉とチャイメリカ構造の誕生」(國學院大学若木祭、2010年11月3日)、「五中全会後の日中米關係—ポスト冷戦体制の終焉、チャイメリカ構造の始まり」(日本國際貿易促進會、2010年11月10日)、「五中全会後の日中米關係」(東工コーセン、2010年11月11日)、「東アジアにおける國際關係と平和—アジアの人々とどうつきあうか」(金沢大学創基150年、2010年11月28日)、「最近の中国情勢—5中全会から2012党大会へ」(三菱國際投資會社、2010年12月9日)、「日中現代史を通じ、平和と人權について考える」(2010年12月11日、於：川崎市宮前市民館)、「ポスト冷戦体制の終焉、チャイメリカ構造の始まり—米中の谷間で日本はどう生きるか」(香港時事トップセミナー、2010年12月22日)、「日中關係の行方—日本企業の対中ビジネスへの影響と展望」(日中投資促進セミナー、2011年1月26日)、「東アジアにおける國際關係と平和」(金沢大学9条の會、2011年2月7日)、⑧「中国の現在—共産党独裁・チャイメリカ」(『情況』インタビュー2010年10月号)、「薄熙來夫人谷開來女士の家系訂正から太子党全盛の2012年党大会人事予想に及ぶ」(第56号、2010年6月4日)、「チャイメリカの象徴的構図—アイパッドと深圳フックスコン」(第57号、2010年7月26日)、「米中關係の新時代到来」(第58号、2010年9月10日)、「ウィキリークス「米中秘密文件」を読む(1)—スタインバーク國務長官 v.s. 中国高官 XXXX—」(第60号、2010年12月22日)、「五代目のリーダー—習近平」(『時事通信メルマガ』2011年新年号)。

山内 民博

③「朝鮮新式戸籍關連資料の基礎的検討(1)—忠清南道泰安郡新式戸籍關連資料—」(『資料科学研究』8号、39～55頁、新潟大学現代社会文化研究科プロジェ

クト、2011年3月)、⑧「朝鮮土族の生活と意識」など5点(歴史学研究会編『世界史史料4:東アジア・内陸アジア・東南アジアII・10-18世紀』、228～231、235～238、258～260頁、岩波書店、2010年11月)

山口 瑞鳳

①『評説インド仏教哲学史』(岩波書店、2010年12月、445頁)、③「「中道」説に見られる《空観》の根本的過失」(『成田山仏教研究所紀要』33、31～83頁、成田山佛教研究所、2011年2月)。

山村 義照

⑦「秋山真之・明治の帝国陸軍と列強諸国」(「小説『坂の上の雲』その時代と社会を探る—第2回」、2010年11月14日、於:浦安市国際センター、講演内容予告:<http://www.urayasu-ic.jp/chirashi/sakanoue2.jpg>)。

山本 英史

①『中国の歴史』(河出書房新社、2010年10月、350頁)、②並木頼寿著『捻軍と華北社会—近代中国における民衆反乱』(栗原純氏・白川知多氏・武内房司氏との共編、研文出版、2010年9月、488頁)、『近世の海域世界と地方統治』(〈東アジア海域叢書〉汲古書院、2010年10月、440頁)、③「江南基層社会から見た土地改革前史・序説—旧松江府における図正と帰戸併冊—」(高橋伸夫編『救国、動員、秩序—変革期中国の政治と社会』慶應義塾大学出版会、2010年8月、279～304頁)、「清初における浙江沿海地方の秩序形成と地方統治官」(山本英史編『近世の海域世界と地方統治』汲古書院、2010年10月、3～42頁)、⑦「従地方官『表演』論明清地方統治の実態」(国際学術討論会「明史在中国史上的地位」、於:厦門大学国学研究院、2010年6月)、「中国地方文献の交際術—地方志・判牘・筆記」(学習院大学東洋文化研究所書誌学講座、2010年10月)、⑧「近代中国の地域像」(『慶應義塾大学東アジア研究所ニューズレター』No.14、2010年6月)、「書誌学と東洋史研究」(慶應義塾大学附属研究所所道文庫編『図説書誌学—古典籍を学ぶ』勉誠出版、2010年、121頁)。

湯浅 剛

③「中央アジアのシティズンシップと安全保障—ロシア国籍と二重国籍制を中心に」(堀江典生編『現代中央アジア・ロシア移民論』、269～284頁、ミネルヴァ書房、2010年4月)、「上海協力機構(SCO)—地域安全保障に向けた可能性と

限界」(広瀬佳一、宮坂直史編『対テロ国際協力の構図—多国間連携の実態と課題』、133～152頁、ミネルヴァ書房、2010年4月)、“Central Asia in the Context of Japanese-Russian Relations,” (*China and Eurasia Forum Quarterly* 8-2, pp. 119-135, August 2010.)、「ユーラシア安全保障メカニズムの構築—地域安全保障構想に見るロシアの対『西』政策の変質」(望月克哉編『国際安全保障と地域メカニズム』[アジア経済研究所2009年度調査研究報告書]51～77頁、アジア経済研究所、2011年3月)、⑥「金晟鎮「中央アジア、ロシアにおける移民と『人間社会の安全保障』」(堀江典生編『現代中央アジア・ロシア移民論』、233～268頁、ミネルヴァ書房、2010年4月)、⑦「Гражданство и безопасность в Центральной Азии: пробный взгляд из Японии, доклад в Втором международном симпозиуме «Миграционный мост между Центральной Азией и Россией в условиях экономического кризиса» (Российская академия наук, Институт социально-политической исследований, Центр социальной демографии и экономической социологии, 1 ноября 2010 года). (「中央アジアのシティズンシップと安全保障: 日本からの試論」、「経済危機を踏まえた中央アジアとロシアの間の移民の架け橋」第2回国際シンポジウム、ロシア科学アカデミー社会・政治研究所社会的人口動態・経済社会学センター、2010年11月1日)、「カザフスタンの独立と主権をめぐる議論—経済の自立と外交権を中心に」(東洋文庫現代イスラーム研究班2010年度合同研究会、2011年3月6日)、⑧「灼熱とスモッグのモスクワにて」(『ユーラシア・ウォッチ』[秋野豊ユーラシア基金メールマガジン]182、2010年8月15日)、「カザフスタン共和国」(松本弘編『中東・イスラーム諸国民民主化ハンドブック2010』、321～331頁、人間文化研究機構(NIHU)地域研究推進事業「イスラーム地域研究」東京大学拠点、2010年10月)。

吉澤 誠一郎

①『清朝と近代世界』(シリーズ中国近現代史①、岩波書店[岩波新書・赤版1249]、2010年6月、232頁)、③「近代中国の租界」(吉田伸之・伊藤毅編『伝統都市2権力とヘゲモニー』東京大学出版会、209～236頁、2010年5月)、「懐疑される愛国心—中華民国四年の反日運動をめぐって」(『思想』1033号、243～261頁、岩波書店、2010年5月)、「学生運動と控制暴力—以五四運動為例」(唐仕春主編『近代中国社会与文化交流』、216～228頁、北京:社会科学文献出版社、2010年11月)、「中国近代都市の社会変遷と文化再造」(大阪市立大学都市文化研究センター編『都市の歴史的形形成と文化創造力』、135～153頁、清文堂出版、2011年3月)。



吉田 豊

②『ソグド人の美術と言語』（曾布川寛、臨川書店、2011年2月、全334頁）、  
③「有關新出的粟特文資料—新手書記寫給父親的一封信：兼介紹日本西嚴寺  
橘資料」（山本孝子訳、『敦煌学輯刊』69（2010年3期）、171～185頁）、  
「ソグド人と古代チュルク族との関係に関する三つの覚え書き」（『京都大学文学部紀  
要』50、1～41頁、2011年3月）、「第4章 出土資料が語る宗教文化—イラン  
語圏の仏教を中心に」（奈良康明・石井公成編『新アジア仏教史 05 中央アジア  
文明・文化の交差点』、165～215頁、校正出版社、2010年10月）、「ソグド人  
とソグドの歴史」（曾布川寛・吉田豊編『ソグド人の美術と言語』、7～78頁、臨  
川書店、2011年2月）、「ソグド人の言語」（『ソグド人の美術と言語』、79～118  
頁、臨川書店、2011年2月）、「Karabalgasun ii The Inscription」（*Encyclopaedia  
Iranica* XV/5, Encyclopaedia Iranica Foundation, 2010.10, pp. 530-533）、⑦「A new  
Turco-Sogdian document from the late Professor Arat's photograph collection」（Turfan  
Forum on Old Languages of the Silk Road、中華人民共和国新疆ウイグル自治区トル  
ファン市、2010年10月24日）、「マニ教絵画の世界」（中央アジアにおける仏教  
と異宗教の交流、於：龍谷大学大宮学舎、2011年2月26日）。

吉水 千鶴子

②『西蔵仏教宗義研究 第八卷、トゥカン『一切宗義』『カダム派の章』（井内真帆）、  
財団法人東洋文庫、2011年3月、ii+128頁）、③「チャンドラキールティの論理学」  
（『印度學佛教學研究』59-1、122～127頁、日本印度佛教学会、2010年12月）、  
“Zhang Thang sag pa on theses (*dam bca', pratijñā*) in Madhyamaka thought,” (*The  
Journal of International Association of Buddhist Studies* vol.32, Number 1-2, 2009  
(2010), pp.443-467, 2010.)。

吉村 慎太郎

③「6月危機とイラン革命30年」（『歴史学研究』No.864、35～42頁、歴史学研究会、  
2010年3月）、⑧「クルド人」（後藤明・木村嘉博・安田喜憲編『朝倉世界地理  
講座6—大地と人間の物語 西アジア』、271～275頁、朝倉書店、2010年9月）、「イ  
ラン核問題とNPT体制」（*HIROSHIMA RESEARCH NEWS*, Vol.13, No.1, July 2010,  
p.3.)。

六反田 豊



③「十九世紀慶尚道沿岸における「朝倭未弁船」接近と水軍營鎮等の対応—『東萊府啓録』にみる哲宗即位年（一八四九）の事例分析—」（井上徹編『海域交流と政治権力の対応』東アジア海域叢書2、295～347頁、汲古書院、2011年2月）、  
「洞春寺所蔵『新編古今事文類聚』紙背朝鮮文書の復元と検討」（宗教法人洞春寺編『山口県指定有形文化財『洞春寺開山嘯岳鼎虎禪師手沢本』保存修理事業報告書』、24～43頁、宗教法人洞春寺、2011年3月）、⑦「朝鮮時代の「武」と武臣」（韓国・朝鮮文化研究会第11回研究大会、2010年10月23日、要旨：『韓国・朝鮮文化研究会通信』28、6～7頁、韓国・朝鮮文化研究会、2010年9月）。

## IV 業 務 報 告

### 1. 総務報告

#### A. 会議事項

##### (1) 理事会

第 341 回 開催日 2010 年 6 月 1 日 (火曜日)  
出席者 榎原 稔、山川尚義、大崎 仁、草原克豪、斯波義信、田仲一成、  
鶴見尚弘、中根千枝、原 實、福澤 武、三木繁光  
委任状 佐藤次高、濱下武志

第 342 回 開催日 2010 年 2 月 15 日 (火曜日)  
出席者 榎原 稔、山川尚義、大崎 仁、草原克豪、佐藤次高、斯波義信、  
田仲一成、鶴見尚弘、中根千枝、濱下武志、原 實、福澤 武、  
三木繁光

##### (2) 評議員会

第 163 回 開催日 2010 年 6 月 1 日 (火曜日)  
出席者 梅村 坦、久保正彰、瀬谷博道、長尾 真、増田信行  
委任状 荒蒔康一郎、有馬朗人、岸本美緒、後藤 明、白井克彦、  
清家 篤、西田龍雄、濱田純一、平野健一郎、松本 紘、間野英二、  
Wang Gungwu

第 164 回 開催日 2011 年 2 月 15 日 (火曜日)  
出席者 梅村 坦、久保正彰、瀬谷博道、長尾 真、増田信行  
委任状 荒蒔康一郎、有馬朗人、岸本美緒、後藤 明、白井克彦、  
清家 篤、西田龍雄、濱田純一、平野健一郎、松本 紘、間野英二、  
Wang Gungwu

### (3) 東洋学連絡委員会

前期 開催日 2010年5月18日(火曜日)

出席者 梅原 郁、尾崎 康、斯波義信、竺沙雅章、中根千枝、  
吉田順一

議題 1. 2009年度財団法人東洋文庫事業報告について  
2. その他

後期 開催日 2011年2月1日(火曜日)

出席者 梅原 郁、尾崎 康、斯波義信、中根千枝、御牧克己、  
間野英二、森本公誠

議題 1. 2010年度財団法人東洋文庫事業中間報告について  
2. 2011年度財団法人東洋文庫事業計画案について  
3. その他

### B. 総務・広報事項

- ・ 新本館が完成し移転した。
- ・ 東洋文庫規程の一部改訂を行った。
- ・ ホームページのリニューアルを行った。
- ・ 「マンスリー三菱」(三菱広報委員会)への収蔵品掲載、文京区関係広報誌等への掲載協力等を行い、広報普及活動を図った。
- ・ 丸の内の三菱一号館美術館の「三菱が夢見た美術館」展にて、所蔵品貸出し、図録制作等に協力した。
- ・ ミニ図録「時空をこえる本の旅 50選」を出版した。
- ・ マスメディア等約300社に対し、ミュージアム開設をPRするニュースリリースを発行・配布した。

### C. 設備・営繕事項

- ・ 新本館が完成、引き渡しを完了し、引き続き旧書庫の解体他工事中。

## 2. 人事報告

### A. 職員・研究員異動

年月日	役職名	氏名	区分	備考
2010. 4. 1	研究員	設樂 國廣	委嘱	
〃	〃	薮 勇造	〃	
〃	〃	関本 照夫	〃	
〃	〃	武田 幸男	〃	
〃	〃	鶴見 尚弘	〃	
〃	〃	中兼 和津次	〃	
〃	〃	延廣 眞治	〃	
〃	〃	花田 宇秋	〃	
〃	〃	濱田 正美	〃	
〃	〃	細谷 良夫	〃	
〃	〃	松濤 誠達	〃	
〃	〃	三谷 孝	〃	
〃	〃	御牧 克己	〃	
〃	〃	靱山 明	〃	
〃	研究員(兼任)	今西 祐一郎	〃	
2010. 5.14	総務課長兼総務部長代理	青木 雄二	退職	
2010. 8. 1	普及展示部主幹	牧野 元紀	就任	
〃	嘱託職員	岡崎 礼奈	就職	
2011. 3.29	研究員	三谷 孝	逝去	
2011. 3.31	〃	柳谷 あゆみ	退任	
〃	〃	関本 照夫	〃	
〃	〃	濱田 正美	〃	
〃	研究員(兼任)	毛里 和子	〃	



## B. 客員研究員異動

年 月 日	役 職 名	氏 名	区 分	備 考
2011.3.31	研究員(客員)	伊 香 俊 哉	退 任	
〃	〃	梅 田 博 之	〃	
〃	〃	小 田 壽 典	〃	
〃	〃	片 桐 一 男	〃	
〃	〃	胡 潔	〃	
〃	〃	立 川 武 蔵	〃	
〃	〃	山 本 毅 雄	〃	

### 3. 会計報告

#### 一般会計貸借対照表

2011年3月31日現在

(単位:円)

科 目	当年度	前年度	増減
<b>I 資産の部</b>			
<b>1. 流動資産</b>			
現金預金	5,382,385	2,321,342	3,061,043
未収金	6,420,486	6,381,659	38,827
商 品	4,556,658	3,108,768	1,447,890
前払費用	956,145	2,167,979	△ 1,211,834
流動資産合計	17,315,674	13,979,748	3,335,926
<b>2. 固定資産</b>			
(1)基本財産			
図書資料	1,041,708,012	1,041,708,012	0
土地	110,494	110,494	0
保証金	50,000	50,000	0
投資有価証券	2,842,500,000	2,842,500,000	0
預金	115,322	115,322	0
基本財産合計	3,884,483,828	3,884,483,828	0
(2)特定資産			
退職給付引当資産	45,689,256	39,009,470	6,679,786
建物設備修繕引当資産	109,580,601	86,440,784	23,139,817
展示開設準備引当資産	26,607,858	15,000,000	11,607,858
特定資産合計	181,877,715	140,450,254	41,427,461
(3)その他固定資産			
建物	0	274,235,919	△ 274,235,919
構築物	0	806,801	△ 806,801
什器備品	9,159,372	18,174,336	△ 9,014,964
図書資料	204,874,067	180,927,050	23,947,017
ソフトウェア	6,072,411	8,052,813	△ 1,980,402
電話加入権	364,000	364,000	0
保証金	0	2,215,440	△ 2,215,440
長期前払費用	899,962	1,358,727	△ 458,765
運営調整積立資産	83,628,604	97,455,950	△ 13,827,346
その他固定資産合計	304,998,416	583,591,036	△ 278,592,620
固定資産合計	4,371,359,959	4,608,525,118	△ 237,165,159
<b>資産合計</b>	<b>4,388,675,633</b>	<b>4,622,504,866</b>	<b>△ 233,829,233</b>
<b>II 負債の部</b>			
<b>1. 流動負債</b>			
未払金	3,019,260	1,505,690	1,513,570
預り金	1,110,972	1,167,012	△ 56,040
賞与引当金	6,949,184	7,155,998	△ 206,814
資産除去債務	80,026,000	0	80,026,000
流動負債合計	91,105,416	9,828,700	81,276,716
<b>2. 固定負債</b>			
退職給付引当金	45,689,256	39,009,470	6,679,786
P C B引当金	24,605,000	0	24,605,000
固定負債合計	70,294,256	39,009,470	31,284,786
<b>負債合計</b>	<b>161,399,672</b>	<b>48,838,170</b>	<b>112,561,502</b>
<b>III 正味財産の部</b>			
<b>1. 指定正味財産</b>			
寄付金等	202,110,494	202,110,494	0
指定正味財産合計	202,110,494	202,110,494	0
(うち基本財産への充当額)	(202,110,494)	(202,110,494)	( 0)
<b>2. 一般正味財産</b>			
(うち基本財産への充当額)	4,025,165,467	4,371,556,202	△ 346,390,735
(うち基本財産への充当額)	(3,682,373,334)	(3,682,373,334)	( 0)
(うち特定資産への充当額)	( 136,188,459)	( 101,440,784)	( 34,747,675)
正味財産合計	4,227,275,961	4,573,666,696	△ 346,390,735
<b>負債及び正味財産合計</b>	<b>4,388,675,633</b>	<b>4,622,504,866</b>	<b>△ 233,829,233</b>

一般会計正味財産増減計算書

2010年4月1日から2011年3月31日まで

(単位:円)

科 目	当年度	前年度	増減
I 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
基本財産運用益	88,251,432	85,738,335	2,513,097
特定資産運用益	190,710	249,625	△ 58,915
受取寄付金	75,920,000	101,040,000	△ 25,120,000
維持会費収入	74,310,000	46,540,000	27,770,000
寄付金収入	1,610,000	54,500,000	△ 52,890,000
受取会費	297,000	390,500	△ 93,500
受取分担金	16,000,000	20,000,000	△ 4,000,000
受託金	10,500,000	12,000,000	△ 1,500,000
事業収益	8,265,292	7,838,211	427,081
受取補助金等	110,000,000	110,000,000	0
雑収益	3,932,580	3,442,076	490,504
経常収益計	313,357,014	340,698,747	△ 27,341,733
(2) 経常費用			
事業費	260,148,309	231,261,888	28,886,421
調査研究費	25,346,339	29,316,857	△ 3,970,518
資料収集・整理費	14,176,432	14,675,224	△ 498,792
研究資料出版費	27,738,117	23,456,128	4,281,989
普及活動費	18,687,765	16,232,185	2,455,580
学術情報提供費	9,735,111	8,081,856	1,653,255
地域研究プログラム費	13,622,639	13,080,084	542,555
受託研究費	8,080,605	9,243,325	△ 1,162,720
人件費	102,699,253	82,430,589	20,268,664
役員報酬	6,432,000	2,412,000	4,020,000
給料手当	73,435,641	62,924,840	10,510,801
賞与引当金繰入	5,543,288	4,384,585	1,158,703
退職給付費用	5,978,306	4,209,692	1,768,614
福利厚生費	11,310,018	8,499,472	2,810,546
事務費	40,062,048	34,745,640	5,316,408
設備保守修繕費	3,214,846	3,085,874	128,972
水道光熱費	8,327,461	4,662,664	3,664,797
賃借料	367,708	360,213	7,495
業務委託費	2,064,714	1,857,757	206,957
減価償却費	18,168,697	16,904,289	1,264,408
諸雑費	7,918,622	7,874,843	43,779
管理費	28,218,925	48,851,944	△ 20,633,019
人件費	21,029,416	42,133,752	△ 21,104,336
役員報酬	4,288,000	8,308,000	△ 4,020,000
給料手当	10,910,900	23,167,169	△ 12,256,269
賞与引当金繰入	1,405,896	2,771,413	△ 1,365,517
退職給付費用	1,907,480	3,091,634	△ 1,184,154
福利厚生費	2,517,140	4,795,536	△ 2,278,396
事務費	7,189,509	6,718,192	471,317
設備保守修繕費	54,943	62,977	△ 8,034
水道光熱費	122,268	95,156	27,112
謝金	2,123,900	1,781,010	342,890
減価償却費	4,062,236	3,676,847	385,389
諸雑費	826,162	1,102,202	△ 276,040
経常費用計	288,367,234	280,113,832	8,253,402
当期経常増減額	24,989,780	60,584,915	△ 35,595,135
2. 経常外増減の部			
(1) 経常外収益			
固定資産受贈益	211,632	394,383	△ 182,751
経常外収益計	211,632	394,383	△ 182,751
(2) 経常外費用			
固定資産除却損	268,491,667	14,962	268,476,705
P C B引当金繰入額	24,605,000	0	24,605,000
資産除去債務会計基準適用に伴う影響額	78,425,480	0	78,425,480
経常外費用計	371,522,147	14,962	371,507,185
当期経常外増減額	△ 371,310,515	379,421	△ 371,689,936
税引前当期一般正味財産増減額	△ 346,320,735	60,964,336	△ 407,285,071
法人税、住民税及び事業税	70,000	70,000	0
当期一般正味財産増減額	△ 346,390,735	60,894,336	△ 407,285,071
一般正味財産期首残高	4,371,556,202	4,310,661,866	60,894,336
一般正味財産期末残高	4,025,165,467	4,371,556,202	△ 346,390,735
II 指定正味財産増減の部			
当期指定正味財産増減額	0	0	0
指定正味財産期首残高	202,110,494	202,110,494	0
指定正味財産期末残高	202,110,494	202,110,494	0
III 正味財産期末残高	4,227,275,961	4,573,666,696	△ 346,390,735

## 一般会計財務諸表に対する注記

### 1. 重要な会計方針

#### (1) 有価証券の評価基準及び評価方法

満期保有目的有価証券

償却原価法（定額法）を採用しております。

#### (2) 棚卸資産の評価基準及び評価方法

最終仕入原価法を採用しております。

#### (3) 固定資産の減価償却方法

##### ① 有形固定資産

定額法を採用しております。

なお、主な耐用年数は次のとおりであります。

建物 30～50年

什器備品 3～15年

##### ② 無形固定資産

定額法を採用しております。

#### (4) 引当金の計上基準

##### ① 賞与引当金

役員及び職員の賞与金の支払いに備えて、賞与支給見込額のうち当事業年度負担額を計上しております。

##### ② 退職給付引当金

役員及び職員の退職給付に備えるため、当事業年度における退職給付債務に基づき、当事業年度末において発生していると認められる額を計上しております。

うち、役員退職給付引当金12,060,000円が含まれています。

##### ③ PCB引当金

当事業年度からPCB（ポリ塩化ビフェニル）の処分等にかかる支出に備えるため、今後発生すると見込まれる額を計上しております。

#### (5) 消費税等の会計処理

税込方式を採用しております。

### 2. 重要な会計方針の変更

資産除去債務に関する会計基準の適用

当事業年度より、「資産除去債務に関する会計基準」（企業会計基準第18号 平成20年3月31日）及び「資産除去債務に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第21号 平成20年3月31日）を適用しております。

なお、これにより経常費用1,600,520円、経常外費用78,425,480円が増加しております。



3. 基本財産及び特定資産の増減額及びその残高

基本財産及び特定資産の増減額及びその残高は、次のとおりです。

(単位：円)

科 目	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高
基本財産				
図書資料	1,041,708,012	—	—	1,041,708,012
土地	110,494	—	—	110,494
保証金	50,000	—	—	50,000
有価証券	2,842,500,000	—	—	2,842,500,000
預金	115,322	2,226	2,226	115,322
小計	3,884,483,828	2,226	2,226	3,884,483,828
特定資産				
退職給付引当資産	39,009,470	7,885,786	1,206,000	45,689,256
建物設備修繕引当資産	86,440,784	23,139,817	—	109,580,601
展示開設準備引当資産	15,000,000	15,006,973	3,399,115	26,607,858
小計	140,450,254	46,032,576	4,605,115	181,877,715
合計	4,024,934,082	46,034,802	4,607,341	4,066,361,543

4. 基本財産及び特定資産の財源等の内訳

基本財産及び特定資産の財源等の内訳は、次のとおりです。

(単位：円)

科 目	当期末残高	(うち指定正味財産からの充当額)	(うち一般正味財産からの充当額)	(うち負債に対応する額)
基本財産				
図書資料	1,041,708,012	—	(1,041,708,012)	—
土地	110,494	(110,494)	—	—
保証金	50,000	—	(50,000)	—
有価証券	2,842,500,000	(202,000,000)	(2,640,500,000)	—
預金	115,322	—	(115,322)	—
小計	3,884,483,828	(202,110,494)	(3,682,373,334)	—
特定資産				
退職給付引当資産	45,689,256	—	—	(45,689,256)
建物設備修繕引当資産	109,580,601	—	(109,580,601)	—
展示開設準備引当資産	26,607,858	—	(26,607,858)	—
小計	181,877,715	—	(136,188,459)	(45,689,256)
合計	4,066,361,543	(202,110,494)	(3,818,561,793)	(45,689,256)

5. 固定資産の取得価額、減価償却累計額及び当期末残高

固定資産の取得価額、減価償却累計額及び当期末残高は、次のとおりです。

(単位：円)

科 目	取得価額	減価償却累計額	当期末残高
什器備品	42,712,588	△ 33,553,216	9,159,372
ソフトウェア	10,897,760	△ 4,825,349	6,072,411
合計	53,610,348	△ 38,378,565	15,231,783

6. 満期保有目的の債券の内訳ならびに帳簿価額、時価及び評価損益

満期保有目的の債券の内訳ならびに帳簿価額、時価及び評価損益は次のとおりです。(単位：円)

科 目	帳簿価額	時 価	評 価 損 益
国債	2,500,000	2,501,250	1,250
三菱UFJセキュリティーズ <sup>®</sup> 国際	300,000,000	294,675,000	△ 5,325,000
三菱UFJセキュリティーズ <sup>®</sup> 国際	1,000,000,000	1,024,790,000	24,790,000
三菱セキュリティーズ <sup>®</sup> 国際レゾ <sup>®</sup> ットリンク債	500,000,000	460,575,000	△ 39,425,000
三菱UFJ証券レゾ <sup>®</sup> ットリンク債	500,000,000	458,270,000	△ 41,730,000
三菱UFJセキュリティーズ <sup>®</sup> 国際	500,000,000	504,870,000	4,870,000
共同発行市場公募地方債	40,000,000	41,504,000	1,504,000
合 計	2,842,500,000	2,787,185,250	△ 55,314,750

7. 補助金の内訳並びに交付者、当期の増減額及び残高

補助金の内訳並びに交付者、当期の増減額及び残高は次のとおりです(単位：円)

補助金等の名称	交付者	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高	貸借対照表上の記載区分
一般会計 補助金						
科学研究費補助金 (特定奨励費)	文部科学省	0	110,000,000	110,000,000	0	—
合 計		0	110,000,000	110,000,000	0	—

8. 退職給付関係

(1) 採用している退職給付制度の概要

確定給付型の制度として退職一時金制度をもうけています。

(2) 退職給付債務及びその内訳

退職給付債務 △ 45,689,256 円

退職給付引当金 △ 45,689,256 円

(3) 退職給付費用に関する事項

勤務費用 7,885,786 円

退職給付費用 7,885,786 円

(4) 退職給付債務等の計算の基礎に関する事項

退職給付債務の計算に当たっては退職一時金制度に基づく期末自己都合要支給額を基礎として計算しています。

## 9. 金融商品関係

### (1) 金融商品の状況に関する事項

当法人は資金運用については短期的な預金及び元本償還の確実性の高い公社債等に限定しております。

### (2) 金融商品の時価等に関する事項

#### ①現金預金

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、開示は省略しております。

#### ②退職給付引当資産

#### ③建物設備修繕引当資産

#### ④展示開設準備引当資産

#### ⑤運営調整積立資産

これらは預金に限定されており短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、開示は省略しております。

#### ⑥投資有価証券

これらの時価について、取引所の価額又は取引金融機関からの提示された価額によっております。

また、期末における貸借対照表計上額、時価及び差額については前述5.に記載されているため、開示は省略しております。

## 10. 資産除去債務関係

### (1) 当該資産除去債務の概要

当法人は来期、撤去予定の建物におけるアスベストの除却費用及び特定建設資材廃棄物の再資源化等に要する費用等につき資産除去債務を計上しております。

### (2) 当該資産除去債務の金額の算定方法

負債計上した資産除去債務の金額の算定にあたっては、使用見込期間を1年と見積り、割引率はアスベストの除去及び特定建設資材廃棄物の再資源化等が1年以内の為、使用しておりません。

### (3) 当事業年度における当該資産除去債務の総額の増減

期首残高(注)	78,425,480円
有形固定資産の取得に伴う増加額	0円
時の経過による調整額	1,600,520円
期末残高	80,026,000円

(注) 当事業年度により「資産除去債務に関する会計基準」(企業会計基準第18号 平成20年3月31日)及び「資産除去債務に関する会計基準の適用指針」(企業会計適用指針第21号 平成20年3月31日)を適用したことによる期首時点における残高であります。

財 産 目 録

2011年3月31日現在

(単位：円)

科 目	金 額	額
(資産の部)		
I 流動資産		
現金預金		
三菱東京UFJ銀行駒込支店普通預金	305,615,943	
三菱東京UFJ銀行駒込支店定期預金	14,000,000	
郵便振替口座	1,870	
未収金		
有価証券未収利息等	6,420,486	
商品		
出版物等	4,556,658	
前払費用		
保険料等	956,145	
流動資産合計		331,551,102
II 固定資産		
(1) 基本財産		
図書資料		1,041,708,012
和漢書	515,330冊	
洋書	364,722冊	
複写資料	29,800点	
土地		110,494
所在地	東京都文京区本駒込2丁目28番21号	
地番	東京都文京区本駒込2丁目147番1号	
地目	宅	
面積	3,687.63平方米	
保証金		50,000
日本警備保証株式会社保証金		
投資有価証券		
満期保有目的有価証券	2,842,500,000	
預金		115,322
三菱東京UFJ銀行駒込支店普通預金		
基本財産合計		3,884,483,828
(2) 特定資産		
建物		2,468,097,893
所在地	東京都文京区本駒込2丁目147、157-2	
建物(本館)	構造 鉄骨鉄筋コンクリート造	
	建築面積 1,351.67平方米	
	延床面積 6,698.12平方米	
	空調衛生、昇降機、電気給排水等諸設備	
建物(付属棟)	構造 鉄骨造	141,956,236
	建築面積 216.45平方米	
	延床面積 408.14平方米	
	空調衛生、昇降機、電気給排水等諸設備	
構築物		39,536,356
建設仮勘定		25,642,570
設計料等		
什器備品		274,071,816
金庫他	52点	
保証金		220,000
敷金		
退職給付引当資産		
三菱東京UFJ銀行駒込支店普通預金		689,256
" 定期預金		45,000,000
建物設備修繕引当資産		
三菱東京UFJ銀行駒込支店普通預金		3,580,601
" 定期預金		106,000,000
展示開設準備引当資産		
三菱東京UFJ銀行駒込支店普通預金		607,858
" 定期預金		26,000,000
特定資産合計		3,131,402,586
(3) その他固定資産		
什器備品		9,159,372
事務用器具等	138点	
図書資料		204,874,067
和漢書	18,157冊	
洋書	24,967冊	
マイク/IMA等	802冊	
ソフトウェア	9点	6,072,411
電話加入権	5回線	364,000
長期前払費用		899,962
保険料		
運営調整積立資産		
三菱東京UFJ銀行駒込支店普通預金		13,628,604
" 定期預金		70,000,000
その他固定資産合計		304,998,416
固定資産合計		7,320,884,830
資産合計		7,652,435,932
(負債の部)		
I 流動負債		
未払金		4,177,050
預り金		1,139,572
賞与引当金		6,949,184
資産除去債務		80,026,000
流動負債合計		92,291,806
II 固定負債		
退職給付引当金		45,689,256
P C B引当金		24,605,000
固定負債合計		70,294,256
負債合計		162,586,062
正味財産		7,489,849,870



一般会計収支計算書

2010年4月1日から2011年3月31日まで

(単位:円)

科目	予算額	決算額	増減	備考
<b>I 事業活動収支の部</b>				
1. 事業活動収入				
基本財産運用収入	91,000,000	88,251,432	2,748,568	
維持会費収入	60,000,000	74,310,000	△ 14,310,000	
寄付金収入	2,000,000	1,610,000	390,000	
会費収入	500,000	297,000	203,000	
分担金収入	20,000,000	16,000,000	4,000,000	
受託金収入	12,000,000	10,500,000	1,500,000	
研究活動収入	12,500,000	8,265,292	4,234,708	
補助金等収入	110,000,000	110,000,000	0	
雑収入	500,000	3,759,926	△ 3,259,926	
事業活動収入計	308,500,000	312,993,650	△ 4,493,650	
2. 事業活動支出				
事業費	265,000,000	261,664,004	3,335,996	
調査研究費	31,500,000	25,346,339	6,153,661	
資料収集・整理費	36,200,000	37,017,079	△ 817,079	
研究資料出版費	20,800,000	27,738,117	△ 6,938,117	
普及活動費	21,500,000	18,687,765	2,812,235	
学術情報提供費	13,500,000	11,183,001	2,316,999	
地域研究プログラム費	20,000,000	14,727,377	5,272,623	
受託研究費	12,000,000	8,080,605	3,919,395	
人件費	84,000,000	97,444,547	△ 13,444,547	
事務費	25,500,000	21,439,174	4,060,826	
管理費	42,000,000	22,797,021	19,202,979	
人件費	39,000,000	19,604,336	19,395,664	
事務費	3,000,000	3,192,685	△ 192,685	
事業活動支出計	307,000,000	284,461,025	22,538,975	
事業活動収支差額	1,500,000	28,532,625	△ 27,032,625	
<b>II 投資活動収支の部</b>				
1. 投資活動収入				
退職給付引当資産取崩収入	0	1,206,000	△ 1,206,000	
展示開設準備引当資産取得収入	0	3,399,115	△ 3,399,115	
保証金収入	0	2,215,440	△ 2,215,440	
運営調整積立資産取崩収入	44,000,000	37,000,000	7,000,000	
投資活動収入計	44,000,000	43,820,555	179,445	
2. 投資活動支出				
固定資産取得支出	2,500,000	2,873,994	△ 373,994	
退職給付引当資産取得支出	5,000,000	7,841,866	△ 2,841,866	
建物設備修繕引当資産取得支出	23,000,000	23,000,000	0	
展示開設準備引当資産取得支出	15,000,000	15,000,000	0	
運営調整積立資産取得支出	0	23,000,000	△ 23,000,000	
投資活動支出計	45,500,000	71,715,860	△ 26,215,860	
投資活動収支差額	△ 1,500,000	△ 27,895,305	26,395,305	
<b>III 財務活動収支の部</b>				
1. 財務活動収入	0	0	0	(注1)
2. 財務活動支出	0	0	0	
財務活動収支差額	0	0	0	
当期収支差額	0	637,320	△ 637,320	
前期繰越収支差額	1,042,280	1,042,280	0	
次期繰越収支差額	1,042,280	1,679,600	△ 637,320	

(注) 1. 借入金限度額 30,000,000円

一般会計収支計算書に対する注記

1. 資金の範囲

資金の範囲には、現金預金、未収金、前払費用、未払金、預り金、賞与引当金を含めています。

なお、前期末残高及び当期末残高は、下記2に記載するとおりです。

2. 次期繰越収支差額に含まれる資産及び負債の内訳 (単位：円)

科 目	前期末残高	当期末残高
現金預金	2,321,342	5,382,385
未収金	6,381,659	6,420,486
前払費用	2,167,979	956,145
合 計	10,870,980	12,759,016
未払金	1,505,690	3,019,260
預り金	1,167,012	1,110,972
賞与引当金	7,155,998	6,949,184
合 計	9,828,700	11,079,416
次期繰越収支差額	1,042,280	1,679,600

## V 役 職 員 名 簿

2011年3月31日現在の財団法人東洋文庫の役職員は、以下のとおりである。

### 1. 役 員

役 職 名	氏 名	現 職
理 事 長	榎 原 稔	東洋文庫理事長 三菱商事株式会社特別顧問
専務理事	山 川 尚 義	東洋文庫専務理事
理 事	大 崎 仁	人間文化研究機構長特別顧問
〃	草 原 克 豪	前拓殖大学副学長
〃	佐 藤 次 高	東洋文庫研究部長 早稲田大学教授 東京大学名誉教授
〃	斯 波 義 信	東洋文庫文庫長 日本学士院会員 大阪大学名誉教授
〃	田 仲 一 成	東洋文庫図書部長 日本学士院会員 東京大学名誉教授
〃	鶴 見 尚 弘	横浜国立大学名誉教授 山梨県立大学名誉教授
〃	中 根 千 枝	日本学士院会員 東京大学名誉教授
〃	濱 下 武 志	東洋文庫図書顧問 龍谷大学教授
〃	原 實	東洋文庫研究員 日本学士院会員 東京大学名誉教授
〃	福 澤 武	三菱地所株式会社相談役
〃	三 木 繁 光	株式会社三菱東京 UFJ 銀行相談役
監 事	東 條 和 彦	三菱商事株式会社顧問
〃	西 村 敏 行	三菱金曜会事務局長

## 2. 評 議 員

役 職 名	氏 名	現 職
評 議 員	荒 蒔 康一郎	キリンホールディングス株式会社相談役
〃	有 馬 朗 人	科学技術館館長 武蔵学園長 東京大学名誉教授
〃	梅 村 坦	中央大学教授
〃	岸 本 美 緒	お茶の水女子大学教授
〃	久 保 正 彰	日本学士院院長 東京大学名誉教授
〃	後 藤 明	東洋大学教授 東京大学名誉教授
〃	白 井 克 彦	早稲田大学総長
〃	清 家 篤	慶應義塾塾長
〃	瀬 谷 博 道	旭硝子株式会社特別顧問
〃	長 尾 真	国立国会図書館館長 京都大学名誉教授
〃	西 田 龍 雄	日本学士院会員 京都大学名誉教授
〃	濱 田 純 一	東京大学総長
〃	平 野 健一郎	東洋文庫研究顧問 人間文化研究機構アジア歴史資料センター長 東京大学名誉教授 早稲田大学名誉教授
〃	増 田 信 行	三菱重工業株式会社相談役
〃	松 本 紘	京都大学総長
〃	間 野 英 二	京都大学名誉教授
〃	Wang Gungwu	シンガポール大学東亜研究所長

## 3. 東洋学連絡委員会委員

役 職 名	氏 名	現 職
委 員 長	榎 原 稔	東洋文庫理事長 三菱商事株式会社特別顧問
委 員	梅 原 郁	京都大学名誉教授
〃	尾 崎 康	元慶應義塾大学教授



役職名	氏名	現職
委員	興善宏	京都大学名誉教授
〃	斯波義信	東洋文庫文庫長 日本学士院会員 大阪大学名誉教授
〃	竺沙雅章	京都大学名誉教授
〃	中根千枝	日本学士院会員 東京大学名誉教授
〃	西田龍雄	日本学士院会員 京都大学名誉教授
〃	間野英二	京都大学名誉教授
〃	御牧克己	日本学士院会員 元京都大学教授
〃	森本公誠	東大寺長老
〃	吉田順一	早稲田大学教授

#### 4. 名誉研究員

氏名	所属機関
BLUSSE, Leonard	Universite Leiden
De BARY, W. T.	Columbia University
ELVIN, Mark	The Australian National University(Prof. Emerit us)
HUMPHREYS, R. Stephen	University of California
GERNET, Jacques.	Collège de France
KADIVAR, Mohsen	Tarbiat Modarres University
韓永愚	Seoul 大学校 (Prof. Emerit us)
黄寬重	国立中興大学 中央研究院歴史語言研究所
KYCHANOV, E.I.	Saint-Petersburg Branch of the Institute of Oriental Studies of Russian Academy of Sciences
LANCIOTTI, Lionelio	University of Naples(Prof. Emerit us)
李伯重	清華大学人文社会科学学院經濟学研究所
McDERMOTT, Joseph P.	St. Johns college, Cambridge University
RAFEQ, Abdul-Karim	The College of William and Mary Department of History
SAHIN, Ilhan	Kirgizistan-Turkiye Manas Universitesi
WANG, Gungwu	National University of Singapore

## 5. 職員・研究員

部名	職名	氏名	現職 ( *印は国立国会図書館研修生)
	理事長	榎原 稔	東洋文庫理事長 三菱商事株式会社特別顧問
	文庫長	斯波 義信	(普及展示部長兼務)
	専務理事	山川 尚義	(総務部長兼務)
総務部	課長	柴代 淳子	
〃	参事	藤村 由美子	
〃	〃	牧 祐紀子	
図書部	部長	田 仲 一成	
〃	図書顧問	濱下 武志	(龍谷大学教授)
〃	課長	會谷 佳光	研究員を兼務
〃	研究員	櫻井 徹	
〃	〃	篠崎 陽子	
〃	〃	山村 義照	
〃	参事	橘 伸子	
〃	研修員	中村 邦子	*
普及展示部	主幹研究員	牧野 元紀	
〃	参事	長谷川 茂広	
〃	〃	藤代 和卓	
〃	嘱託職員	岡崎 礼奈	
研究部	部長	佐藤 次高	東洋文庫研究員(兼任) (早稲田大学教授)
〃	主幹研究員	瀧下 彩子	
〃	研究員	原山 隆広	
〃	〃	大澤 肇	現代中国研究資料室派遣研究員
〃	〃	柳谷 あゆみ	イスラーム地域研究資料室派遣研究員
〃	〃	池田 温	(東京大学名誉教授)
〃	〃	池田 雄一	(中央大学名誉教授)
〃	〃	石塚 晴通	(北海道大学名誉教授)
〃	〃	市古 宙三	(お茶の水女子大学名誉教授)
〃	〃	大江 孝男	(東京外国語大学名誉教授)
〃	〃	太田 幸男	(東京学芸大学名誉教授)
〃	〃	岡田 英弘	(東京外国語大学名誉教授)
〃	〃	辛島 昇	(東京大学名誉教授)
〃	〃	菊池 英夫	(元中央大学教授)

部 名	職 名	氏 名	現 職
研究部	研 究 員	草 野 靖	(元熊本大学教授)
"	"	酒 井 憲 二	(田園調布学園短期大学名誉教授)
"	"	設 樂 國 廣	(元立教大学教授)
"	"	蒔 勇 造	(元東京大学教授)
"	"	斯 波 義 信	東洋文庫文庫長
"	"	志 茂 碩 敏	
"	"	末 成 道 男	(元東京大学教授)
"	"	関 本 照 夫	(元東京大学東洋文化研究所教授)
"	"	武 田 幸 男	(岐阜聖徳学園教授)
"	"	多 田 狷 介	(日本女子大学名誉教授)
"	"	田 仲 一 成	(東京大学名誉教授)
"	"	田 中 時 彦	(東海大学名誉教授)
"	"	田 村 晃 一	(青山学院大学名誉教授)
"	"	竺 沙 雅 章	(京都大学名誉教授)
"	"	千 葉 熾	(元桐朋学園大学理事長)
"	"	鶴 見 尚 弘	(横浜国立大学名誉教授・山梨県立 大学名誉教授)
"	"	朽 尾 武	(成城大学教授名誉教授)
"	"	土 肥 義 和	(國學院大学名誉教授)
"	"	鳥 海 靖	(東京大学名誉教授)
"	"	中 兼 和 津 次	東京大学名誉教授
"	"	永 田 雄 三	(元明治大学教授)
"	"	永 積 洋 子	(元東京大学教授)
"	"	西 田 龍 雄	(京都大学名誉教授)
"	"	延 廣 眞 治	(東京大学名誉教授)
"	"	花 田 宇 秋	(元明治学院大学教授)
"	"	濱 島 敦 俊	(暨南国際大学教授)
"	"	濱 田 正 美	(元京都大学大学院教授)
"	"	原 實	(東京大学名誉教授)
"	"	細 谷 良 夫	(東北学院大学名誉教授)
"	"	本 庄 比 佐 子	
"	"	松 濤 誠 達	(大正大学名誉教授)
"	"	牧 野 元 紀	
"	"	松 丸 道 雄	(東京大学名誉教授)
"	"	松 村 潤	(日本大学名誉教授)
"	"	御 牧 克 己	(京都大学名誉教授)

部 名	職 名	氏 名	現 職
研究部	研 究 員	初 山 明	(元埼玉大学教授)
〃	〃	柳 田 征 司	(元奈良大学教授)
〃	〃	矢 吹 晋	(横浜市立大学名誉教授)
〃	〃	山 口 瑞 鳳	(東京大学名誉教授)
〃	〃	吉 田 寅	(元立正大学教授)
〃	〃	渡 辺 紘 良	(獨協医科大学名誉教授)
〃	研究員(兼任)	飯 島 武 次	駒沢大学教授
〃	〃	石 橋 崇 雄	国土館大学教授
〃	〃	今西 祐一郎	国文学資料館 館長
〃	〃	内 山 雅 生	宇都宮大学教授
〃	〃	梅 村 坦	中央大学教授
〃	〃	太 田 信 宏	東京外国語大学准教授
〃	〃	小 名 康 之	青山学院大学教授
〃	〃	粕 谷 元	日本大学准教授
〃	〃	糟 谷 憲 一	一橋大学大学院教授
〃	〃	加 藤 直 人	日本大学教授
〃	〃	川 崎 信 定	筑波大学名誉教授
〃	〃	岸 本 美 緒	お茶の水女子大学教授
〃	〃	窪 添 慶 文	立正大学教授
〃	〃	後 藤 明	東洋大学教授
〃	〃	小 松 久 男	東京大学教授
〃	〃	嶋 尾 稔	慶應義塾大学教授
〃	〃	妹 尾 達 彦	中央大学教授
〃	〃	高 田 幸 男	明治大学教授
〃	〃	C.A.ダニエルス	東京外国語大学アジア・アフリカ言語 文化研究所教授
〃	〃	長 沢 栄 治	東京大学東洋文化研究所教授
〃	〃	中 見 立 夫	東京外国語大学アジア・アフリカ言語 文化研究所教授
〃	〃	八尾師 誠	東京外国語大学教授
〃	〃	濱 下 武 志	龍谷大学教授
〃	〃	林 佳世子	東京外国語大学教授
〃	〃	平野 健一郎	東京大学名誉教授
〃	〃	弘 末 雅 士	立教大学教授
〃	〃	深 沢 眞 二	和光大学教授
〃	〃	古 屋 昭 弘	早稲田大学教授



部 名	職 名	氏 名	現 職
研究部	研究員(兼任)	三 浦 徹	お茶の水女子大学教授
〃	〃	毛 里 和 子	早稲田大学教授
〃	〃	柳 澤 明	早稲田大学准教授
〃	〃	山 本 英 史	慶應義塾大学教授
〃	〃	吉 田 光 男	放送大学教授
〃	〃	吉水千鶴子	筑波大学准教授
〃	嘱託職員	近 藤 敦 子	

## 6. ■客員研究員■

部 名	職 名	氏 名	現 職
研究部	研究員(客員)	青 木 敦	青山学院大学教授
〃	〃	青 山 瑠 妙	早稲田大学教授
〃	〃	秋 葉 淳	千葉大学准教授
〃	〃	浅 田 進 史	首都大学東京助教
〃	〃	浅 野 秀 剛	大和文華館館長
〃	〃	天 児 慧	早稲田大学教授
〃	〃	新 井 政 美	東京外国語大学教授
〃	〃	荒 川 正 晴	大阪大学大学院教授
〃	〃	飯 尾 秀 幸	専修大学教授
〃	〃	飯 島 涉	青山学院大学教授
〃	〃	池 田 美佐子	名古屋商科大学教授
〃	〃	伊 香 俊 哉	都留文科大學教授
〃	〃	石 川 寛	早稲田大学非常勤講師
〃	〃	磯 貝 健 一	追手門学院大学准教授
〃	〃	井 上 和 枝	鹿児島国際大学教授
〃	〃	井 上 和 人	国立文化財機構奈良文化財研究所 副所長
〃	〃	上 野 英 二	成城大学教授
〃	〃	内 田 知 行	大東文化大学教授
〃	〃	梅 田 博 之	麗澤大学名誉教授
〃	〃	梅 原 郁	京都大学名誉教授
〃	〃	宇 山 智 彦	北海道大学スラブ研究センター教授
〃	〃	江 川 ひ かり	明治大学教授
〃	〃	大 河 原 知 樹	東北大学大学院准教授
〃	〃	大 澤 正 昭	上智大学教授

部 名	職 名	氏 名	現 職
研究部	研究員(客員)	大 谷 俊 太	奈良女子大学教授
〃	〃	岡 野 誠	明治大学教授
〃	〃	丘 山 新	東京大学東洋文化研究所教授
〃	〃	小 川 裕 充	東京大学東洋文化研究所教授
〃	〃	奥 村 哲	首都大学東京教授
〃	〃	小 田 壽 典	豊橋創造大学名誉教授
〃	〃	梶 谷 懷	神戸学院大学大学院准教授
〃	〃	片 桐 一 男	青山学院大学名誉教授
〃	〃	片 山 章 雄	東海大学教授
〃	〃	片 山 剛	大阪大学大学院教授
〃	〃	加 藤 弘 之	神戸大学教授
〃	〃	金 子 修 一	國學院大学教授
〃	〃	金 丸 裕 一	立命館大学教授
〃	〃	川 井 伸 一	愛知大学教授
〃	〃	川 合 安	東北大学大学院教授
〃	〃	川 島 真	東京大学大学院准教授
〃	〃	貴 志 俊 彦	神奈川大学教授
〃	〃	北 川 香 子	東京大学大学院助教
〃	〃	北 本 朝 展	情報・システム研究機構国立情報学 研究所准教授
〃	〃	金 鳳 珍	北九州市立大学教授
〃	〃	楠 木 賢 道	筑波大学准教授
〃	〃	久 保 亨	信州大学教授
〃	〃	熊 本 裕	東京大学教授
〃	〃	黒 田 卓	東北大学大学院教授
〃	〃	気賀澤 保 規	明治大学教授
〃	〃	巖 善 平	桃山学院大学教授
〃	〃	胡 潔	名古屋大学准教授
〃	〃	黄 東 蘭	愛知県立大学准教授
〃	〃	興 梶 一 郎	神田外語大学教授
〃	〃	小 嶋 芳 孝	金沢学院大学教授
〃	〃	小 杉 泰	京都大学教授
〃	〃	小 浜 正 子	日本大学教授
〃	〃	小 南 一 郎	龍谷大学教授
〃	〃	齋藤 真麻里	人間文化研究機構国文学研究資料館 准教授

部 名	職 名	氏 名	現 職
研究部	研究員(客員)	早乙女 雅 博	東京大学准教授
〃	〃	桜井 由躬雄	東京大学名誉教授
〃	〃	佐藤 健太郎	早稲田大学イスラーム地域研究機構研究 院准教授
〃	〃	佐藤 慎 一	東京大学教授
〃	〃	佐藤 宏 宏	一橋大学教授
〃	〃	佐藤 仁 史	一橋大学大学院准教授
〃	〃	澤江 史 子	東北大学大学院准教授
〃	〃	塩 沢 裕 仁	法政大学講師
〃	〃	重 近 啓 樹	静岡大学教授
〃	〃	清 水 宏 祐	九州大学教授
〃	〃	清 水 信 行	青山学院大学教授
〃	〃	庄垣内 正弘	京都産業大学教授
〃	〃	真 道 洋 子	イスラーム考古学研究所主任研究員
〃	〃	新 免 康	中央大学教授
〃	〃	須 川 英 徳	横浜国立大学教授
〃	〃	鈴 木 恵 美	早稲田大学イスラーム地域研究機構客 員准教授
〃	〃	鈴 木 均	アジア経済研究所新領域研究セン ター国際関係・紛争研究グループ長 代理
〃	〃	鈴 木 博 之	山形短期大学講師
〃	〃	鈴 木 立 子	愛知大学大学院教授
〃	〃	砂 山 幸 雄	愛知大学教授
〃	〃	關 尾 史 郎	新潟大学教授
〃	〃	曾 田 三 郎	広島大学大学院教授
〃	〃	高 遠 拓 児	中京大学准教授
〃	〃	武 内 紹 人	神戸市外国語大学教授
〃	〃	田 島 俊 雄	東京大学教授
〃	〃	立 川 武 蔵	愛知学院大学教授
〃	〃	田 中 明 彦	東京大学東洋文化研究所教授
〃	〃	田 中 仁	大阪大学大学院教授
〃	〃	田 中 比 呂 志	東京学芸大学教授
〃	〃	辻 本 裕 成	南山大学准教授
〃	〃	土 田 哲 夫	中央大学教授
〃	〃	坪 井 祐 司	立教大学非常勤講師

部 名	職 名	氏 名	現 職
研究部	研究員(客員)	寺 田 浩 明	京都大学大学院教授
〃	〃	唐 成	桃山学院大学准教授
〃	〃	唐 亮	早稲田大学教授
〃	〃	戸 倉 英 美	東京大学教授
〃	〃	富 澤 芳 亜	島根大学准教授
〃	〃	長 縄 宣 博	北海道大学スラブ研究センター准教授
〃	〃	中 村 元 哉	津田塾大学准教授
〃	〃	西 英 昭	九州大学准教授
〃	〃	西 尾 寛 治	防衛大学校教授
〃	〃	萩 田 博	東京外国語大学准教授
〃	〃	長谷川 誠 夫	千葉工業大学講師
〃	〃	服 部 龍 二	中央大学教授
〃	〃	濱 本 真 美	NIHU 東京大学拠点研究員
〃	〃	林 俊 雄	創価大学教授
〃	〃	平 勢 隆 郎	東京大学東洋文化研究所教授
〃	〃	平 野 聡	東京大学准教授
〃	〃	廣 瀬 紳 一	A. T. Kearney. Principal
〃	〃	藤 田 忠	国士舘大学教授
〃	〃	藤 本 幸 夫	麗澤大学教授
〃	〃	古 田 和 子	慶應義塾大学教授
〃	〃	弁 納 才 一	金沢大学教授
〃	〃	寶 劍 久 俊	日本貿易振興機構アジア経済研究所 研究員
〃	〃	堀 川 徹	京都外国語大学教授
〃	〃	松 井 太	弘前大学教授
〃	〃	松 重 充 浩	日本大学教授
〃	〃	松 永 泰 行	東京外国語大学准教授
〃	〃	松 本 弘	大東文化大学准教授
〃	〃	丸 川 知 雄	東京大学教授
〃	〃	水 野 善 文	東京外国語大学教授
〃	〃	三 田 昌 彦	名古屋大学大学院助教
〃	〃	宮 崎 修 多	成城大学教授
〃	〃	村 井 章 介	東京大学教授
〃	〃	村 田 雄 二 郎	東京大学教授
〃	〃	本 野 英 一	早稲田大学大学院教授
〃	〃	守 川 知 子	北海道大学大学院准教授



部 名	職 名	氏 名	現 職
研究部	研究員(客員)	森 平 雅 彦	九州大学大学院准教授
〃	〃	森 安 孝 夫	大阪大学大学院教授
〃	〃	山 内 弘 一	上智大学教授
〃	〃	山 内 民 博	新潟大学准教授
〃	〃	山 本 毅 雄	情報・システム研究機構国立情報学 研究所名誉教授
〃	〃	湯 浅 剛	防衛省防衛研究所主任研究官
〃	〃	吉澤 誠一郎	東京大学大学院准教授
〃	〃	吉 田 伸 之	東京大学教授
〃	〃	吉 田 豊	京都大学大学院教授
〃	〃	吉 村 慎太郎	広島大学大学院准教授
〃	〃	六反田 豊	東京大学大学院准教授
〃	〃	和 田 恭 幸	龍谷大学准教授

# I Toyo Bunko's activities in FY2010

The following outlines the projects that Toyo Bunko conducted during the 2010 fiscal year, and discusses developments in the projects.

Firstly, the following explains the changes in officials and staff members made during this fiscal year. At the Council meeting held in June, Chie Nakane, Yoshinobu Shiba, and Naoyoshi Yamakawa were reappointed as Directors. Kenichiro Hirano was appointed research advisor. The organization of Toyo Bunko now includes 13 Directors, 2 Auditors and 17 Councilors.

As for staff member reassignment, Mr. Aoki, Assistant General Manager at the General Affairs Department retired after recuperating from medical leave in May. In August Dr. Makino became Assistant General Manager of the Museum Department. Similarly, in August, Ms. Rena Okazaki was appointed as curator of the Museum Department.

The reconstruction of Toyo Bunko's building progressed as planned and in the middle of December was finished. Work began in the building in the middle of January. In March the migration of books into Tokyo Bunko's new stacks from The Mitsubishi Archives and the old stacks was completed. Due to the earthquake in March and its ensuing aftershocks, books were displaced and putting them back in order required some time, so therefore the Reading Room is to reopen on June 1st 2011. Demolition of the old stacks, completion of property landscaping, and opening of the on premises restaurant ought to be completed in September 2011. During Toyo Bunko's reconstruction, archaeological excavations were carried out, resulting in a fascinating fact revealing report. The site was home of a village in the Jomon era and then in the Edo period became a residence of the Maeda Clan.

Regarding the Library Department, the pending Morrison Library's data separation was completed.

The monthly hit count for the database of Toyo Bunko drastically increased in the fall, clocking in at approximately 150,000 to 160,000 hits per month. The number of books possessed by Toyo Bunko increased by 11,058 in total during the 2010 fiscal year, which included 7,452 purchased books and 3,606 donated books.

The Research Department published ten books in addition to five regular publications in the 2010 fiscal year.

Oriental Studies Lecture Series was held in the spring and autumn, each contained three lectures. The spring lecture series features Hiroshi Umemura's "Voyage Through Central Asia's Archeological Excavations", Toru Miura's "The World of Islam in the Middle-East and Japan", and Minoru Hara's "Sanskrit Research". The lectures in the fall feature Tsugitaka Sato's "Japanese Understanding of Islam", Saeko Takishita's "Manga Artists' Modern History of China", and Ken'ichiro Hirano's "Postwar US-Japan Research on China with Toyo Bunko".

Various seminars and lectures were held 180 times in total, receiving a total of 1,888 participants. Toyo Bunko received three overseas researchers, and it also provided services for 14 researchers from England, China, Russia and Taiwan.

The Museum Department is preparing to open the museum in October 2011. In May and June senior research fellow Dr. Makino as well as Ms. Takishita traveled with Mitsubishi Jisho Sekkei Inc people to America and Europe's most lauded museums, learning about them and meeting with their staff members. Again, in December Ms. Okazaki spent a week training at the British Library.

Toyo Bunko has registered several Japanese trademarks for the new museum, including "Encountervision", "Crevasse Effects", "MPAG (Museum Public Audio Guide)", "Orient Cafe" and "Tōyōkenbunroku".

Regarding Toyo Bunko's finances, the annual income and expenditures balance has fallen further into the red, which is causing Toyo Bunko to use accumulated assets. Toyo Bunko's renewal procedures for its status as a specified public-service promotion corporation were delayed, so the designation lapsed in May 2009. In November 2010 the status was renewed, but due to considerable delay a portion of donations were postponed.

With respect to internal control, Toyo Bunko is continuing its work to develop necessary regulations. Toyo Bunko widely revised work regulations on childcare, part-time work, nursing, overtime labor, and work during holidays. In addition, the following regulations were revised: regulations on the official seals, regulations on organization management, regulations on salaries, and regulations on account processing.

Regarding the transfer of status to a new regulations, Toyo Bunko is preparing its application with the aim of submitting the application in June 2012. Its procedures and other related information were reported to the Board of Directors meeting and the Council meeting in February.

With regard to public relations, Toyo Bunko has been given opportunities since 2007 to introduce its precious books every two months in a monthly magazine "The Monthly Mitsubishi," which is published by the Mitsubishi Public Affairs Committee. At the Mitsubishi Ichigokan Museum, from the end of August until the start of November, an exhibition titled "From Dream to Reality The Iwasaki/Mitsubishi Collection" ran with many items from Toyo Bunko's holdings as well as from Seikado Bunko. Roughly 90,000 people came to the exhibit and approximately 1.2 million yen was generated in the sale of Toyo Bunko related goods. Moreover, an illustrated book for the general public on the holdings of Toyo Bunko was produced. The title is "Fifty Selected Treasures From Toyo Bunko – A journey Through The History Of The Orient."

Important visitors to Toyo Bunko included Mr. Fukuzawa a counselor from Mitsubishi Estate CO., LTD, who came to see the state of the progress of construction in May. In August, Bank of Tokyo-Mitsubishi UFJ chairman Kuroyanagi honored us with a visit. Harvard-Yenching Institute's head

librarian James Cheng came to Toyo Bunko in September as well as President of the Mitsubishi Corporation Ken Kobayashi.

As for international exchange, Toyo Bunko signed a cooperation agreement with the Harvard-Yenching Library and the Harvard-Yenching Institute. Also, a cooperation agreement was signed between Toyo Bunko and Alexandria Library.

Toyo Bunko ran a fundraising drive. The names of individuals who donated over 50,000 yen after the year 2007 will be honored as the "Honorable Toyo Bunko Member".

As a contributing aspect to the welfare of Toyo Bunko staff members, the organization has joined the Mitsubishi Yowakai Foundation.



## II. Activities Report

### 1. Survey and Research

The Toyo Bunko has for over 80 years been continuously involved in systematically collecting source materials related to the historical and cultural development of the various regions of Asia.

The main purpose of this activity has been to provide scholars interested in Asian studies with a scientifically cataloged library of sources to assist them in their endeavors to better understand the field across all the academic disciplines.

In order to enhance the effectiveness of the above endeavors, a full revision of the Research Department was carried out in 2003, and involved: (1) a reorganization of the Asian studies program and proactive efforts to enlist younger scholars to participate in it. (2) incorporating the study of contemporary Asia based on interdisciplinary research programs (3) renewed efforts to expand international exposure to Asian studies research done in Japan through publication in Western languages. (4) promotion of opening research sources and information to the public and encouraging its joint utilization.

As a result, the Research Department was organizationally divided into two department: Supradisciplinary Studies and Asian Regional Studies: the former aiming at interdisciplinary research on contemporary Asian, emphasizing the utilization of primary sources; the latter stressing important empirical research issues in the study of Asian history and culture along the more traditional academic disciplines.

#### A. Supradisciplinary Studies Group

##### <Asian Section>

##### (1) Contemporary Chinese Studies

##### Interdisciplinary Research on China (Phase II)

China today continues to carry out wide-ranging political, economic and social reform, and in so doing influence both its neighbors in East Asia and the rest of the world.

The present project has put together a research system (consisting of teams dealing with source materials, politics, economy, and international relations and culture) aiming at understanding this dynamic situation.

The project will be reorganized along the lines of source collection centered around the holdings of the Toyo Bunko Library and their interdisciplinary study and wide public circulation.

In the process, links will be strengthened with such Japanese institutions and such international bodies as Academia Sinica, the Chinese Academy of the Social Sciences and Harvard-Yenching Institute and the projects research teams will continue to hold academic meetings and publish their results beginning next year.

[Research Activities]

a) The Source Materials Group has continued work started in 2009, to form the Morrison Pamphlet Collection into a systematic body of research.

b) The Political Group carried out bimonthly research meetings facilitating member discussion among researchers with an interest in petition and specialization in government, economics, society, legal codes, and administration.

c) The Economics Group took in new members and held meetings to make progress on a volume titled 「歴史的視野から見た現代中国経済」(*The Contemporary Chinese Economy from a Historical Perspective*) and also to reexamine the Mao Zedong era in socialist economy.

d) The International Relations and Culture Group has continued its research project on post-war China's international relations and cultural change. One research society meeting was held every other month.

e) All of the titles purchased have been cataloged in conjunction with the Library's Documentation Center for China Studies. Concerning publication, the Political Group is planning a volume of research on China's complaint system to be released within the next two years.

## (2) Contemporary Islamic Studies

### **Fundamental Supradisciplinary Research Approaches to Contemporary Islam: Collection of Primary Sources and Comparative Analysis Related to Parliamentarism and Constitutional Systems**

This project is concerned with collecting, cataloguing and analyzing the virtually unstudied Arabic, Persian and Turkish documents relating to parliamentary bodies in the countries of the Middle East in order to examine and compare both parliamentarian ideas that were conceived there and the resulting constitutional polities. Since the start of the new millennium, the project has also turned to the collection, cataloging and analysis of primary sources for similar comparison with the countries of Central Asia, hopefully resulting in comprehensive empirical consideration of the historical role and contemporary significance of the nation-state in such Islamic regions as the Middle East and Central Asia.

In the process, the project hopes collect and catalogue Islamic sources for publication into databases and consolidation of a Japanese source material center.

[Research Activities]

The project's activities have been divided among four groups along the regional lines of Arab, Iran, Turkey and Central Asia. The three Middle Eastern groups continued their work done during the first phase of the project, between 2003 and 2008.

a) The Arab Group continued the work began last year to utilize its *Guide to Parliamentary Records in Monarchical Egypt* that it published in 2006 in reading and analyzing the available documentation.

b) The Iran Group utilized the index (available in CD-ROM) that it compiled in 2005 to analyze the available documentation.

c) The Turkey Group continued to collect sources and analyze the available documentation based on the themes contained in the collection of papers it published in 2006 entitled 『トルコにおける議会制の展開』(*The Development of Turkish Parliamentary System*).

d) The Central Asia Group continued to collect and catalogue source materials from 2009. Progress was made in publishing the project's results as 『全訳 イラン・トルコ・エジプト議会内規』(*Complete Translation of Parliamentary Rules in Iran, Turkey, and Egypt*) in 2012.

## B. Historical and Cultural Studies Group

One indispensable key to understanding the complex and dynamic nature of the development going on in contemporary Asia is a basic knowledge about the history and culture of the people involved. The Historical and Cultural Studies Group aims at a fundamental, long-term integrated view of the historical and cultural elements that remain closely linked to contemporary Asian affairs.

### < East Asian Section >

#### (1) Premodern Chinese Studies

##### ① Ancient Chinese Regional Studies: Analysis of *Shuijing Zhu* 水經注 (*Water Classic and Commentaries*) (Phase II)

The team, which is involved in the investigation the structure of ancient Chinese regional society, has chosen to study China's oldest work of geography dating back the sixth century AD and reexamine the existing commentaries on it. The reading of the commentaries will be done in conjunction with relevant information gleaned from the most recent archeological findings and Radosat mapping technology of the river basins in question, in the hope of coming to a better concrete understanding of their historical ecologies, social realities and how their social structures changed over time. The results of this investigation will appear in the forthcoming volumes of 『水經注疏訳注』 (*Translation with Notes on the Water Classic and Commentaries*) dealing with the Weishui 渭水 River (Part II) and the Luoshui 洛水 and Yishui 伊水 Rivers, which together form the regional center of the "Yellow River Civilization." This new regional history approach will hopefully take us beyond the mere bibliographical treatment of *Shuijing Zhu* and open up new perspectives on ancient China yet to be explored either within or without Japan.

[Research Activities]

- a) Biweekly research meetings continued reading "Weishui River" contained in Chen Qiaoyi's re-compilation of 『水經注疏』 (*Annotated Shuijing Zhu*; Jiangsu Guji Publishing), with the aim of releasing a second volume (Chen's Chapter 19) on the Weishui for translation.
- b) In preparation for the publication of volumes on the Luoshui and Yishui Rivers for translation, fieldwork and scholarly exchange were conducted in Taiwan and Sanxi Province, for the purpose of collecting gazetteers and archeological survey reports on the Luoshui, Yishui and Lower Weishui River basins.

##### ② Compilation and Digitalization of a Dictionary of Song Period Social and Economic Terms

The team is now involved in editing and revising the results of its 6-volume 『宋史食貨志譯註』 (*Treatise on the Economy and Finance of the Sung*) published in 1961–2006 and Glossary of 『宋會要輯稿食貨篇社会經濟用語集成』 (*The Terminology of Socio-Economy in the Section of The Song Digest*) in 2008 into a database to be published in print and on CD-ROM.

[Research Activities]

- a) From the year 2007, approximately 40,000 terms have been extracted from sources, edited, and categorized as follows: (i) fiscal terms, (ii) economic terms, (iii) social terms, (iv) archival terms. Terms are classified into four major categories and subcategories and also sorted by length of commentary—whether short, average, or long. In each category about 3,000 terms, in total approximately 10,000 terms, have been adjusted for balance.
- b) Production of a searchable electronic dictionary is underway. A trail beta version was developed on CD that provides sample electronic data commentary for some of the technical terms.
- c) To advance this project, essential bibliographic materials were acquired, notably including new materials on legal precedents (*pányu* 判語), administrative directives (*guanzen* 官箴), personal essays and memos (*biji* 筆記), gazeteers (*fangzhi* 方志). Specialist publications containing legal contracts and customs also were procured, notably 「旧慣調査」(*Investigation into Antiquated Customs*), and 「契約文書集」(*Collection of Contract Documents*).

### ③ Archaeological Study Survey and Research of East Asian Cities (Phase III)

The comparative study, which began in 2004, of walled cities in the region centering upon Bohai 渤海. Two volumes of research have been published to date 『東アジアの都城と渤海』(*The Capital Castles of East Asia and Bohai*) in 2005 and Volume II of 『渤海都城の考古学的研究』(*Archeological Studies on the Capital Castles of Bo'hai*) in 2007. However, due to the inordinately large number of artifacts unearthed from the Bohai Shangjing Longquan-fu 渤海上京龍泉府 Site (Dongjing 東京, Castle), the task of cataloging them will continue during 2008.

[Research Activities]

Continuation of the abovementioned investigations.

### ④ Evolution of “Civil Law” Codes in Premodern China

This project aims at analyzing clarifying such “civil law”-related affairs as household registration, land holding and money lending. Within the research to date on the period-by-period legal history of China, one characteristic feature over the past 20 years has been verifying the efficacy and strict implementation of legal codes from such sources as the many public notices, local ordinances and contractual documents which have been discovered and made available in China. The present research team, which has been pursuing such lines of research over the past 5 years, has come to the conclusion that civil-related legal codes not only reflect social conditions, but also changes in those conditions as existing legal codes become obsolete over time, revealing one important aspect of the long-term evolution of Han society.

[Research Activities]

- a) Fiscal year 2009's collection of ordinances from Song, Yuan, Ming and Qin periods continued. In particular, a catalog of Song and Yuan era documents were compiled.
- b) Scheduled research meetings (including outside experts from Japan and abroad) were held to catalog, read and discuss the collected sources.

## (2) Modern Chinese Studies

### Japanese Surveys in China During the First Half of the 20th Century



The object of this project is to continue the work began by the former Committee for Research on Modern China to collect source materials related to fieldwork conducted in mainly northern China by Japanese research institutes during the 1910s, 20s, 30s and 40s. In addition to the existing Japanese language sources, related Chinese language sources will be examined, and while continuing to stress northern China, central and southern China will be included in survey area in order to discover any regional differences. By utilizing the Japanese and Chinese sources in tandem, and following the lead of recent research results, it is hoped that a new way of organizing the materials will be discovered leading to an overall image of Chinese society during the first half of the last century. Moreover, while continuing the collection of sources related to fieldwork done in China by Japanese research institutes before and during the Second Sino-Japanese War, efforts will be made to encourage more joint study with research institutes based in China. Already cooperation with such institutes as the Chinese Academy of Social Sciences, Shanghai Municipal Archives, Qingdao Academy of Social Sciences and Shandong Academy of Social Sciences has resulted in the discovery of sources indispensable to filling the gaps that exist in modern Chinese studies both in Japan and elsewhere. With the addition of new members to the project team, joint research activities will be extended such institutes of higher learning as Beijing University, Nankai University, Sanxi University and Nanjing University, providing the Toyo Bunko with a steady stream of new sources related modern and contemporary China to analyze, catalogue and introduce to the world.

[Research Activities]

- a) Collection and investigation continued from last year on research institutes not covered in previous studies. For example items and reports sought by organizations other than Toyo Bunko such as Japanese consulates, the Chamber of Commerce, the Diplomatic Record Office of the Ministry of Foreign Affairs, National Institute for Defense Studies, and the Policy Research Institute, Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries.
- b) Partial results of these activities were reported in the periodical 『近代中国研究彙報』 (*Report of Modern Chinese Studies*).

### (3) Northeastern Asian Studies

#### ① Study of Source Materials Preserved in Japan on Late Premodern Korea (Phase II)

Completion of the work which began in 2004 to survey records from the period in question held at Kyoto University, Tenri University (Imanishi Collection), other organizations and personal collections and compile them into a catalogue with explanatory notes. Prior to the start of the present project, a comprehensive survey of classical Chinese works published in Korea called “Chosen-Bon” was already in progress and had just about clarified their diffusion throughout Japan. However, the whereabouts of records from the period, referred to as *seisatsu* 成冊, regional and private sector sources, mainly in the form of ledgers, were virtually unknown. Phase I of the present project was successful in finding such sources that are no longer extant in Korea and analyzing their content. The completion of Phase II will result in the existence of such sources throughout Japan.

[Research Activities]

- a) Preparation continued for the publication of Volume II of 『日本所在朝鮮近世記録類解題』 (*Catalogue of Late Premodern Korean Sources in Japan*).
- b) Research was conducted on the holdings of The University of Tokyo and Kyoto University

libraries, analyzing and investigating library materials that had come to Japan.

## ②Manchu Archival Sources (Phase II)

It is now clear that use of Manchurian as the Qing Dynasties primary official language extended throughout its entire history. Although from the reign of Emperor Qianlong (1736–1795) bannermen residing in Beijing came to use Chinese in everyday life, the use of Manchurian in the written language continued up until the establishment of the Republic of China. At present, about one-half of the 10 million sources material titles held at the First Historical Archives of China in Beijing were written in Manchurian (or both Manchurian and Chinese). This proves that Manchurian was indispensable to system by which document were transmitted in Qing China. From 1644, when the Manchus first entered China proper through the early years of the Qing Dynasty, much of both documentation and books issued both at the center, at the banners and fiefs on the frontier, and in foreign relations were written in Manchurian. The objective of the present project is to examine comprehensively Qing Dynasty bibliographs written or printed, mainly during its earlier eras, in Manchurian.

[Research Activities]

- a) Research was conducted on documents related to the early Qing period “Imperial Historiographical Office” (*Neiguoshiyuan* 内国史院) and 『鑲紅旗滿州衙門檔案』.
- b) 『内国史院檔天聰五年 I (*Neiguoshiyuandang: The Early Manchu Archives of the Imperial Historiographical Office; The Fifth Year of Tiancong 1631, Vol.1*) 』 was published.
- c) Research on *Chongde* 崇德 era document historiography continued from previous year.

## ③Structural Historical Analysis of East and Northeast Asia During the Qing Period (Phase II)

Within the state projects that were rapidly pushed forward in China in preparation for the Beijing Olympic Games, a number of existing internal political, economic, ethnic and cultural problems came to the surface (beginning with the Tibetan issue) that promised to influence daily life throughout Central and Northern Asia. In this respect, the great plan envisioned by the Qing Dynasty for unifying and integrating the regional realms of inner China and those on the periphery is much alive and well in China today, as well as the political, economic, ethnic and cultural problems that accompany such a plan. This project has been concerned with studying and analyzing the state structure and international relations engineered by the Qing Dynasty in its efforts to unify China’s inner and peripheral realms. Together with compiling the research results into an English language collection of papers, the project will aim at building a research system able to understand comprehensively the total historical structure of East and Northern Asia during the Qing period, and for that purpose systematically collect, catalogue and digitalize heretofore undisturbed documentary archives indispensable to analyzing the problems at hand and those that promise to arise in the future.

[Research Activities]

- a) Documental surveys were made about Dang’an as well as on historical documents held by foreign research institutions, libraries, and archives that cross domains of established periods and geographical borders, based on the specialized research domains of the Qing Dynasty’s Southwest China ethno-history.
- b) The categories of literature mentioned above have been processed into the catalogue.

#### (4) Japanese Studies

##### **Bibliography for the Rare Archives in the Iwasaki Collection (Phase II)**

All of the rich sources dealing with Japanese culture, literature and language containing in the Library's Iwasaki Collection have yet to be bibliographically surveyed. Upon the publication of a five-volume bibliographic introduction to the old manuscripts and printings from the Muro-machi period and before was completed in 2006, the work turned to the holdings that were published during the Tokugawa period, preparing basic research on them to be published in the future.

[Research Activities]

- a) A study group sought to understand the full meaning of 100 books of poems published during the Edo Period and also conducted a bibliographic survey.
- b) Editing is underway in order to release the abovementioned publication as 『岩崎文庫貴重書書誌解題Ⅶ』 (*Annotated Bibliography of Rare Titles in the Iwasaki Collection*).

#### < Inner Asian Section >

##### (1) Central Asian Studies

###### ① The Paleographs of St. Petersburg: Uighur Documents

It was in 2002 that a provisional catalogue (serial numbers) of Uighur and Sogd language documents found in the Library's copy the microfilm held by the St. Petersburg Branch of the Institute of Oriental Studies (present, St. Petersburg Institute of Oriental Manuscripts) of the Russian Academy of Sciences along with additional data discovered in a survey of the Institute. Then the work continued to digitalize the data until completion last year. An almost complete revised version of the original catalogue in digital form is now ready for publication. However, due to limitations within the contract concluded between the Toyo Bunko and the Institute of Oriental Studies, care must be taken in decided exactly how the catalogue will be released to the world. For example, there is the possibility of including a listing of Uighur bibliographs held by the British Library, including some that have yet to appear on the Internet. The catalogue will also include chapters on the related bibliographical research to date.

[Research Activities]

- a) Continued from fiscal 2009, bibliographical research was carried out on the catalogs.
- b) Classification of ancient forms of documents, focusing on those of Uighur, was carried out while developing a related research reference list.
- c) Joint research was conducted with the Chinese Document Group (see 2-(1)-③) on *hebi* 合璧 documents.
- d) Progress made on preparing DVD version of 「サンクトペテルブルグ東洋学研究所所蔵ウイグル文献目録(増補版)」(*Revised Catalog of Uyghur Document held by the St. Petersburg Branch of Institute of Oriental Studies*).

###### ② Politics and Islam in Modern and Contemporary Central Eurasia

It was on the occasion of the breakup of the Soviet Union in 1991 that great opportunities were opened in the historical study of modern and contemporary Central Eurasia. A wide variety of source materials to which access had theretofore been denied were opened to the public and joint research with local scholars, as well as fieldwork by foreign researchers became



possible. Under such promising circumstances the present project has been organized with the following two issues in mind. The first is while the role of Islam in the region's political, social and cultural development since the eighth century cannot be ignored, the "Islamic question" was unduly underplayed under the atheistic ideology perpetuated under the Soviet regime. Now is the time to reexamine Central Eurasian history in order to overcome such shortcomings. Secondly, from the beginning of Perestroika on war on, there was a remarkable resurgence staged by Islam in region, with the appearance of extremist groups aiming at the establishment of Islamic states clashing with secularist regimes. The question therefore arises as to how we are to consider Islam resurgence in the context of Central Eurasian history. Indispensable to answering such a query to take an empirical look at the interrelationship between Islam and politics throughout the region's modern and contemporary periods.

[Research Activities]

- a) Continuation from fiscal year 2009 of overseas source material collection: experts were commissioned and dispatched to libraries and research institutes, in location such as Tashkent (Uzbekistan), Kazan and St. Petersburg.
- b) Research meetings were held concerning the above-mentioned subjects, utilizing both the newly collected sources and the rich holdings already available in the Library.

### **3. Database Compilation of a Catalogue for the Microfilm of Chinese Documents Unearthed in Continental Asia Held by the Russian Science Academy's St. Petersburg Asian Studies Institute Archives**

It was in 2002 that the Toyo Bunko became the initial recipient of this 363-reel, 250,000 frame microfilm collection containing Uighur-Sogd, Khotan-Saka, Chaghatai-Turkish, Mongolian, Chinese, Sanskrit, Arabic, Persian, Manchurian, Tibetan and Jurchen documents dating from the 4-5th to the 15th century. The compilation of a catalog of these documents into database form has been in demand throughout the world for a long time.

The present project had been organized to partially fill that demand with a digital catalogue pertaining to the Chinese documents contained in the collection.

[Research Activities]

- a) Work continued on the compilation of a catalog for 40 reels of excavated Dunhuang Chinese documents, which are part of a Tun-huang document collection of reels numbered 256 – 363. Confirmation has been made for 421 document sections.
- b) Consideration took place of about 700 Chinese documents not included in the publication of 『俄藏敦煌文献』 (Shanghai Guji Publishing House, 1993).
- c) The Excavated Paleography of Inner Asia Research Society periodically held meetings.

## **(2) Tibetan Studies**

### **Philological Research on Tibetan Canonical Works Omitted from the Tripitika (Phase II)**

This new phase of the project will involve building a comprehensive library collection of sources related to all areas of history, culture and religion by collecting and storing newly discovered Tibetan manuscripts. Then a catalog will be compiled and a database published. The work will then be directed towards editing, translating, annotating and researching a library collection including the paleographs found at Dunhuang, the Eguchi Collection and the above-mentioned manuscripts.

[Research Activities]



- a) Source Material Collection: analysis and cataloguing of facsimile collection of 10 through 13th century Tibetan manuscripts recently discovered in China, an electronic edition of Tibetan Tripitika and non-Tripitika documents.
- b) The following research subjects were studied with the cooperation of Tibetan scholars:
  - 1. Collation of Manuscripts: many old Tibetan documents have been copied in a handwritten style that is difficult for general scholars to decipher. With the help of Tibetan collaborators, these documents were successfully compiled into the Tibetan print text database.
  - 2. Bibliographic analysis and research of the database was conducted.
  - 3. The annotated translation was published of a chapter on the bKa'gdams pa in Thu'u bkwan' s Grub mtha' for the next volume of the series 『西藏仏教宗義研究』 (*A Study of the Grub mtha' of Tibetan Buddhism*) dealing with research in Tibetan Buddhist doxology.
  - 4. Research was conducted on Tibetan documents unearthed in Central Asia, particularly, Dunhuang, under the leadership of Takeuchi Tsuguhito to prepare for publishing volume 1 of 『中央アジア出土チベット語文献研究』 (*Research on Tibetan Documents Unearthed in Central Asia*).

### 3. India and Southeast Asian Section

#### (1) Indian Studies

##### Indian Epigraphy: Collection and Research

In contrast to a past dearth of interest among Japanese Indologists in the study of epigraphy, in recent years a younger generation of scholars have risen to occasion, including Ishikawa Kan and Ohta Nobuhiro in the area of Dravidian languages and Mita Masahiko and Furui Ryusuke in Aryan languages. Such a lack of tradition has resulted in concomitant lack of interest in collecting texts and research literature on the subject, despite its indispensability as the primary source of information on the “paperless” ages of ancient and medieval Indian history. On the other hand, in India itself, the study of epigraphy is also being threatened by lagging publication of texts and waning legions of younger scholars. Needless to say, the number of Indian epigraphy experts worldwide is extremely small. Given this unsettling state of affairs, Japanese research institutes have begun collecting Indian inscriptions (including unpublished texts) with the intent of both making them available internationally and also enticing new recruits to the waning fields of ancient and medieval Indian history.

[Research Activities]

- a) In fiscal 2009 Toyo Bunko continued to collect new Indian post-Independence publications (in particular those of local archeological bureaus) as well as epigraphy collections and research periodicals not yet held or partially lacked by the Library. Transcripts of these unpublished epigraphical sources need to be copied with permission at the Epigraphy Branch of ASI(Archaeological Survey of India) in Mysore. This was carried out under Karashima Noboru, Ohta Nobuhiro (research fellow)Ishikawa Hiroshi(research fellow).
- b) In addition to the continuation of individual research by team members, a number of themes were set for joint study with collaborating experts.

#### (2) Southeast Asian Studies

##### Historiography Regarding Modern and Contemporary Southeast Asia

From as early as the late Meiji period, Japan became closely involved with the region, culminating in military occupation during the Pacific War. Then, after the War, Japan gradually be-

came involved in the economic affairs of the region. Over the past 40 years or so, the field of Southeast Asian studies in Japan has developed by leaps and bounds; however, the research itself actually dates back to the Taisho Era scholars who became interested in the history of the "South Seas" as a way of understanding East-West contact in East Asia, resulting in a "South Sea boom" and the release of publications related to the economy of the region. Then during the Pacific War many publication related to the region appeared, including translated materials, but with the exception of a few empirical studies, most of these publications were as "Southern trivia" and given little or no scientific credibility. Nevertheless, they are not only valuable sources for understanding Japanese perceptions of the region, but valuable ethnographic observations of Southeast Asian society at the time. The present project will not only continue to view Japan's involvement in Southeast Asian affairs, but also examine the role played by Japanese in the social integration of the region, in order to better understand the social characteristics of a region which during modern times was home to a diverse multi-ethnic population including Japanese, Chinese, Indians, Arabs and Europeans.

[Research Activities]

- a) Work continued on the collection and analysis and source materials on the role played by Japanese in the social integration of modern Southeast Asian cities. Progress has been made cataloging post-Pacific War publications on Japanese relations with Southeast Asia during and before the war.
- b) Research members visited Southeast Asia's principal cities, surveying historical developments in living spaces of foreign-origin residents, including Japanese.
- c) Progress was made in the setting of discussion points through research meetings, bibliographical surveys and fieldwork. Preparation was started for drafting plans for the publication of this project upon its completion.

## < West Asian Section >

### West Asian Studies

#### Contractual Documents in the Islamic Sphere (Phase II)

The practice of religious donation known as *waqf* led not only to the construction of religious institutions in both the urban and rural areas of the region, but also formed an economic base linking the common people to the rich and powerful. This project will be involved in collecting both *waqf*-related historical accounts, such as treatise on jurisprudence, chronicles and gazetteers, and related documentary sources, such as actual donation records and investigative reports, all leading to a clarification of the situation on the ground in the various areas of the region and how the institution changed over time.

[Research Activities]

- a) Research was conducted on Toyo Bunko's collection of Moroccan vellum documents. To decipher the vellum, research meetings periodically took place and related documents were collected and analyzed.
- b) Research meetings were held for comprehensive study on Toyo Bunko's *waqf* documents and related materials were acquired.

## C. Source Materials Studies Group

## <Source Materials Section>

### East Asian Studies

#### Research on East Asian Source Materials

The objectives are to search for bibliographic sources held in China, Taiwan, Hong Kong and the Chinese communities of Southeast Asia and to establish information exchange relations and personal contact with archival institutions in those areas.

[Research Activities]

Promoting exchange of bibliographic sources and research between universities including National Cheng Kung University, Shanghai Theatre Academy, and Academia Sinica.

### D. Seminars and Lectures

No./Month	Apr	May	Jun	July	Aug	Sep	Oct	Nov	Dec	Jan	Feb	Mar	Total
Meetings	14	24	19	18	5	17	20	27	21	5	7	3	180
Attendance	133	413	160	142	31	135	219	316	162	68	83	26	1,888

## 2. Source Material Collection and Cataloging

### A. Purchases

Progress was made in acquiring the primary source materials necessary for furthering supradisciplinary and regional Asian studies.

### B. Exchange of Publications

Type	Received			Donated		
	China/Japan	Western	Total	China/Japan	Western	Total
Monograph	925	372	1,297	713	441	1,154
Periodical	1,637	672	2,309	3,228	848	4,076
Total	2,562	1,044	3,606	3,941	1,289	5,230

### C. Database Compilation

Western Language	304	Turkish	223
Chinese-Japanese	3,837	SE Asian Language	99
Cyrillic	577	Periodicals	3,883
Persian	385		
Arabic	504		
	5,607 0	Total	9,812 件

### D. Preservation and Cataloging

Between 1 April 2010 and 31 March 2011, the following tasks were completed.

- Microfilm deterioration prevention: 1,610 items

• Microfilm cataloging: 117 items.

### 3. Research Publications

The results of analysis and research of primary sources conducted by the Research Department appear in catalogs, journals and monograph series published in both Japanese and Western languages for dissemination to members of the Asian studies community active in Japan, Asia and the West.

#### A. Periodicals to be edited and released during 2010

- |  |                  |                 |          |
|--|------------------|-----------------|----------|
| (1) 『東洋文庫和文紀要』 (東洋学報)<br>( <i>The Journal of the Research Department of the Toyo Bunko</i> ) | Vol. 92 Nos. 1-4 | A5 Size Journal | Released |
| (2) 『東洋文庫欧文紀要』 ( <i>Memoirs of the Research Department of the Toyo Bunko</i> )               | No. 68           | B5 Size Journal | Released |
| (3) 『近代中国研究叢報』 ( <i>Report of Modern Chinese Studies</i> )                                   | No. 33           | A5 Size Journal | Released |
| (4) 『東洋文庫書報』 ( <i>Philological Report from Toyo Bunko</i> )                                  | No. 42           | A5 Size Journal | Released |
| (5) 『超域アジア研究報告』 ( <i>Supradisciplinary Asian Studies Report: History and Culture</i> )       | Vol. 7           | B5 Size Journal | Released |
| (6) <i>Asian Research Trends New Series</i>  | No. 5            | A5 Size Journal | Released |
| (7) <i>Modern Asian Studies Review</i>   | Vol.3            | A5 Size Journal | Released |

#### B. Monographs, etc. earmarked for publication during 2010

- |  |                    |
|--|--------------------|
| (1) TBRL14 <i>Histoire médiéval du Bhoutan — établissement et évolution de la théocratie des 'Brug pa —</i>  | One B5 size volume |
| (2) 『水経注疏訳注 渭水編(下)』 東洋文庫論叢 74<br>( <i>Translation with Notes on The Water Classic and Commentaries, Chapter19:Wei Shui 3<sup>rd</sup></i> )<br>(Toyo Bunko publications Series A, No.74)<br>One A5 size volume |                    |
| (3) 『西藏仏教宗義研究 第9巻 トゥカン「一切宗義」カダム派の章』<br>( <i>A Study of The Grub mtha' of Tibetan Buddhism, Vol.9, The Chapter on the bKa'gdams pa of Thu'u bkwan' Grub mtha'shel gyi me long</i> )                             | One B5 size volume |
| (4) 『内国史院檔 天聰五年I』  |                    |



(*Neiguoshiyuandang: The Early Manchu Archives of the Imperial Historiographical Office; The Fifth Year of Tiancong 1631, Vol.1*)

One B5 size volume

(5) 『古代インドの環境論』(*Ancient Indian Theories of the Environment*)

One A5 size volume

## 4. Dissemination of Information

### A. Research Information

#### (1) Asian Studies Lecture Series

Six annual lectures divided into spring and fall series.

#### (2) Special Lectures

Approximately two lectures were delivered by world renown scholars visiting Japan.

#### (3) Panel Discussions

Held once during 2010 on a specialized research topic proposed by a keynote paper.

#### (4) Public Exhibitions

Beginning in 2011, monthly meetings will be held to determine what will be exhibited in the newly completed Museum facility.

#### (5) Reference Information Service

Publication of 『東洋文庫年報』 (*Toyo Bunko Yearbook*) 2009.

### B. Database Availability

The number of online Japanese and English language requests for access to information about Toyo Bunko library holdings and other source materials between 4 April 2010 and 31 March 2011 totaled 1,554,358. In addition, links to the databases of other institutions were enhanced in order to provide visitors to the Toyo Bunko website direct access to information about important Asian studies sources elsewhere in Japan and throughout the world.

## 5. Scientific Information Availability

In addition to its role as an Asian studies research institute, the Toyo Bunko also acts as a liaison for scholars and organizations in Japan and abroad.

### A. Reading Room Services

No./Month	Apr	May	Jun	July	Aug	Sep	Oct	Nov	Dec	Total
Users	146	124	148	146	193	117	119	129	186	1,273
Title Requests	1,555	1,356	1,851	1,985	2,722	1,987	1,779	2,907	5,472	21,801
Reference Service Requests	40	34	40	40	52	32	32	35	50	346

\*Between January and March 2011, Reading Room Services were on hiatus as the building was closed.

## B. Photocopying Services

### (1) Microfilm and Paper Developing

Category	Servise Request
Amount	148

### (2) Electronic Photocopying

Category	Servise request	Number of Copies
Amount	598	27,003

## C. Reprinting and Expanded Publication

『東洋学報』( <i>The Journal of the Research Department of the Toyo Bunko</i> ) Vol.91, No.4	330
『東洋学報』( <i>The Journal of the Research Department of the Toyo Bunko</i> ) Vol.92, No.1-3	330 each
<i>Memoirs of the Research Department of the Toyo Bunko</i> Vol.67	50
TBRL12 <i>Studies on Xinjiang Historical Sources in 17-20th Centuries</i>	50
TBRL13 <i>Large and Broad: The Dutch Impact on Early Modern Asia; Essays in Honor of Leonard Blussé</i>	50
『地図文化史上の広輿図』( <i>The Kuang-Yü-T'u in the Cultural History of Chinese Maps</i> ) (Toyo Bunko Publications, Series A, No.73)	50
<i>Sources on the Mughal History</i>	50
『岩崎文庫貴重書誌解題VI』 ( <i>Annotated Bibliography of Rare Titles in the Iwasaki Collection, Vol.VI</i> )	50
『近代中国研究叢報』( <i>Report of Modern Chinese Studies</i> ) No.32	50
『東洋文庫書報』( <i>Philological Report from the Toyo Bunko</i> ) No.41	20
『東洋文庫年報』( <i>Toyo Bunko Yearbook</i> ) 2009	10

## D. Reference Information Services

Data on English language publications was periodically updated.

## E. Public Relations

Regular updating of the Toyo Bunko website.

## F. Scholarly Exchange

< Long Term Fellowships >

(1) Foreign Scholars

Iyanaga Nobumi

(Tokyo Centre Head, Ecole française d'Extrême-Orient)

Specialty: Japanese Buddhism

Term: 1 Sept 2008–31 Aug 2009 (To be extended)

Wu Zhen

(Assistant Professor, Department of Chinese Literature, Faculty of Letters, Nankai University; JSPS Postdoctoral Fellow)

Specialty: A Comparative Study on Ritual Theatres between Japan and China—An Analysis from Religion

Term: 25 Nov 2009–24 Nov 2011

Advisor: Tanaka Issei

GIRARD Frédéric

(Head of Research, Ecole française d'Extrême-Orient)

Specialty: Japanese Buddhism

Term: 21 Sept 2010–20 Sept 2011

(2) 2009 Research Fellows of the Japan Society for the Promotion of Science (Post-Doctoral)

Hashizume Retsu (The University of Tokyo)

Specialty: Authority Exercised by Caliphs After Fall from Power: A Reexamination from the Viewpoint of Military Regimes, the Abbasids and Ulama

Term: 3 years (2008–2010)

[Academic Advisor, Sato Tsugitaka]

Sawai Kazuaki (The University of Tokyo)

Specialty: Istanbul and Resource Distribution in the 16 and 17th Century Ottoman Empire

Term: 3 years (2009–2011)

[Academic Advisor: Hayashi Kayoko]

Suzuki Hideaki (The University of Tokyo)

Specialty: "Modernity" in the World of the Indian Ocean: The Case of the Slave Trade

Term: 3 years (2009–2011)

[Academic Advisor: Shitomi Yuzo]

Kimura Satoru (The University of Tokyo)

Specialty: Views of Islamic Monarchical Regimes and Political Order in Modern Central Asia

Term: 3 years (2009–2011)

[Academic Advisor: Shinmen Yasushi]

Kobayashi Ryosuke (University of Tsukuba)

Specialty: The Formation of the Tibet Problem in the First Half of the 20th Century : Focusing on Eastern Tibet

Term: 3 years (2010–2012)

Ikejiri Yoko (University of Tsukuba)

Specialty: Research on the Impact of the Tibetan Buddhist Philosophy and Networks on the History of Inner Asia under the Qing Dynasty

Term: 3 years (2010–2012)

### < Funding to Foreign Scholars >

Ye Changhai (Shanghai Theatre Academy)

And 13 other scholars.

## 6. Regional Studies Program

### A. Documentation Center for Islamic Area Studies

#### Pioneering an Islamic Historical Information Science

This documentation center attaches particular importance to local source materials written in regional languages, viewing these sources as mirrors reflecting societies. In order to comprehend the complexity of political, economic, and social structures in Islamic areas, we will study these local source materials systematically from a broad perspective.

The center's objective is to systematize studies using source materials, establishing a 3-stage work cycle: systematic collection and cataloging of source materials, provision of information about those materials that will facilitate systematic research, and research on their documentation that will provide the basis for their systematic use.

[Research Activities]

- a) Updated the following databases and resources: Database of Collected Materials at TBIAS (URL: [https://www.tbias.jp/php/book\\_search.php](https://www.tbias.jp/php/book_search.php)), Bibliographical Database of Middle East Studies in Japan (URL: [http://www.tbias.jp/document\\_research.cgi](http://www.tbias.jp/document_research.cgi)), Guides to Libraries, Arc-hives and Research Institutes in Islamic Area (URL: [http://www.tbias.jp/researchguide\\_detail.html](http://www.tbias.jp/researchguide_detail.html)).
- b) Systematically collected materials in regional languages of Islamic area, namely, Arabic, Persian, and Ottoman Turkish. They include documents that were likely to become lost. The Toyo Bunko also collected bibliographic materials in regional languages not customarily held by domestic institutions.
- c) As for the construction and expansion of the Toyo Bunko's information network on source materials, investigations to assess the environment of cataloging and use of materials are continued. To improve the network environment and better share information, a liaison group of librarians especially for materials in Arabic scripts was held. Reference tools were developed and released to the public on TBIAS's website.
- d) Research meeting held in cooperation with SIAS2. As a result of this research, participated in the Third IAS International Conference, held at Kyoto International Conference Center on December 18th, Session B2 on "Continuity and Change of Legal Institutions: Modernization of the Sharia Courts in the 19th and 20th Centuries." Its report was also published.
- e) 7 seminars on historical materials and legal documents in Central Asia and Ottoman Empire, as well as regular research group meetings were held in cooperation with domestic institutions. As a result of the research group "Sharia and Modernity: Ottoman Civil Law," public booklet containing 3 research articles and translation of 100 articles of Ottoman Civil Law.



## B. Documentation Center for China Studies

### Promotion of Collection and Utilization of Contemporary Chinese Source Materials and the Furtherance of Bibliographical Research

Exchange of information for website and databases regarding Chinese studies. Organizing international symposia and small scale workshops among researchers, librarian and archivists in Japan and abroad for the purpose of disseminated information on a wider scale. Continued sponsorship of joint research conferences based on the holdings of the Toyo Bunko Library and newly collected primary materials. Continued sponsorship of seminars promoting historiographical study of the sources necessary for studying contemporary history outside the realm of databases and written materials.

[Research Activities]

- a) Progress was made on inputting bibliographic data of Chinese materials into NII-Webcat (union catalog of academic and university library on Japan). The inputting data amount 17,139 titles.
- b) In December 2010, as a result of research activities over the past four years, a number of academic papers were collected and published by Toho Shoten as 『新史料からみる中国現代史—口述・電子化・地方文献』(Chinese Contemporary History from the Perspective of New Historical Materials: Oral, Digital and Local).
- c) The historical material workshop met and read 「王清穆日記」(The Diary of Wang Qingmu). To improve the deciphering of archived handwritten text, Toyo Bunko held this workshop particularly for young researchers and graduate students. October 29th at Meiji University, a workshop titled 「若手研究者による現地調査・史料調査報告」(Fieldwork and historical material research report by young researchers) was held which deepened the local historical materials on China and Taiwan.
- d) In March 13 Takada Yukio (Director), Tanaka Hitoshi (researcher), and Osawa Hajime (researcher) visited the Peking University Library, Institute of Modern History on China Academy of Social Sciences, Zhejiang University Library and Shanghai Library. And, We also toured the premises of these digital library. In addition, Toyo Bunko introduced its own important books and digital library.
- e) Due to Toyo Bunko's relocation this fiscal year, there was a decrease in the amount of bibliographic materials acquired though collections increased as to the plan set out at a meeting of Documentation Center for China Studies.

## 7. Contract Research

### The Development of Joint Research Institutions in Human Studies and Social Sciences

The purpose of the commission is to deepen and improve the understanding of Islam in the contemporary globalized world through developments going on in network-based joint Islamic regional studies.

The implementation of joint research projects will promote the participation of a wide-range of interested people both in Japan and abroad through an open, "call for papers" network, and also build a strong operations system of research support. The Toyo Bunko is dedicated to play a role as an Islamic regional studies source material center involved in the promotion of collection and utilization of sources and implementing innovations in Islamic bibliography and philology.

[Research Activities]

- a) Strengthening Toyo Bunko's Islamic area studies research center
- b) To fully enhance the dissemination of research findings of works carried out by the Documentation Center for Islamic Area Studies, Toyo Bunko has drawn out plans to publish both Japanese and English versions of the three year collaborative research project titled 「イスラーム圏におけるイラン式簿記術の展開：オスマン朝治下において作成された帳簿群を中心として」(The Pervasion of Persian Bookkeeping in the Islamic World: Case Studies on the Ottoman Accounting Registers). Led by Takamatsu Yoichi(associate professor at Tokyo University of Foreign Studies Research Institute for Languages and Cultures of Asia and Africa). The website is located here: <http://www.tbias2.jp/>
- c) Center Reinforcement Project:Bibliographical Database of Middle East Studies in Japan: Retroactive Registration

# III Accounting Report

## Balance Sheet of General Account

As of March 31, 2011

(Unit: Yen)

Account Title	Current FY	Previous FY	Increase/Decrease
<b>I ASSETS</b>			
1. Current Assets			
Cash and deposits	5,382,385	2,321,342	3,061,043
Accounts receivable	6,420,486	6,381,659	38,827
Goods	4,556,658	3,108,768	1,447,890
Prepaid expenses	956,145	2,167,979	△ 1,211,834
Total current assets	17,315,674	13,979,748	3,335,926
2. Fixed Assets			
(1) Basic assets			
Library materials	1,041,708,012	1,041,708,012	0
Land	110,494	110,494	0
Guarantee money	50,000	50,000	0
Investment securities	2,842,500,000	2,842,500,000	0
Deposits	115,322	115,322	0
Total basic assets	3,884,483,828	3,884,483,828	0
(2) Specific assets			
Pension assets	45,689,256	39,009,470	6,679,786
Allowance for repairs of buildings and equipment	109,580,601	86,440,784	23,139,817
Allowance for museum production equipment	26,607,858	15,000,000	11,607,858
Total specific assets	181,877,715	140,450,254	41,427,461
(3) Other fixed assets			
Buildings	0	274,235,919	△ 274,235,919
Structures	0	806,801	△ 806,801
Fixtures and fittings	9,159,372	18,174,336	△ 9,014,964
Library materials	204,874,067	180,927,050	23,947,017
Softwares	6,072,411	8,052,813	△ 1,980,402
Telephone rights	364,000	364,000	0
Guarantee money	0	2,215,440	△ 2,215,440
Long-term prepaid expenses	899,962	1,358,727	△ 458,765
Reserve for operation adjustments	83,628,604	97,455,950	△ 13,827,346
Total other fixed assets	304,998,416	583,591,036	△ 278,592,620
Total fixed assets	4,371,359,959	4,608,525,118	△ 237,165,159
Total Assets	4,388,675,633	4,622,504,866	△ 233,829,233
<b>LIABILITIES</b>			
1. Current Liabilities			
Accounts payable	3,019,260	1,505,690	1,513,570
Deposits received	1,110,972	1,167,012	△ 56,040
Allowance for bonuses	6,949,184	7,155,998	△ 206,814
Liabilities related demolition	80,026,000	0	80,026,000
Total current liabilities	91,105,416	9,828,700	81,276,716
2. Fixed Liabilities			
Allowance for retirement benefits	45,689,256	39,009,470	6,679,786
Allowance for PCB	24,605,000	0	24,605,000
Total fixed liabilities	70,294,256	39,009,470	31,284,786
Total liabilities	161,399,672	48,838,170	112,561,502
<b>III NET WORTH</b>			
1. Specified Net Worth			
Donations, etc.	202,110,494	202,110,494	0
Total specified net worth	202,110,494	202,110,494	0
(of which the amount appropriated to basic assets)	(202,110,494)	(202,110,494)	( 0 )
2. General Net Worth			
(of which the amount appropriated to basic assets)	4,025,165,467	4,371,556,202	△346,390,735
(of which the amount appropriated to specific assets)	(3,682,373,334)	(3,682,373,334)	( 0 )
(of which the amount appropriated to specific assets)	( 136,188,459)	( 101,440,784)	( 34,747,675)
Total Net Worth	4,227,275,961	4,573,666,696	△346,390,735
Total Liabilities and Net Worth	4,388,675,633	4,622,504,866	△233,829,233

The Increase and Decrease of General Account's Net Worth  
from April 1, 2010 to March 31, 2011

(Unit: Yen)

Account Title	Current FY	Previous FY	Increase/Decrease
<b>I GENERAL NET WORTH INCREASE/DECREASE</b>			
<b>1. Current Increase/Decrease</b>			
(1) Current revenues			
Financial revenue from basic assets	88,251,432	85,738,335	2,513,097
Financial revenue from specific assets	190,710	249,625	△ 58,915
Donations received	75,920,000	101,040,000	△ 25,120,000
Donations by Support Society	74,310,000	46,540,000	27,770,000
Other donations	1,610,000	54,500,000	△ 52,890,000
Membership fee received	297,000	390,500	△ 93,500
Project fee received	16,000,000	20,000,000	△ 4,000,000
Contract research payment	10,500,000	12,000,000	△ 1,500,000
Operating revenue	8,265,292	7,838,211	427,081
Grants, etc.	110,000,000	110,000,000	0
Other revenue	3,932,580	3,442,076	490,504
Total current revenues	313,357,014	340,698,747	△ 27,341,733
(2) Current expenditures			
Operating expenses	260,148,309	231,261,888	28,886,421
Library and research program	25,346,339	29,316,857	△ 3,970,518
Acquisition	14,176,432	14,675,224	△ 498,792
Publishing	27,738,117	23,456,128	4,281,989
Research dissemination	18,687,765	16,232,185	2,455,580
Academic information service	9,735,111	8,081,856	1,653,255
Regional study program	13,622,639	13,080,084	542,555
Contract research expense	8,080,605	9,243,325	△ 1,162,720
Payroll	102,699,253	82,430,589	20,268,664
Directors' compensation	6,432,000	2,412,000	4,020,000
Wages	73,435,641	62,924,840	10,510,801
Provision for bonuses	5,543,288	4,384,585	1,158,703
Pension expense	5,978,306	4,209,692	1,768,614
Welfare expense	11,310,018	8,499,472	2,810,546
Office expenses	40,062,048	34,745,640	5,316,408
Equipment repairs and maintenance	3,214,846	3,085,874	128,972
Utilities	8,327,461	4,662,664	3,664,797
Rent	367,708	360,213	7,495
Outsourcing cost	2,064,714	1,857,757	206,957
Depreciation expense	18,168,697	16,904,289	1,264,408
Other expense	7,918,622	7,874,843	43,779
Administrative expenses	28,218,925	48,851,944	△ 20,633,019
Payroll	21,029,416	42,133,752	△ 21,104,336
Directors' compensation	4,288,000	8,308,000	△ 4,020,000
Wages	10,910,900	23,167,169	△ 12,256,269
Provision for bonuses	1,405,896	2,771,413	△ 1,365,517
Pension expense	1,907,480	3,091,634	△ 1,184,154
Welfare expense	2,517,140	4,795,536	△ 2,278,396
Office expenses	7,189,509	6,718,192	471,317
Equipment repairs and maintenance	54,943	62,977	△ 8,034
Utilities	122,268	95,156	27,112
Rewards	2,123,900	1,781,010	342,890
Depreciation expense	4,062,236	3,676,847	385,389
Other expense	826,162	1,102,202	△ 276,040
Total current expenditures	288,367,234	280,113,832	8,253,402
Current increase/decrease for this term	24,989,780	60,584,915	△ 35,595,135
<b>2. Nonrecurring Increase/Decrease</b>			
(1) Nonrecurring revenues			
Gain from receiving fixed assets	211,632	394,383	△ 182,751
Total nonrecurring revenues	211,632	394,383	△ 182,751
(2) Nonrecurring expenditures			
Loss on retirement of fixed assets	268,491,667	14,962	268,476,705
Allowance for PCB	24,605,000	0	24,605,000
Expenditure related to demolition	78,425,480	0	78,425,480
Total nonrecurring expenditures	371,522,147	14,962	371,507,185
Nonrecurring increase/decrease for this term	△ 371,310,515	379,421	△ 371,689,936
Pretax general net worth increase/decrease	△ 346,320,735	60,964,336	△ 407,285,071
Corporate tax, inhabitant tax and business tax	70,000	70,000	0
General net worth increase/decrease for this term	△ 346,390,735	60,894,336	△ 407,285,071
General net worth at the beginning of the term	4,371,556,202	4,310,661,866	60,894,336
General net worth at the end of the term	4,025,165,467	4,371,556,202	△ 346,390,735
<b>II SPECIFIED NET WORTH INCREASE/DECREASE</b>			
Change in specified net worth for this term	0	0	0
Specified net worth at the beginning of the term	202,110,494	202,110,494	0
Specified net worth at the end of the term	202,110,494	202,110,494	0
<b>III NET WORTH AT THE END OF THE TERM</b>	4,227,275,961	4,573,666,696	△ 346,390,735



# List of Assets

As of March 31, 2011

(Unit : Yen)

	Account Title		Amount
<b>(ASSETS)</b>			
I	Current Assets		
	Cash and deposit		
	Ordinary deposit at Komagome Branch, The Bank of Tokyo-Mitsubishi UFJ	305,615,943	
	Time deposit at the above bank branch, The Bank of Tokyo-Mitsubishi UFJ	14,000,000	
	Postal transfer account	1,870	
	Accounts receivable		
	Accrued interest on securities, etc.	6,420,486	
	Goods		
	Publication, etc.	4,556,658	
	Prepaid expenses		
	Insurance premium, etc.	956,145	
	Total current assets		331,551,102
II	Fixed Assets		
	(1) Basic assets		
	Library materials		1,041,708,012
	Japanese and Chinese books	515,330 books	
	Western books	364,722 books	
	Copied materials	29,800 items	
	Land		110,494
	Location	2-28-21 Honkomagome, Bunkyo-ku, Tokyo	
	Lot number	2-147-1 Honkomagome, Bunkyo-ku, Tokyo	
	Land category	Building land	
	Area	3,687.63 square meters	
	Guarantee money		50,000
	Guarantee money to Nihon Keibi Hoshō Co., Ltd.		
	Investment securities		2,842,500,000
	Securities to be held to maturity		
	Deposit		115,322
	Ordinary deposit at Komagome Branch, The Bank of Tokyo-Mitsubishi UFJ		
	Total basic assets		3,884,483,828
	(2) Specific assets		
	Buildings		
	Location	2-147,157-2 Honkomagome, Bunkyo-ku, Tokyo	
	Buildings	Construction Steel and Reinforced concrete structure	2,468,097,893
		Building area 1,351.67 square meters	
		Total floor area 6,698.12 square meters	
		Air-conditioning & plumbing, elevator machinery, utilities, etc.	
	Buildings (annex building)	Construction (steel-frame building)	141,956,236
		Building area 216.45 square meters	
		Total floor area 408.14 square meters	
		Air-conditioning & plumbing, elevator machinery, utilities, etc.	
	Structures		39,536,356
	Construction in progress		25,642,570
	Design fee		
	Fixtures and fittings		274,071,816
	Strongbox, etc	52 items	
	Guarantee money		220,000
	Security deposit		
	Allowance for retirement benefits		
	Ordinary deposit at Komagome Branch, The Bank of Tokyo-Mitsubishi UFJ		689,256
	Time deposit at the above bank branch, The Bank of Tokyo-Mitsubishi UFJ		45,000,000
	Allowance for repairs of buildings and equipment		
	Ordinary deposit at Komagome Branch, The Bank of Tokyo-Mitsubishi UFJ		3,580,601
	Time deposit at the above bank branch, The Bank of Tokyo-Mitsubishi UFJ		106,000,000
	Allowance for museum production expenses		
	Ordinary deposit at Komagome Branch, The Bank of Tokyo-Mitsubishi UFJ		607,858
	Time deposit at the above bank branch, The Bank of Tokyo-Mitsubishi UFJ		26,000,000
	Total specific assets		3,131,402,586
	(3) Other fixed assets		
	Fixtures and fittings		9,159,372
	Office furniture, etc.	138 items	
	Library materials		204,874,067
	Japanese and Chinese books	18,157 books	
	Western books	24,967 books	
	Microfilms, etc.	802 books	
	Softwares	9 items	6,072,411
	Telephone rights	5 lines	364,000
	Long-term prepaid expenses		899,962
	Insurance premium		
	Reserve for operation adjustments		
	Ordinary deposit at Komagome Branch, The Bank of Tokyo-Mitsubishi UFJ		13,628,604
	Time deposit at the above bank branch, The Bank of Tokyo-Mitsubishi UFJ		70,000,000
	Total other fixed assets		304,998,416
	TOTAL fixed assets		7,320,884,830
	<b>TOTAL ASSETS</b>		<b>7,652,435,932</b>
<b>(LIABILITIES)</b>			
I	Current Liabilities		
	Accounts payable	Publication printing fee, etc.	4,177,050
	Deposits received	Withholding income tax on employees' wages, etc.	1,139,572
	Allowance for bonuses	Cumulative allowance for bonuses to officers and employees	6,949,184
			80,026,000
	Total current liabilities		92,291,806
II	Fixed Liabilities		
	Allowance for retirement benefits		45,689,256
	Allowance for PCB Payment of expenses for PCB, etc.		24,605,000
	Total fixed liabilities		70,294,256
	<b>TOTAL LIABILITIES</b>		<b>162,586,062</b>
	<b>TOTAL NET WORTH</b>		<b>7,489,849,870</b>

# Income & Expenditure Statement of General Account

from April 1, 2010 to March 31, 2011

Unit: Yen

Account Title	Budget (A)	Settlement (B)	Increase/Decrease (A) - (B)	Remarks
<b>I OPERATING ACTIVITIES</b>				
1. Operating Revenues				
Financial revenue from basic assets	91,000,000	88,251,432	2,748,568	
Donations by Support Society	60,000,000	74,310,000	△ 14,310,000	
Other donations	2,000,000	1,610,000	390,000	
Membership fee received	500,000	297,000	203,000	
Project fee received	20,000,000	16,000,000	4,000,000	
Contract research payment received	12,000,000	10,500,000	1,500,000	
Revenue from research	12,500,000	8,265,292	4,234,708	
Grants, etc.	110,000,000	110,000,000	0	
Other revenue	500,000	3,759,926	△ 3,259,926	
Total operating revenues	308,500,000	312,993,650	△ 4,493,650	
2. Operating Expenditures				
Operating expenses	265,000,000	261,664,004	3,335,996	
Library and research program	31,500,000	25,346,339	6,153,661	
Acquisition	36,200,000	37,017,079	△ 817,079	
Publishing	20,800,000	27,738,117	△ 6,938,117	
Research dissemination	21,500,000	18,687,765	2,812,235	
Academic information service	13,500,000	11,183,001	2,316,999	
Regional study program	20,000,000	14,727,377	5,272,623	
Contract research expense	12,000,000	8,080,605	3,919,395	
Payroll	84,000,000	97,444,547	△ 13,444,547	
Office expenses	25,500,000	21,439,174	4,060,826	
Administrative expenses	42,000,000	22,797,021	19,202,979	
Payroll	39,000,000	19,604,336	19,395,664	
Office expenses	3,000,000	3,192,685	△ 192,685	
Total operating expenditures	307,000,000	284,461,025	22,538,975	
Net operating activities	1,500,000	28,532,625	△ 27,032,625	
<b>II INVESTMENT ACTIVITIES</b>				
1. Investment Revenues				
Doraw down of retirement benefits	0	1,206,000	△ 1,206,000	
Doraw down of allowance for museum production expenses	0	3,399,115	△ 3,399,115	
Doraw down of guarantee money	0	2,215,440	△ 2,215,440	
Doraw down of operating expenses allowance	44,000,000	37,000,000	7,000,000	
Total investment revenues	44,000,000	43,820,555	179,445	
2. Investment Expenditures				
Aquisition of fixed assets	2,500,000	2,873,994	△ 373,994	
Allowance for retirement benefits	5,000,000	7,841,866	△ 2,841,866	
Allowance for repairs of buildings and equipment	23,000,000	23,000,000	0	
Allowance for museum production expenses	15,000,000	15,000,000	0	
Operating expenses allowance	0	23,000,000	△ 23,000,000	
Total investment expenditures	45,500,000	71,715,860	△ 26,215,860	
Net investment activities	△ 1,500,000	△ 27,895,305	26,395,305	
<b>III FINANCIAL ACTIVITIES</b>				
1. Financial Revenues	0	0	0	
2. Financial Expenditures	0	0	0	(Note)
Net financial activities	0	0	0	
Current balance	0	637,320	△ 637,320	
Balance carried over from the previous term	1,042,280	1,042,280	0	
Balance carried forward to the next term	1,042,280	1,679,600	△ 637,320	

(Note) The maximum borrowing limit: 30,000,000 yen

## IV List of Parsonnel

The personnel of Toyo Bunko as of March 31, 2011 are as follows:

### 1. Directors

Title	Name	Present Post
Director General	MAKIHARA, Minoru	Director General, Toyo Bunko; Senior corporate Advisor, Mitsubishi Corporation
Executive Director	YAMAKAWA, Naoyoshi	Executive Director, Toyo Bunko
Directors	FUKUZAWA, Takeshi	Advisor, Mitsubishi Estate Co., Ltd.
	HAMASHITA, Takeshi	Advisor, Library Department, The Toyo Bunko; Prof., Ryukoku University
	HARA, Minoru	Research Fellow, Toyo Bunko Member, The Japan Academy; Prof. Emer., The University of Tokyo
	KUSAHARA, Katsuhide	Former Vice-President, Takushoku University
	MIKI, Shigemitsu	Senior Advisor, Bank of Tokyo-Mitsubishi UFJ, Ltd.
	NAKANE, Chie	Member, The Japan Academy; Prof. Emer., The University of Tokyo
	OSAKI, Hitoshi	Special Advisor to the President, National Institutes for the Humanities
	SATO, Tsugitaka	Research Department Head, Toyo Bunko; Prof., Waseda University; Prof. Emer., The University of Tokyo
	SHIBA, Yoshinobu	Executive Librarian, Toyo Bunko; Member, The Japan Academy; Prof. Emer., Osaka University
	TANAKA, Issei	Head Librarian, Toyo Bunko; Member, The Japan Academy; Prof. Emer., The University of Tokyo
Auditor	TSURUMI, Naohiro	Prof. Emer., Yokohama National University Prof. Emer., Yamanashi Prefectural University
	NISHIMURA, Toshiyuki TOJO, Kazuhiko	Secretary-General, The Mitsubishi Kin'yo-kai Corporate Advisor, The Mitsubishi Corporation

## 2. Councilors

Title	Name	Present Post
Councilors	ARAMAKI, Koichiro	Executive Adviser, Kirin Holdings Co., Ltd.
	ARIMA, Akito	Curator of the Science Museum; Chancellor, Musashi Gakuen; Prof. Emer., The University of Tokyo
	GOTO, Akira	Prof., Toyo University; Prof. Emer., The University of Tokyo
	HAMADA, Junichi	President, The University of Tokyo
	HIRANO, Ken'ichiro	Director General, Japan Center for Asian Historical Records National Archives of Japan Prof. Emer., Waseda University; Prof. Emer., The University of Tokyo
	KISHIMOTO, Mio	Prof., Ochanomizu University
	KUBO, Masaaki	President, The Japan Academy; Prof. Emer., The University of Tokyo
	MANO, Eiji	Prof. Emer., Kyoto University
	MASUDA, Nobuyuki	Advisor, Mitsubishi Heavy Industries, Ltd.
	MATSUMOTO, Hiroshi	President, Kyoto University
	NAGAO, Makoto	Librarian, National Diet Library Prof. Emer., Kyoto University
	NISHIDA, Tatsuo	Member, The Japan Academy; Prof. Emer., Kyoto University
	SEIKE, Atsushi	President, Keio University
	SEYA, Hiromichi	Advisor, Asahi Glass Co., Ltd.
	SHIRAI, Katsuhiko	President, Waseda University
	UMEMURA, Hiroshi	Prof., Chuo University
WANG, Gungwu	Director, East Asian Institute, National University of Singapore	

## 3. Oriental Studies Advisory Council

Title	Name	Present Post
Chairman of the Committee	MAKIHARA, Minoru	Director General, The Toyo Bunko Senior corporate Advisor, Mitsubishi Corporation
	CHIKUSA, Masaaki	Prof. Emer., Kyoto University
	KOZEN, Hiroshi	Prof. Emer., Kyoto University
	MANO, Eiji	Prof. Emer., Kyoto University
	MIMAKI, Katumi	Member, The Japan Academy Former Prof., Kyoto University
	MORIMOTO, Kosei	Abbot Emeritus, Todai-ji
	NAKANE, Chie	Member, The Japan Academy Prof. Emer., The University of Tokyo
	NISHIDA, Tatsuo	Member, The Japan Academy Prof. Emer., Kyoto University



Title	Name	Present Post
Members of the Committee	OZAKI, Yasushi	Former Prof., Keio University
	SHIBA, Yoshinobu	Executive Librarian, The Toyo Bunko Member, The Japan Academy Prof. Emer., Osaka University
	UMEHARA, Kaoru	Prof. Emer., Kyoto University
	YOSHIDA, Junichi	Prof., Waseda University

#### 4. Honorary Fellows

Name	Home Institution
BLUSSE, Leonard	Universite Leiden
DE BARY, W. T.	Columbia University
ELVIN, Mark	The Australian National University (Prof. Emeritus)
HUMPHREYS, R. Stephen	University of California
GERNET, Jacques.	Collège de France
KADIVAR, Mohsen	Tarbiat Modarres University
HAN, Yeong'u	Seoul National University (Prof. Emeritus)
HUANG, Kuanzhong	National Chung Hsing University
KYCHANOV, E.I.	Institute of History and Philology, Academia Sinica Saint-Petersburg Branch of the Institute of Ori-ental Studies of Russian Academy of Sciences
LANCIOTTI, Lionelio	University of Naples (Prof. Emeritus)
LI, Bozhong	National Tsing Hua University
McDERMOTT, Joseph, P.	St. Johns College, Cambridge University
RAFEQ, Abdul-Karim	The College of William and Mary Department of History
SAHIN, Ilhan	Kirgizistan-Turkiye Manas Universitesi
WANG, Gungwu	National University of Singapore

### 5. Personnel, Research Fellows

Department	Title	Name	Remarks and Present Post (*:Research Fellow)	
	Drector General	MAKIHARA, Minoru	Senior corporate Advisor, Mitsubishi Corporation *(Dept. Head, Museum Department)	
	Executive Librarian	SHIBA, Yoshinobu		
	Executive Director	YAMAKAWA, Naoyoshi		
General Affairs Department	Senior Manager	SHIBADAI, Junko	*	
	Manager	FUJIMURA, Yumiko		
	"	MAKI, Yukiko		
Library Department	Head Librarian (Dept. Head)	TANAKA, Issei		
	Advisor	HAMASHITA, Takeshi		* Prof., Ryukoku University
	Senior Manager	AITANI, Yoshimitsu		*
	Manager	SAKURAI, Toru		*
	"	SHINOZAKI, Yoko		*
	"	TACHIBANA, Nobuko		*
	"	YAMAMURA, Yoshiteru		*
Museum Department	Trainee	NAKAMURA, Kuniko	Assistant Director, National Diet Library	
	Senior Manager	MAKINO, Motonori	*	
	"	FUJISHIRO, Kazutaka		
	"	HASEGAWA, Shigehiro		
	Temporary Employee	OKAZAKI, Rena		
Research Department	Dept. Head	SATO, Tsugitaka	* Prof., Waseda University	
	Senior Manager	TAKISHITA, Saeko	*	
	Manager	HARAYAMA, Takahiro	*	
	Research Fellow	OSAWA, Hajime	* Documentation Center for China Studies	
	"	YANAGIYA, Ayumi	* Documentation Center for Islamic Area Studies	
	"	CHIBA, Hiroshi	* Former Director, Toho Gakuin	
	"	CHIKUSA, Masaaki	* Prof. Emer., Kyoto University	
	"	DOHI, Yoshikazu	* Prof. Emer., Kokugakuin University	
	"	HAMADA, Masami	* Former Prof., Kyoto University	
	"	HAMASHIMA, Atsutoshi	* Prof., National Chi Nan University	
	"	HANADA, Nariaki	* Former Prof., Meiji Gakuin University	
	"	HARA, Minoru	* Prof. Emer., The University of Tokyo	
	"	HONJO, Hisako	*	
	"	HOSOYA, Yoshio	* Prof. Emer., Tohoku Gakuin University	
	"	ICHIKO, Chuzo,	* Prof. Emer., Ochanomizujoshi University	
	"	IKEADA, On	* Prof. Emer., The University of Tokyo	
	"	IKEADA, Yuichi	* Prof. Emer., Chuo University	
	"	ISHIZUKA, Harumichi	* Prof. Emer., Hokkaido University	

Department	Title	Name	Present Post
Research Department	Research Fellow	KARASHIMA, Noboru,	* Prof. Emer., The University of Tokyo
	"	KIKUCHI, Hideo	* Former Prof., Chuo University
	"	KUSANO, Yasushi	* Former Prof., Kumamoto University
	"	MAKINO, Motonori	*Senior Manager, Toyo Bunko
	"	MATSUNAMI, Yoshihiro	*Prof. Emer., Taisho University
	"	MATSUMARU, Michio	* Prof. Emer., The University of Tokyo
	"	MATSUMURA, Jun	* Prof. Emer., Nihon University
	"	MIMAKI, Katsumi	* Former Prof. Kyoto University
	"	MOMIYAMA, Akira	* Prof., Saitama University
	"	NAGATA, Yuzo	* Former Prof., Meiji University
	"	NAGAZUMI, Yoko	* Former Prof., The University of Tokyo
	"	NAKAGANE, Katsuji	* Prof. Emer., Aoyama Gakuin University
	"	NISHIDA, Tatsuo	* Prof. Emer., Kyoto University
	"	NOBUHIRO, Shinji	* Prof. Emer., The University of Tokyo
	"	OHTA, Yukio,	* Prof. Emer., Tokyo Gakuhei University
	"	OKADA, Hidehiro,	* Prof. Emer., Tokyo University of Foreign Studies
	"	OOE, Takao	* Prof. Emer., Tokyo University of Foreign Studies
	"	SAKAI, Kenji	* Prof. Emer., Den-en Chofu University
	"	SEKIMOTO, Teruo	* Former Prof., The Institute of Oriental Culture, The University of Tokyo
	"	SHIBA, Yoshinobu	* Executive Librarian, Toyo Bunko
	"	SHIDARA, Kunihiro	* Former Prof., Rikkyo University
	"	SHIMO, Hirotoshi	*
	"	SHITOMI, Yuzo	* Former Prof., The University of Tokyo
	"	SUENARI, Michio	* Former Prof., The University of Tokyo
	"	TADA, Kensuke	* Prof. Emer., Japan Women's University
	"	TAKEDA, Yukio	* Prof., Gifu Shotoku Gakuen University
	"	TAMURA, Koichi	* Prof. Emer., Aoyama Gakuin University
"	TANAKA, Issei	* Prof. Emer., The University of Tokyo	
"	TANAKA, Tokihiko	* Prof. Emer., Tokai University	
"	TOCHIO, Takeshi	* Prof. Emer., Seijo University	
"	TORIUMI, Yasushi	* Prof. Emer., The University of Tokyo	
"	TSURUMI, Naohiro	* Prof. Emer., Yokohama National	
"	WATANABE, Hiroyoshi	* Prof. Emer., Dokkyo Medical University	
"	YABUKI, Susumu	* Prof. Emer., Yokohama City University	
"	YAMAGUCHI, Zuiho	* Prof. Emer., The University of Tokyo	
"	YANAGIDA, Seiji	* Former Prof., Nara University	
"	YOSHIDA, Tora	* Former Prof., Rishso University	

Department	Title	Name	Present Post
Research Department	Research Fellow: Joint Appointments	DANIELS, Christian	* Prof., Research Institute for Languages and Cultures of Asia and Africa, Tokyo University of Foreign Studies
	"	FUKAZAWA, Shinji	* Prof., Wako University
	"	FURUYA, Akihiro	* Prof., Waseda University
	"	GOTO, Akira,	* Prof., Toyo University
	"	HACHIOSHI, Makoto	* Prof., Tokyo University of Foreign Studies
	"	HAMASHITA, Takeshi	* Prof., Ryukoku University
	"	HAYASHI, Kayoko	* Prof., Tokyo University of Foreign Studies
	"	HIRANO, Ken'chiro,	* Prof. Emer., The University of Tokyo
	"	HIROSUE, Masashi	* Prof., Rikkyo University
	"	IJIMA, Taketsugu	* Prof., Komazawa University
	"	IMANISHI, Yuichiro	* Director, National Institute of Japanese Literature Department of Literary Development Studies
	"	ISHIBASHI, Takao	* Prof., Kokushikan University
	"	KASUYA, Gen	* Associate Prof., Graduate School, Ninon University
	"	KASUYA, Ken'ichi	* Prof., Hitotsubashi University
	"	KATO, Naoto	* Prof., Nihon University
	"	KAWASAKI, Shinjo	* Prof., Toyo University
	"	KISHIMOTO, Mio	* Prof., Ochanomizujoshi University
	"	KOMATSU, Hisao	* Prof., The University of Tokyo
	"	KUBOZOE, Yoshifumi	* Prof., Rissho University
	"	MIURA, Toru	* Prof., Ochanomizu University
	"	MOURI, Kazuko	* Prof., Waseda University
	"	NAGASAWA, Eiji	* Prof., The Institute of Oriental Culture, The University of Tokyo
	"	NAKAMI, Tatsuo	* Prof., Research Institute for Languages and Cultures of Asia and Africa, Tokyo University of Foreign Studies
	"	ONA, Yasuyuki	* Prof., Aoyama Gakuin University
	"	OHTA, Nobuhiro	* Associate Prof., Tokyo University of Foreign Studies
	"	SEO, Tatsuhiko	* Prof., Chuo University
"	SHIMAO, Minoru	* Associate Prof., Keio University	
"	TAKADA, Yukio	* Prof., Meiji University	
"	UCHIYAMA, Masao	* Prof., Utsunomiya University	
"	UMEMURA, Hiroshi	* Prof., Chuo University	
"	YAMAMOTO, Eishi	* Prof., Keio University	



Department	Title	Name	Present Post
Research Department	Research Fellow: Joint Appointments	YANAGISAWA, Akira,	* Associate Prof., Waseda University
		YOSHIDA, Mitsuo	* Prof., The University of Tokyo
	"	YOSHIMIZU, Chizuko	
	Temporary Employee	KONDO, Atsuko	* Associate Prof., Tsukuba University

### 6. ■ Research Fellows: Acting Appointments ■

Department	Title	Name	Present Post
Research Department	Research Fellows:	AKIBA, Jun	Associate Prof., Chiba University
	Acting Appointments	AMAKO, Satoshi	Prof., Waseda University
	"	AOKI, Atsushi	Prof., Aoyama Gakuin University
	"	AOYAMA, Rumi	Prof., Waseda University
	"	ARAI, Masami	Prof., Tokyo University of Foreign Studies
	"	ARAKAWA, Masaharu	Prof., Graduate school, Osaka University
	"	ASADA, Shinji	Lecturer., Tokyo Metropolitan University
	"	ASANO, Shugo	Curator of The Museum of Yamatobunkakan
	"	BENNO, Saiichi	Prof., Kanazawa University
	"	EGAWA, Hikari	Prof., Meiji University
	"	FUJIMOTO, Yukio	Prof., Reitaku University
	"	FUJITA, Tadashi	Prof., Kokushikan University
	"	FURUTA, Kazuko	Prof., Keio University
	"	GEN, Zenhei	Prof., St. Andrew's (Momoyama Gakuin) University
	"	HAGITA, Hiroshi	Associate Prof., Tokyo University of Foreign Studies
	"	HAMAMOTO, Mami	Researcher., IAS Center at the University of Tokyo
	"	HASEGAWA, Yoshio	Lecturer, Chiba Institute of Technology
	"	HATTORI, Ryuji	Associate Prof., Chuo University
	"	HAYASHI, Toshio	Prof., Soka University
	"	HIRANO, Satoshi	Associate Prof., The University of Tokyo
	"	HIRASE, Takao	Prof., The Institute of Oriental Culture, The University of Tokyo
	"	HIROSE, Shin'chi	A. T. Kearney. Principal
	"	HOKEN, Hisatoshi	Researcher., The Institute of Developing Economies, JETRO
	"	HORIKAWA, Toru	Prof., Kyoto University of Foreign Studies
	"	HU, Jie	Associate Prof., Nagoya University
	"	HUANG, Donglan	Associate Prof., Aichi Prefectural University
"	IJIMA, Wataru	Prof., Aoyama Gakuin University	
"	IIO, Hideyuki	Prof., Senshu University	
"	IKEDA, Misako	Prof., Nagoya University of Commerce & Business	
"	IKO, Toshiya	Prof., Tsuru University	
"	INOUE, Kazue	Prof., The International University of Kagoshima	
"	INOUE, Kazuto	Deputy Director General, Nara National Research Institute for Cultural Properties	
"	ISHIKAWA, Kan	Lecturer, Waseda University	

Department	Title	Name	Present Post	
Research Department	Research Fellows: Acting Appointments	ISOGAI, Ken'chi	Associate Prof., Otomon Gakuin University	
		KAJITANI, Kai	Associate Prof., Graduate school, Kobe Gakuin University	
		KANAMARU, Yuichi	Prof., Ritsumeikan University	
		KANEKO, Shuichi	Prof., Kokugakuin University	
		"	KATAGIRI, Kazuo	Prof. Emer., Aoyama Gakuin University
		"	KATAYAMA, Akio	Prof., Graduate school, Tokai University
		"	KATAYAMA, Tsuyoshi	Prof., Osaka University
		"	KATO, Hiroyuki	Prof., Kobe University
		"	KAWAI, Shin'chi	Prof., Aichi University
		"	KAWAI, Yasushi	Prof., Graduate school, Tohoku University
		"	KAWASHIMA, Shin	Associate Prof., Graduate school, The University of Tokyo
		"	KEGASAWA, Yasunori	Prof., Meiji University
		"	KIM, Bongjin	Prof., The University of Kitakyushu
		"	KISHI, Toshihiko	Prof., Kanagawa University
		"	KITAGAWA, Takako	Lecturer., Graduate school, The University of Tokyo
		"	KITAMOTO, Asanobu	Associate Prof., National Institute of Informatics
		"	KOHAMA, Masako	Prof., Nihon University
		"	KOJIMA, Yoshitaka	Prof., Kanazawa Gakuin University
		"	KOMINAMI, Ichiro	Prof., Ryukoku University
		"	KOROGI, Ichiro	Prof., Kanda University of International Studies
		"	KOSUGI, Yasushi	Prof., Kyoto University
		"	KUBO, Toru	Prof., Shinshu University
		"	KUMAMOTO, Hiroshi	Prof., The University of Tokyo
		"	KURODA, Takashi	Prof., Graduate school, Tohoku University
		"	KUSUNOKI, Yoshimichi	Associate Prof., University of Tsukuba
		"	MARUKAWA, Tomoo	Prof., The University of Tokyo
		"	MATSUI, Dai	Prof., Hirosaki University
		"	MATSUMOTO, Hiroshi	Associate Prof., Daito Bunka University
		"	MATSUNAGA, Yasuyuki	Associate Prof., University of Tokyo Foreign Studies
		"	MATSUSHIGE, Mitsuhiro	Prof., Nihon University
		"	MITA, Masahiko	Lecturer., Graduate school, Nagoya
		"	MIYAZAKI, Shuta	Prof., Seijo University
		"	MIZUNO, Yoshifumi	Prof., Tokyo University of Foreign Studies
"	MORIHARA, Masahiko	Associate Prof., Graduate school, Kyushu University		

Department	Title	Name	Present Post
Research Department	Research Fellows:	MORIKAWA, Tomoko	Associate Prof., Graduate School, Hokkaido University
	Acting		
	Annointments	MORIYASU, Takao	Prof., Graduate school, Osaka University
	"	MOTONO, Eichi	Prof., Graduate school, Waseda University
	"	MURAI, Shosuke	Prof., The University of Tokyo
	"	MURATA, Yujiro	Prof., The University of Tokyo
	"	NAGANAWA, Norihiro	Associate Prof., The Slavic Research Center, Hokkaido University
	"	NAKAMURA, Motoya	Associate Prof., Tsuda College
	"	NISHI, Hideaki	Associate Prof., Kyushu University
	"	NISHIO, Kanji	Prof., National Defense Academy of Japan
	"	ODA, Hisanori	Prof. Emer., Toyohashi Sozo University
	"	OGAWA, Hiromitsu	Prof., The Institute of Oriental Culture, The University of Tokyo
	"	OHKAWARA, Tomoki	Associate Prof., Graduate school, Tohoku University
	"	OHSAWA, Masaaki	Prof., Sophia University
	"	OHTANI, Shunta	Prof., Nara Women's University
	"	OKANO, Makoto	Prof., Meiji University
	"	OKAYAMA, Hajime	Prof., The Institute of Oriental Culture, The University of Tokyo
	"	OKUMURA, Satoshi	Prof., Metropolitan University
	"	ROKUTANDA, Yutaka	Associate Prof., Graduate school, The University of Tokyo
	"	SAITO, Maori	Associate Prof., National Institute of Japanese Literature Department of Literary Development Studies
	"	SAKURAI, Yumio	Prof. Emer., The University of Tokyo
	"	SAOTOME, Masahiro	Associate Prof., The University of Tokyo
	"	SATO, Fumihito	Associate Prof., Graduate school, Hitotsubashi University
	"	SATO, Hiroshi	Prof., Hitotsubashi University
	"	SATO, Kentaro	Associate Prof., Organization for Islamic Area Studies, Waseda University
	"	SATO, Shin'ichi	Prof., The University of Tokyo
"	SAWAE, Fumiko	Associate Prof., Graduate school, Tohoku University	
"	SEKIO, Shiro	Prof., Niigata University	
"	SHIGECHIKA, Keiju	Prof., Shizuoka University	
"	SHIMIZU, Kosuke	Prof., Kyushu University	
"	SHIMIZU, Nobuyuki	Prof., Aoyama Gakuin University	
"	SHINDO, Yoko	Researcher., Research Institute of Islamic Archaeology and Culture	



Department	Title	Name	Present Post
Research Department	Research Fellows:	SHINMEN, Yasushi	Prof., Chuo University
	Acting	SHIOZAWA, Hirohito	Lecturer, Hosei University
	Appointments	SHOGAITO, Masahiro	Prof., Kyoto Sangyo University
	"	SODA, Saburo	Prof., Graduate school, Hiroshima University
	"	SUKAWA, Hidenori	Prof., Yokohama National University
	"	SUNAYAMA, Yukio	Prof., Aichi University
	"	SUZUKI, Emi	Associate Prof., Organization for Islamic Area Studies, Waseda University
	"	SUZUKI, Hiroyuki	Lecturer, Yamagata Junior College
	"	SUZUKI, Hitoshi	Assistant Director, International Relations and Conflict Studies Group, Inter-disciplinary Studies Center, Institute of Prof., Graduate school, Aichi University
	"	SUZUKI, Ritsuko	Prof., Aichi Gakuin University
	"	TACHIKAWA, Musashi	Prof., The University of Tokyo
	"	TAJIMA, Toshio	Associate Prof., Chukyo University
	"	TAKATO, Takuji	Prof., Kobe City University of Foreign Studies
	"	TAKEUCHI, Tsuguhito	Prof., The Institute of Oriental Culture, The University of Tokyo
	"	TANAKA, Akihiko	Prof., Graduate school, Tokyo Gakugei
	"	TANAKA, Hiroshi	Prof., Osaka University
	"	TANAKA, Hitoshi	Prof., St. Andrew's (Momoyama Gakuin) University
	"	TANG, Cheng	Prof., Waseda University
	"	TANG, Liang	Prof., Graduate school, Kyoto University
	"	TERADA, Hiroaki	Prof., The University of Tokyo
	"	TOKURA, Hidemi	Associate Prof., Shimane University
	"	TOMIZAWA, Yoshia	Lecturer., Rikkyo University
	"	TSUBOI, Yuji	Prof., Chuo University
	"	TSUCHIDA, Akio	Associate Prof., Nanzan University
	"	TSUJIMOTO, Hiroshige	Prof., Daito Bunka University
	"	UCHIDA, Tomoyuki	Prof., Seijo University
	"	UENO, Eiji	Prof. Emer., Reitaku University
	"	UMEDA, Hiroyuki	Prof. Emer., Kyoto University
	"	UMEHARA, Kaoru	Prof., The Slavic Research Center, Hokkaido University
	"	UYAMA, Tomohiko	Associate Prof., Ryukoku University
"	WADA, Yasuyuki	Prof. Emer., National Institute of Informatics	
"	YAMAMOTO, Takeo	Prof., Sophia University	
"	YAMAUCHI, Koichi	Associate Prof., Niigata University	
"	YAMAUCHI, Tamihiro	Prof., The University of Tokyo	
"	YOSHIDA, Nobuyuki		

Department	Title	Name	Present Post
Research Department	Research Fellows:	YOSHIDA, Yutaka	Prof., Graduate school, Kyoto University
	Acting Appointments	YOSHIMURA, Shintaro	Associate Prof., Graduate school, Hiroshima University
	"	YOSHIZAWA, Seiichiro	Associate Prof., Graduate school, The University of Tokyo
	"	YUASA, Tsuyoshi	Senior Fellow., The National Institute for Defense Studies, Japan Ministry of Difence



財団  
法人 東洋文庫年報 2010年度

---

2012年2月29日発行

発行者 東京都文京区本駒込2丁目28番21号

財団法人 東洋文庫  
榎原稔

印刷者 サンワフォーム印刷(株)

東京都豊島区東池袋2-45-2 ステラビル6階

発行所 東京都文京区本駒込2丁目28番21号

財団法人 東洋文庫

---

本書は財団法人東洋文庫に対する2011年度文部科学省補助金の一部によって刊行されたものである。



# Toyo Bunko NENPŌ

Toyo Bunko Yearbook 2010

I	Toyo Bunko's activities in FY2010 .....	133
II	Activities Report .....	136
1.	Surveys and Research .....	136
2.	Source Material Collection and Cataloging .....	146
3.	Research Publications .....	147
4.	Dissemination of Information .....	148
5.	Scientific Information Availability .....	148
6.	Regional Studies Programs .....	151
7.	Contract Research .....	152
III	Accounting Report .....	154
1.	Balance Sheet of General Account .....	154
2.	The Increase and Decrease of General Account's Net Worth .....	155
3.	List of Assets .....	156
4.	Income & Expenditure Statement of General Account .....	157
IV	List of personnel .....	158
1.	Directors .....	158
2.	Councilors .....	159
3.	Oriental Studies Advisory Council .....	159
4.	Honorary Fellows .....	160
5.	Personnel, Research Fellows .....	161
6.	Research Fellows : Acting Appointments .....	165

---

TOYO BUNKO -The Oriental Library-

Honkomagome 2-chome,28-21

Bunkyo-ku, Tokyo,

Japan

---